

ツアルモノニシテ國家ノ保護ナキモ巧妙ナル管理ニ依リテ多大ノ信用ヲ博セリ
(乙)各種組合貯蓄金庫

農業組合、生産組合、倉庫組合等ノ各種組合ニ屬スルモノニシテ彼ノ信用組合及工場等ニ附屬スル貯蓄金庫ヲ包括セリ、信用組合ハ今ヤ獨逸國內ニ於テ其概數一萬六千以上ニ達シ其目的ノ一半ハ實ニ貯蓄ニアリ尙金融機關トシテノ信用組合ニ就テハ後段ニ記載スル所アルヘキヲ以テ茲ニハ工場ノ貯蓄金庫ニ就テ聊カ誌ス所アルヘシ

近時工場事業ノ盛大ナルト共ニ勞動問題喧シク使用人漸ク増加スルト共ニ工場ニ於テ其使用人ノ爲メ其貯金ノ保護及管理ヲナスノ計劃ヲ生スルニ至レリ、此方法ハ巧妙ニ商業上ノ組織ト適應セシメ資金ヲ最モ低廉ニ管理スルコトヲ得且ツ商業ニ最モ熟練セル銳敏ナル人士ノ手ニ之ヲ委スルコトヲ得ルノ利アリ

使用人ノ側ヨリ云ヘハ貯蓄スヘキモノヲ消費スルノ念ヲ少クシ一旦賃銀ヲ受取リテ更ニ之ヲ普通銀行ニ預ケ入ル、間ノ危険ナシ、賃銀ハ之ヲ支給スルニ際シ直ニ相當額ヲ貯蓄金庫部ニ於テ使用人ノ債權ニ記入シ入用ノトキハ引キ出ヲナストモ又貯蓄スヘキモノヲ貯ヘサルトモ何レニテモ可ナリ、此方法ハ獨逸ニテ殊ニ著シク發達セルモ其方法ノ任意的ナルモノト強制的ナルモノトノ二種アリ、任意的ノモノニアリテハ雇主ハ事業ト連絡セル貯蓄金庫部ニ於ケル預金證書ヲ以テ其使

用人ニ支拂ヲナスコトヲ得使用人ハ任意ニ之ヲ即時ニ引出スコトヲ得 強制的ノ制度ニ在リテハ雇主ハ賃銀ノ一定ノ歩合ヲ一定期限内預金トシテ殘スヘキヲ求ム、商店ノ多クハ任意的制度ヲ採用シテ使用人ヲシテ成ルヘク貯金ヲ爲サシメント誘導シ之レカ爲メニハ或ハ一定ノ年限間其賃銀ノ平均額ノ五分ヲ預ケ入レシ後ハ其ノ賃銀額ノ五分ヲ預金ニ附加スヘシト云ヒ或ハ一年間毎月一「マルク」ヲ預入レシ勞動者ニハ其年末二十二「マルク」ヲ附加スヘシト云フカ如シ、工場貯蓄金庫ニテハ其利息概シテ高歩ニテ多クノ場合ニ六歩ナリ中ニハ之ヨリ重キモノアリ若シ工場ノ營業利益カ左程無カリシ時ハ其差額ハ工場ノ負擔トナルナリ

以上各種貯蓄機關ニ於テ蓄積セル零細ノ貯金ハ甚タ巨額ニ達シ其莫大ナル資金ハ殆ント皆各地ノ産業資金ニ使用セラル獨逸經濟力ノ發達實ニ偶然ニ非サル也

第四節 不動産信用機關

獨逸帝國ニ於ケル不動産信用機關ハ之ヲ四種ニ分ツコトヲ得

- (一) 地主組合 (Landschaften)
- (二) 邦立土地信用銀行 (Landes banken)
- (三) 株式不動産銀行 (Bodenkredit-Aktienbanken)

(四) 地代銀行 (Rentenbanken)

ニシテ地主組合ハ組合員ニ限り主トシテ大農地ニ資付ケ、邦立土地信用銀行ハ主トシテ中小級地主ヲ對手トシ、株式組織ノ銀行ハ主ニ市街地ニ對シテ貸出シ、地代銀行ハ隸農關係ノ解除ヲ目的トシテ成立セルモノトス

(一) 地主組合

地主組合ハ獨逸ニ於ケル不動産金融機關中最古ノモノニ屬シ資本ヲ有スルコトナク又配當ヲ爲スコトナシ、其最初ハ千七百七十九年ニシンシエンニ設立セラレタルニ起リ其設立ノ目的ハ七年戰爭ニ依ル地主ノ困弊ヲ救済スルニ在リテフレデリック大王ノ保護ノ下ニ柏林商人ビューリング (Bühning) ニ依リテ設立セラレタリ。此組合ハ相互救助ノ精神ニ基ツク地主ノ組合ニシテ始メハ一州ノ地主ヲシテ強制的ニ之ニ加入セシメタルモ今日ハ任意組合トナレリ、組合員ハ連帶無限責任ヲ以テ信用ノ基礎トナスト雖モ實際上大ナル危険ヲ其間ニ存スルコトナシ、其存立ヲ全ウスル所以ハ債券ノ發行及貸付金ノ回收ニ關シテ種々ノ特權ヲ有シ且ツ政府ノ命令ニヨリテ設立セラル、ニ在リトス、故ニ此組合ハ稍々公立銀行ニ類ス、組合員ハ法律ノ定ムル所ニ依リ組合ニ關スル事件ニ對シテハ常ニ輕少ナル報酬ヲ以テ之ニ服スルノ義務ヲ有シ若シ違反スレハ科料ニ處セラル、貸付資金ノ出處ハ全ク發行債券ヲ基トシ唯ニ資本ヲ有セサルノミナラス預金ヲモ受取ルコトナク債券ハ貸付金ニ比例シテ發行セラル、此組合ノ

發行スル債券ノ利率ハ大抵年三分五厘乃至四分ニシテ比較的安全ナルヲ以テ公衆ニシテ此債券ニ應募スル者多ク組合ハ貸付資金ニ窮スルコト甚稀ナリトス。前陳ノ如ク營業上ノ純益ハ配當スルコトナキヲ以テ借入費用ヲ輕減セシメテ借主ノ負擔ヲ少クスルニ止マリ他ノ銀行ノ如ク多額ノ利益ヲ占メンカ爲メニ危険ナル事業ヲ取ルノ必要ナク又利率ヲ高ムルノ必要ナシトス、故ニ此組織ニ於ケル組合ノ利益ハ能ク借主ノ利益ト一致スルモノナリ。サレト此組合ノ缺點トスル所ハ舊式ノ組合ニ於テハ其貸付ヲ直接ニ農民ニ行フコトナキノミナラス新式組合ト雖モ其恩澤ヲ小農ニ及ホス能ハサルニ在リ、即國民ノ大多數ナル十八英丁以下ノ土地所有者ハ毫モ此種組合ノ恩澤ヲ蒙ル能ハスト云フ

此組合ノ貸付ハ普通ニハ不動産價格ノ半額ニ限り例外トシテ三分ノ二迄ノ貸付ヲ爲ス、但シ後者ノ場合ニハ不動産價格ノ半額ヲ超過スル部分ニ對シテハ年賦償還額ヲ多クセリ、地主組合ノ貸付利率ハ年四分乃至四分五厘ニシテ貸付最低額ハ千五百マルクナリ

此種組合ノ發行セル抵當債券流通高ハ千八百八十一年ニハ十四億マルク千八百八十九年ニハ十八億「マルク」ヲ算セリ、此組合ハ千八百七十二年ニハ各自ノ利益ヲ擴張スルノ目的ヲ以テ一ノ中央組合 (Centralandschaft) ヲ設立セリ、此中央組合ハ其組合員タル組合ノ計算ニ於テ抵當債券發行ノコトヲ委任セラレタル一種ノシンデケートニ外ナラス、而シテ現今(一九〇七年)普國內ニ存在スル地主組合ハ大小十四ヲ算シ其作業資本六千三百五十三萬四千「マルク」抵當債券二十九億二千八百八十九萬五千

「マルク」ニ達セリ

尙地主組合ニハ私設ノモノアリテ私立地主組合 (Landschaftsähnliche Pfandbriefanstalten) ト稱ス之ハ各市ニ一箇宛存シ至ク私法人組織ニシテ主トシテ市街地及建物抵當ノ貸付ヲ爲スモノ、如シ

(二) 邦立土地信用銀行

邦立土地信用銀行ハ各聯邦、州自身ノ設立及保證ニ係ルモノニシテ其營業ハ不動産抵當貸付及公共團體貸付ナリ、主トシテ中小級農民ノ機關トシテ活動シ、傍ラ手形ノ割引並ニ預金受入ノコトヲモ爲セリ、此銀行ノ貸付ハ不動産價格ノ半額ニ限リ其以上ノ貸付ヲ爲ス場合ニハ半額ヲ超過スル部分ハ十五年以内ニ償還セシムルコト、ナセリ、貸付利率ハ三分五厘乃至四分ニシテ債券利率ハ普通三分五厘ナレ共三分二厘五毛ノ利率ヲ以テ發行ヲ爲セル銀行モアリタリ、此種ノ銀行ハ理論上ヨリ觀察スレハ自己ノ利益ヲ第二次トシ利率ハ其機關ノ存立ヲ維持スル丈ケニ止マルヲ以テ債務者ノ負擔輕易ナリト云ハサルヘカラスト雖モ事實ニ於テハ獨逸ノ或地方ニ於ケル外ハ好成績ヲ呈セスシテ完全ナル金融機關ト稱スル能ハサルナリ。此銀行ノ事務執行ノ任ニ當ル者ハ其地方ノ吏員ニシテ若シ能ク忠實ナル者タラハ或ハ可ナリト雖モ通常資金集收ノ方法ニ關シ監督検査ノ費用、損失ノ危険ヲ防カンカ爲メニ設ケラレタル過細ナル規則等ハ一般ニ此種銀行ノ發達擴張ヲ妨害スルヲ常トス。然レトモ此種銀行ハ土地銀行ノ性質カ尙ホ未タ善ク世人ニ知ラレサル地方ニ適ス何トナレハ斯カル地方ニアリテハ銀行株主

或ハ其役員ハ唯一時ノ利己心ヨリ徒ニ利益配當ノ多カラシムコトヲ欲シ投機事業ニ出資ヲ爲スニ至ルヤモ保スヘカラストスル場合ニアリテハ事務ノ敏活ヲ缺クテ恐ルヨリ寧ロ十分ナル制裁ヲ設ケ完全ヲ計ルヲ以テ第一ト爲サルヘカラストヲ以テナリ。此種銀行ハ種々ノ特權ヲ有シ其文書ハ公證力ヲ有ス故ニ此銀行ハ一ノ行政機關ノ如ク思推セラル。此種銀行ノ數ハ千八百九十八年ニハ十五行ヲ算シ債券發行高七億四千萬「マルク」ニ達セシカ最近ニ至リテハ十七行ニ達シ其債券發行高等左表ノ如シ

(1) 貸付

總 貸 付 高	一九〇〇年	比	一九〇九年	比
內 譯	九九五、二九八、七七一 ^{マルク}	一八一	一、九四二、一六三、九三三 ^{マルク}	二〇〇
抵 當 貸 付	五四八、三五三、七三〇	一〇〇	九七〇、九三六、三四八	一〇〇
公共團體貸付	二四六、六八三、九四七	四五	八〇五、四五一、六五五	八三
區別報告ナキモノ	二〇〇、二六一、〇三九	三七	一六五、七四八、九三〇	一七

(2) 債券

債券流通總額	一九〇〇年	比	一九〇九年	比
內 譯	八六四、三五九、〇七一 ^{マルク}	一〇〇	一、七七八、七〇〇、〇六七 ^{マルク}	一〇〇
利 子	一三三、一八三、五〇〇	一五	五七七、三九六、七〇〇	三三

利子	3 1/2%	一一、四八五、八〇〇	一	一五六、八五一、五一二	九
同	3 1/2%	五六六、九三八、一八六	一	二六、二三八、〇〇〇	一
同	3 1/2%	一四、五八三、六〇〇	二	八九五、七七六、〇五五	一
同	3 1/2%	八六、〇六八、一〇〇	一〇	一四、一二七、〇〇〇	一〇
同	3 1/2%	五三、〇五二、三〇〇	六	六二、二九七、二〇〇	四
同	3%			四六、〇一五、六〇〇	三

五九〇

右ノ外尙ホ左ニ舉クル公立土地信用機關ノ存スルアリ

一 柏林市立勸業機關 (Berliner Pöandbrief Institute für Städtische Hausgrundstücke) ハ稍々地主組合ニ

類スル公設機關ニシテ都市ノ土地ヲ抵當トシテ貸付ヲ行フ信用機關ニシテ千八百六十八年ノ創設

ニ係リ普國政府ノ監督ヲ受ケ特ニ柏林市參事會ノ嚴重ナル監視ノ下ニ在リ

一 州立救助金庫 (Provinzialhilfskassen) ハ各州ニ一箇存在スル州立抵當信用機關ニシテ一般土地抵

當貸付ヲ爲シ州ハ無限ノ責任ヲ負フ、設立ノ當初其他必要アル都度州自ラ營業資本ヲ供給シ且ツ

設立ノ當初ニ於テハ國家ヨリモ資本ノ無償交附ヲ受ケタリト云フ

一 町村貯蓄金庫 (Communalsparkassen) ハ市又ハ郡ニ各一箇宛設立セラレ普通ノ貸付ノ外ニ土地抵

當貸付ヲ行フ

土地ハ都市郡村ノ兩者ニ及ヘリ

(三) 株式不動産銀行 (Bodenkredit aktienbanken)

株式、不動産銀行ハ其形式一般ノ株式銀行ト相類セリ、唯此種ノ銀行ハ其信用及運用ノ上ニ於テ特別法ノ規定スル處ニ依リ債務ヲ發行スルノ能力ヲ有シ之ヲ基礎トシテ土地ニ對シ其株式資本以外巨額ナル貸付ヲ爲スヲ以テ普通銀行ト類スルノ點ト爲ス、株式不動産銀行ハ現今獨逸ニ於ケル不動産信用機關中ノ主要部ヲ占ムルモノナリ、即株式銀行ノ貸付ハ獨逸各種不動産信用機關ノ諸貸付ノ約三分ノ二ヲ占メ居レリ。此種銀行ハ千八百三十四年以來獨逸ニ起リタルモノニシテ最初ニ抵當債券發行ヲ許サレタルハバイエルンノ不動産及爲替銀行ナリトス、而シテ此種銀行ハ最初特別法ニ支配セラレス唯一般法ニヨリテ營業ヲ爲シタリシカ普國ニ於テ千八百六十三年不動産銀行條例ヲ發布シ後千八百六十七年及千八百九十三年ニ之カ改正ヲ加ヘタリ、而シテ此條例ハ貸付ハ村落地ニテハ其價格ノ三分ノ二迄市街地ニテハ其二分ノ一葡萄酒森林及植物園ニ對シテハ三分ノ一迄ニ限り、抵當債券ノ額ハ資本金ニ比例スヘク而シテ如何ナル場合ニモ銀行力有スル抵當債權額ヲ超過スヘカラサル事ヲ定メタリ、此銀行ノ發行スル債券ノ利率ハ三分二厘乃至四分貸付利率トノ差ハ五厘位ナリトス、其額面ハ百「マルク」以上三千「マルク」位ニテ普通ハ五百「マルク」ナリ、其債券ノ信用ハ甚タ高クシテ殆ント公債ニ均シク其買入者ハ多ク保險會社及貯蓄金庫等トス、債券ノ償還年限ハ普通隨意ニシテ十年以内ヲ據置ト爲シ居レリ年賦貸ノ期限ハ一定セサルモ普通ハ五十箇年乃至八十箇年ニシテ稀ニ三十年位ノモノモ存セリ、

五九一

尙ホ年賦金額ハ主トシテ收益ル標準トシテ定メ宅地ハ其賣買金額ヲ標準ト爲シ居レリ無抵當貸ハ公共團體ノミニ限レリ

此種ノ銀行ノ貸出ハ前記ノ如ク主トシテ市街地ニ在ルヲ以テ商業資金大部分ヲ占メ建築ノ爲メノ資金ハ其次位ヲ占メ居レリ、要スルニ不動産サヘ抵當ト爲セハ何人ニモ貸付ヲ爲ス即チ資本家ト土地所有者トノ間ニ於ケテ媒介機關ナリトス

之等株式不動産銀行ノ發達ハ甚タ著シク千八百九十五年ニ其株式資本總額ハ四億四千萬「マルク」ナリシカ千八百九十八年ニハ六億以上ニ達セリ、又其債券流通總額ハ千八百八十一年ニハ十六億九千五百萬「マルク」ナリシカ千八百九十八年ニハ五十七億五千五百萬「マルク」ニ達シ千九百八年ニハ實ニ九十九億六千二百萬「マルク」ノ多キニ達セリ

株式不動産銀行ハ全國内ニ三十九行アリ之等銀行ハ互ニ獨立シ何レモ特別ノ權ヲ利有スルコト無ク全ク自由競争ノ地位ニ立テリ

以上ノ外普通銀行貯蓄銀行及保險會社等ノ不動産貸出近年非常ニ増加シ稍不動産銀行ト競争ノ姿ニ在リ

今左ニ上記各種ノ不動産信用機關ノ景況ヲ數示スヘシ

(千八百九十八年、單位「マルク」)

種類	資本金	貸付金	債券	積立金
公立銀行	—	八四〇、〇六四、七五元	七四八、六八一、七七一	三七、九五五、八四一
株式不動産銀行	六八、〇六四、四四	六、〇〇〇、〇〇一、九三六	五、七五九、一〇五、〇七九	一四、〇六六、四七三
地主組合	—	一一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、九六六、八〇一、三三六	三三、三六、〇〇七
計	六八、〇六四、四四	八、〇〇〇、〇六六、六八六	八、四四四、〇六六、五三三	三〇、〇六六、九二一
貯蓄銀行	—	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	—	—
總計	一一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—

(四) 地代銀行 (Rentenbank)

地代銀行ハ純然タル不動産信用機關ニ非スシテ其目的トスル所ハ隸農關係ノ解除ニ在リ、其後地代農地設定ノ媒介ヲモ爲シ其作用ハ彼ノ千八百八十三露國政府ノ設立シタル露國農民土地銀行 (Russian Peasants Land Bank) ト稍々類似ノ點ヲ有セリ今左ニ地代銀行ノ大體ヲ説明セントス

(I) 沿革

地代銀行ハ一名地代的債務解除銀行若クハ舊債償還銀行 (Ablosungskassen, Tilgungskassen) ト稱ス、國設ノ信用機關ニシテ始メ獨逸ノ隸農關係解除ノ仲介機關トシテ現出シ後一八九〇年地代農地法ノ制定セラル、ヤ地代農地設定ノ媒介ヲモ爲スコト、ナリ一八九六年一子相續法ノ發布セラル、ヤ相續人ノ他ノ共同相續人ニ對スル賠償支拂ノ仲介ヲモ司ルコト、ナレリ。抑々此隸農關係ハ封建制度ノ遺物ニシテ十八世紀ノ末葉ニ至ル迄歐洲諸國ニ行ハレタルモノナリ、當時農民ハ今日ノ如ク土地ノ所有權

及經營方法ニツキテ自由ヲ有セス著シク領主若クハ地主ノ拘束ヲ受ケ却テ農民カ土地ノ附屬トシテ世襲的ニ領主若クハ地主ニ隸屬セシモノナリ、即其年少時代ニハ一般ニ主家ノ僕婢トナリテ稼穡薪水ノ勞役ニ服シ長シテハ譜代ノ農民トシテ賦役ニ服シ貢租ヲ上納スルノ義務アリ。然ルニ此制度ハ十八世紀末葉ヨリ漸次勃興シ來レル自由平等ノ思想ト相容レス且ツ政治上中央集權ノ制發達シテ地方ニ散在スル領主ノ權力漸次減殺セラル、ニ及ヒテ、各國ニ於テ隸農關係ノ廢止農民ノ解散土地ノ解放等盛ニ唱導セラレ遂ニ其實行ヲ見ルニ至レリ

農民カ領主ニ對スル賦役及貢租ノ義務ヲ免レ完全ナル土地ノ所有權ヲ獲得スルニハ一定ノ賠償(一八二一年普國法ニ依レハ農民ノ義務ノ見積年額ノ二十五倍)ヲ支拂ハサルヘカラス、然ルニ實際上農民ハ現金ヲ以テ其賠償ヲ支拂ヒ得ルモノ極メテ少ナク而カモ他ヨリ所要ノ資金ヲ借入ル、事容易ナラサルニ一方領主ハ已ニ多大ノ負債ヲ負ヒ賠償金ノ一時ニ支拂ハル、事ヲ望ムノ事情アリ、是ニ於テカ國家ハ地代銀行ナルモノヲ設ケ以テ賠償金授受ノ仲介ヲ爲シ、債權者(即領主若クハ大地主)ニ對シテハ賠償金額ニ相當スル債權(地代債券)ヲ交附シ其現金ヲ要スルモノニハ該債券ヲ市場ニ賣却シテ直ニ現金ヲ手ニスルヲ得セシメ、債務者(解放セラレタル農民)ヨリハ年々一定ノ地代ヲ徴シ之ニヨリテ地代債券ノ利子ヲ支拂ヒ且ツ之ヲ償却スルモノトセリ

此種ノ機關ハ其名稱ヲ異ニスト雖モ殆ント凡テノ獨逸聯邦ニ設立セラレタリ、今其二三ノ例ヲ舉ケレ

ハザクセン王國ニテハ一八三二年三月十七日公布ノ法律ニヨリ、バイエルン王國ニテハ一八四八年六月六日公布ノ法律ニヨリ其設立ヲ見タリ、又普魯西王國ニテハ一八五〇年三月二日「地代銀行設立法」公布セララル同法第一條ニ曰ク

地代的負擔及從來債權債務兩者間ニ存在セシ法律上ノ關係ヲ解除セシムル爲メ各州ニ地代銀行一行ヲ設立スルコトヲ得ト

所在地

營業區域一州

- ケーニヒスベルヒ市
- ベルリン市
- ステツチン市
- ボーゼン市
- ブレスラウ市
- マグデブルヒ市
- ミュンスター市
- 東及西プロイセン
- ブランデンブルヒ及ベルリン市部
- ボンメルン及シュレスギツヒホルスタイン
- (ラウエンベルヒ公國ヲ含ム)
- ボーゼン
- シュレージエン
- ザリゼン及ハンノーフェル
- ウエストフアーレンライン及ヘツセン、ナツサウ

其後地代銀行設立ノ目的モ略達セラレタルヲ以テ普魯西王國政府ハ一八五八年四月二十六日ノ法律ニ依リ新ニ契約ヲ結フコトヲ中止セシメタリシカ一八九一年七月七日ノ「地代農地設定促進法」ニヨリ其前年(一八九〇年)發布セラレタル地代農地設定法ノ趣旨ニ從ヒ新ニ地代農地ヲ設定セントスルモノニ助力セシムルコト、ナレリ

地代農地 (Rentengüter) トハ之カ所有權ヲ得ルニ買入代金ノ一時拂ヲ以テセス年々一定ノ地代ヲ支拂フニヨリ之ヲ得ルノ農地ヲ云フ、從來普魯西ニハ大農制度行ハレ爲メニ中等農ノ發達著シク阻害セラレシヲ以テ、其弊ヲ救ハンカ爲メニ國家ハ巨額ノ基金ヲ支出シ大地主ノ地代農地設定ヲ助ケ又ハ其所有地ヲ買入レテ之ヲ中小農場ニ細別シ之ヲ希望者ニ拂下ケ以テ中小獨立農ノ増殖ヲ計レリ。而シテ之ヲ實行スルニ當リテハ總務委員會ノ命令ニ依リ、一方地代銀行ヲシテ地代債券ヲ發行シ大地主ニ對シテ土地ノ買入代價ヲ支拂ハシメ、他方ニハ地代農地獲得者ヨリ年々一定ノ地代ヲ徴シ之ヲ以テ地代債券元利ノ償却ニ充テシムルコト前ノ隸農關係解除ノ場合ト同一ナラシム。之ニ依リテ當時多クノ負債ヲ負ヘル大地主ハ所有地ノ賣却ニヨリテ一時ニ之ヲ償却スルヲ得又薄資ニシテ然モ農事ニ熱心ナル中小農民ハ借財ヲ爲スコトナクシテ地主トナルコトヲ得タリ

地代銀行ノ業務ハ其後一八九六年六月八日公布セラレタル「地代農地及内國移住農地相續法」ニヨリ一層擴張セラレ相續人カ他ノ共同相續人ニ對スル償還金支拂ノ媒介ヲモ爲シ得ルコト、ナレリ

II) 總務委員會 (Generalkommissionen)

大地主カ地代農地ヲ設定シ農民カ地代農地ヲ獲得スルニ當リ地代銀行ヲ利用スルヤ否ヤハ全ク該當事者ノ自由ニ屬ス、而シテ地代銀行カ其業務ヲ執行スルニ當リテハ總務委員會(土地整理局)ノ指揮監督ヲ受ケ且ツ保護ヲ受クルモノナリ(一八五〇年三月二日法律第四條及第十二條)

總會ノ委員會ハ一八一七年隸農關係改革ノ爲メニ設置セラレ爾來屢々農事改良ノ補助機關ニ利用セラレタルモノニシテ、地代農地ヲ設定スルニ當リ其職トスル所ハ、農場ノ地位氣候及地味等ヲ検査シテ地代農場設定ノ便否ヲ明ニシ、便宜ト見レハ該設定地ノ實測區劃其他ノ計畫ヲ立テ、農場設定人及引受人ノ間ニ立チテ其取引ヲ媒介シ、又必要ナリト認メタル場合ニハ灌漑排水ノ設備各種ノ建築種子種苗ノ購入、各種組合ノ設置等ニ助力ス、斯ノ如キ國家ノ保護斡旋ニ對シテハ地代農場獲得者モ亦相應ノ義務ヲ負ハサルヘカラス、即地代農場主ハ地代年限内ニ屬スル農場ノ分割賣却並ニ合併ニ就テハ必ス先ツ總務委員會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス、地代銀行ノ貸付ニ係ル建築資金ノ使用及建物ノ保存ニ關シテハ一切該委員會ノ監督ヲ受ケサルヘカラス、加フルニ該委員會ハ地代農場主ニ不都合ノ處置アリト認ムル場合ニハ地代銀行貸付金全部ノ返濟ヲ隨時要求スルノ權アリ、又該委員會ノ媒介ニヨリ設定セラレタル地代農場ニ對シテハ一八九六年以來一子相續法實施セラレ該農場ノ分割相續並ニ一定ノ近親以外ニ對スル基金部賣却ハ一切總務委員會ノ許可ナクシテ行フ能ハサルコト、ナレリ

(III) 地代銀行ノ業務

地代銀行ハ總務委員會ノ移牒ニ依リ始メテ地代的債務ノ解除若クハ地代農地ノ設定ニ關與ス
普魯西ノ地代銀行ハ一八五〇年ノ法律ニ依リ地代的債務解除ノ媒介ヲ爲スニ當リテ債權者ニ支拂フヘ
キ額ヲ總務委員會ノ定メタル地代ノ二十倍ト定ム、而シテ其支拂ハ現金若クハ地代債券ヲ以テス地代
債券ハ四分利付ニシテ額面ヲ以テ交付ス、又地代銀行ハ債務者ヨリ年々地代ヲ徴ス、此地代中ニハ利
子及減償償還金ヲ含有セルモノト見做サル、モノニシテ四十一年一箇月ニシテ債務者ハ銀行ニ對シテ
地代支拂ノ義務ヲ免除セラル、又債務者ハ其都合ニ依リテ年々地代ノ十分ノ九ヲ支拂ヒ債務完済ノ期
限ヲ五十六年一箇月ニ延長スルコトヲ得

地代銀行ハ其債務ニ對シテ支拂フ利子(四分)ト債務者ヨリ徴スル地代(五分)トノ間ニ一分乃至五厘
(地代ノ十分ノ九ヲ徴スル場合)ノ差額ヲ得、故ニ之ヲ以テ債券償還ノ資ニ充ツ地代債券ハ無記名ニシ
テ法律上ノ諸料金保證金トシテ受納セラレ又公ノ諸機關ノ基金トナスコトヲ得、サレハ其流通極メテ
圓滿ニ行ハレ其市場價格ノ如キモ常ニ普魯西公債ト伯仲ノ間ニアリ

一八九一年ノ法律ニ從ヒ地代農地設定ノ媒介ヲ爲スニ當リテハ地代銀行ハ總務委員會ノ通知ニ依リ地
代農地設定者ニ對シテ四分利付地代債券若シクハ三分五厘利付地代債券ヲ額面價格ヲ以テ交付ス、而
シテ地代農地ノ價格ハ前者ノ場合ニハ地代ノ二三、六六倍トシ後者ノ場合ニハ二七倍トス、地代農地

獲得者ハ其引受ケタル農地ニ對シテ地代銀行カ四分利付債券ヲ發行シタル場合ニハ地代銀行ニ對シテ
年四分五厘ノ地代ヲ支拂ヒ五十六年一箇月ニシテ其債務ヲ免除セラレ、又地代銀行カ三分五厘利付債
券ヲ發行シタル場合ニハ之ニ對シテ年四分ノ地代ヲ支拂ヒ六十年半ニシテ其債務ヲ免除セラル、斯ク
シテ規定ノ年限ヲ經過スルトキハ地代農地獲得者ハ完全ナル地主トナルコトヲ得、地代銀行カ債務者
ヨリ徴スル年賦金ハ租税ト同位置ニ立ツモノニシテ且ツ之ト同時ニ徴收セラル、土地ニ對スル他ノ一
般ノ要求權ニ對シテ優先權ヲ有ス

普魯西ニ於ケル地代銀行ノ營業基金ハ同銀行設立法第三條ニ基キ國庫ヨリ支出セラル、モノナリ、而
シテ此資金ヲ運用シテ得タル利息及其他ノ收入ハ合セテ之ヲ積立金トス此積立金ハ一九〇九年末日ニ
於テ二千三百萬馬克ニ達セリト云フ

一九〇〇年七月十二日「他代農地設定ニ關スル中間信用貸付法」ナルモノ發布セラル、之ニ依レハ總
務委員會ハ此ノ積立金中ヨリ千萬馬克ヲ超過セサル範圍ニ於テ地代農地ヲ設定セントスル土地ノ負ヘ
ル諸負擔ノ解除及建物作業場ノ建築等ニ對シテ流用貸付ヲナスコトヲ得後此範圍ハ擴張セラレ地代農
地設定經過中ニ於ケル管理費土地改良費其他之ニ類スル目的ニ向ツテ使用シ得ルコト、シ其額モ千五
百萬馬克ニ増額セラレタリ

(IV) 地代銀行ノ效果

地代銀行ノ效果トシテ舉ケラル、モノ次ノ如シ

- (一) 永世ニ互リ地代支拂ノ義務ヲ負ヘルモノハ地代銀行ノ利用ニ依リ其債務ヨリ免ル、ヲ得ルコト
- (二) 地代債券ハ國家機關ノ發行ニ係ルヲ以テ低利ナルヲ得、從テ此ヲ利用スルコトニヨリ債務者ハ私人若クハ私立ノ金融機關ニ利用シタル場合ニ支拂フヘキ利子ニモ足ラサル小額ノ年賦金ヲ支拂ヒ以テ四十年乃至六十年ノ後ニハ全然債務ヲ免ルコトヲ得
- (三) 容易ニ土地所有者トナル望ミナキ小農モ此制度ニヨリテ地主トナルコトヲ得
- (四) 此制度ハ又大地主ニモ利益アリ、即チ債務者ノ支拂能力ニツキテ心ヲ勞スルノ要ナク、又長期ニ互リテ年々少額ノ地代ヲ徴スル代リニ一時ニ巨額ノ資本換算額ヲ受取ルヲ以テ之ヲ土地購入舊債償還土地改良等ノ資ニ供スルヲ得
- (五) 地代銀行徴ツセハ今日獨逸國ノ小農ノ負ヘル不動産負債ノ額ハ現在額ヨリモ約三億馬克多カリシナラン

(V) 地代債券發行額及流通額

一九〇年十月一日現在、普魯西國ノ地代銀行(七行)ノ發行セル地代債券ノ總額及同上流通總額ヲ見ルニ次表ノ如シ

地代債券發行總額

六三一、二七五、二一〇

內譯

- 一八五〇年三月二日法律ニ依ルモノ 五〇九、四九〇、四一五
 - 一八九一年七月七日法律ニ依ルモノ(地代農債券) 一二一、七七一、四四五
 - 一八九六年六月八日法律ニ依ルモノ(相續賠償地代債券) 一三、三五〇
- 右ノ内一九〇九年十月一日迄ニ償却セラレタルモノヲ除キ現ニ流通セルモノ次ノ如シ
- 地代債券流通總額 二八一、五七八、二六〇

內譯

- 一八五〇年法律ニヨルモノ 一六九、二六一、五四五
- 地代農地債券 一一二、三〇四、一〇〇
- 相續賠償地代債券 一二、六一五

第五節 信用組合緒言

千八百八十九年五月一日ノ産業組合法ハ信用組合、原料組合、販賣及倉庫組合、生産組合、消費組合、購買組合及建築組合等ヲ認ムルモ金融機關トシテ舉クヘキモノハ實ニ信用組合ナリトス、此法律ニ認ムル信用組合ハ區裁判所ニ登記ヲ爲セル社團法人ニシテ組合員ニ信用ヲ與フルコトヲ目的トスルモノ

ナリ。登記ナキ信用組合ハ産業組合法ノ認ムル所ニ非シテ産業組合トシテノ權利ノ主體タルコトヲ得ス唯普通民法ノ支配ヲ受クルニ止マル、又信用組合ハ組合員ノ團體ニシテ資本ノ團體ニ非ス組合ノ基本ハ株式會社ノ如キモノト異ナリ人ニ在リテ資本ニ在ラス各組合員カ平等ニ一箇ノ議決權ヲ有スル實ニ此結果ナリ

信用組合ノ一方ノ創設者タルシユルツエデーリツチ (Schlichte-Delitsch) 及之ニ屬スル一派ハ信用組合ノ發達ハ徹頭徹尾組合員ノ自治ノ精神ニ在リトシ國家ノ保護乃至干涉ハ組合ノ發達ヲ妨害スルモノナリトノ見地ニ在ルニ拘ハラス事實ニ於テハ獨逸諸國聯邦ハ何レモ社會政策ノ見地ヨリシテ信用組合ヲ始メ各種産業組合ノ發達ヲ獎勵シ運轉資金ノ供給ヲ與フルニ躊躇セス、唯シユルツエデーリツチノ主義ヲ抱持スル産業組合ハ専ラ組合員ノ貯金ニ依リテ資本ノ充實ヲ爲シ絶ヘテ國家ノ保護ヲ仰カサルヲ實況トス

信用組合ノ責任組織ハ無限責任、有限責任、及保證責任ノ三種タルコト我國ノ産業組合法ニ同シキモ責任ノ態様ハ稍々異ナレリトス

信用組合ハ組合員ニ信用ヲ與フルヲ目的トスル産業組合也、其任務ハ主トシテ中産者社會ニ生産資本ヲ供給シ以テ大資本家ト競争スルコトヲ得セシムルニ在リ。之ヲ獨逸ノ信用組合ノ活動ニ照スニ信用組合アル爲メニ中産社會ハ便利ナル資金ノ供給ヲ得之レアルカ爲メニ高利貸ノ苦手ヲ脱スルヲ得ル手

工業者小工業者小商人小農業者ノ數頗ル多シ、蓋シ近世經濟組織ノ發展ハ大資本家對抗セントスル中産者ノ爲メニ特別ノ信用機關ヲ必要トスルニ至リ此必要ニ應シタルモノ實ニ信用組合制度ナリトス、信用組合ハ其萌芽ヲ獨逸ニ發シ他ノ文明諸國ニ波及セリ、信用組合ノ創設者ヲシユルツエ氏及ライプアイゼン (Raiffisen) ノ二氏トス、二氏殆ント同時ニ信用組合ヲ創立セリ時ニ千八百五十年代ナリキ、前者ノ信用組合ハ主トシテ都市ノ小商工業者間ニ行ハル、コトヲ目的トシ後者ハ村落ノ小農民間ニ行ハル、コトヲ目的トス、組合ノ數及組合員ノ數ニ於テハ前者ハ後者ニ優ル

信用組合カ獨逸ニ於テ逐年盛大ニ趣ク所以ハ千八百六十七年ノ法律ニ依リテ之ニ法人ノ資格ヲ認メタルト、千八百八十九年ノ法律ニ依リテ從來認メサリシ有限責任ノ組織ヲ許シタルト、千八百九十年代ノ半頃ヨリ國家カ之ニ保護ヲ與フルコトニ依リテ其發達ヲ容易ナラシメタルカ爲メナリ

信用組合ノ機關ハ産業組合法ノ命スル所ニ從ヒ組合員總會理事及監督委員ナリトス、理事ハ業務ヲ執行シ且ツ外部ニ對シテ組合ヲ代表ス、監督委員ハ理事ヲ監督シ、組合員組會ハ理事ノ權限ニ屬セサル凡テノ事項特ニ貸借對照表損益計算表ノ檢閲定款ノ變更等ヲ決議ス、而シテ總會ニ於テ有スル組合員ノ議決權ハ出資ノ多少ニ拘ハラス各員一箇ニ限ル組合員ハ每年少クモ一回會合シ次年度ノ役員ヲ選舉ス

産業組合法ハ信用組合カ信用ヲ與フル相手方ハ唯組合員ノミニ限ルヘキコトヲ規定ス

組合員ハ一箇又ハ數箇ノ出資ヲ爲スコトヲ得、但シ數箇ノ出資ヲ爲スコトヲ得ルハ有限責任組織ノ組合ニ限ル、出資ノ拂込ハ組合員ノ分割拂込及拂込ミタル高ニ應ンテ歸屬スヘキ利益配當方ノ振替ニ依リテ行ハル

資金供給ノ方法ハ組合ノ財産ト、他人ヨリノ借入金ノ融通トニ依ル。組合ノ財産ニ屬スルモノハ準備金及組合員ノ組合ニ對シテ有スル債權ニシテ、準備金ハ組合員ノ入會金ト純益ノ繰入トヨリ成リ、組合員ノ債權トハ出資ニ對スル拂込高及組合員ニ歸屬スヘキ利益配當ノ蓄積トヨリ成ル。他人ヨリ借入金ハ組合員竝ニ第三者ノ貯金ノ外シユルツエ信用組合ニアリテハドレステン銀行ヨリノ借入、ライプアイゼン信用組合ニ在リテハ主トシテ普國中央産業組合金庫ヨリノ借入ヨリ成ル。尙不動産信用機關ヨリ資金ノ融通ヲ受クルモノアリ

信用組合ノ業務ハ組合員ニ信用ヲ與フルコト、組合員カ他人ニ販賣スル物品ノ代價ニ對スル債權ノ割引、及他ノ銀行的業務ニシテ、唯普通ノ銀行ト異ナル所ハ其取引先カ單ニ組合員ニ限局セラル、ノ點ニ在リ

信用組合ハ多クハ組合連合會ヲ組織ス、組合連合會ハ之ニ屬スル組合全般ノ利益ヲ計リ自己又ハ配下ノ更ニ小ナル組合連合會ヲ通シテ各箇ノ財産状態ヲ檢閲シ且各箇組合間ノ金融ノ過不及ヲ調節スル爲メ連合會金庫ヲ組織ス、連合會金庫ハ亦獨立セル組合ニシテ登記スルコトヲ要シ其組合員ハ即チ之ニ

配屬セル組合ヨリ成ルモノトス

普國國家ノ産業組合ニ對スル保護ハ實ニ普國中央産業組合金庫 (Preussische Centralgenossenschafts

case)ノ活動ニ在リ左ニ之ヲ略述セントス

普國ニ於ケル都市ノ産業組合特ニシユルツエ主義ニ屬スル産業組合ハ活動ノ資力十分ニシテ國家ノ保護ヲ受クルコトヲ要セサルニ反シ、發達ノ順序ニ於テ比較的幼稚ナルモノ特ニ田舎ノ産業組合ニ對シテハ國家ハ宜シク相當ノ補助ヲ與フルノ必要アリトシ千八百九十五年七月三十一日ノ法律ノ發布ヲ見十月一日ヲ以テ金庫ハ成立ヲ告ケタリ、而シテ國家ヨリ貸與セル資本高ハ五百萬「マルク」ナリシカ千八百九十八年以來五千萬「マルク」ニ上リ以テ今日ニ至レリ、而シテ金庫ノ得ヘキ純益金ノ分配ニ付キ法ノ規定スル所ニ依レハ純益ノ五分ノ一ハ之ヲ準備金ニ五分ノ四ハ政府ヨリノ借入資金ノ利子トシテ三分ヲ限度トシテ政府ニ納入シ猶殘餘アレハ更ニ準備金ニ編入ストナセリ

金庫成立ノ目的ハ産業組合ノ爲メニ金融調和ノ中央機關タリ、資本ノ欠乏セル組合ニ資本ノ貸付ヲ爲シ又ハ組合ノ一方ニ資金ノ餘裕アリテ他方ニ欠乏ヲ感スル場合ニ兩者ノ需要供給ヲ調和シ且ツ組合ヨリ金庫ヘノ預金ハ有利ニ之ヲ利殖スルニアリ、但金庫ハ箇々ノ産業組合ト直接相關涉スルコトナクシテ組合連合會(組合ノ連合會)ト交渉シ、組合連合會ハ亦獨立ノ財政ヲ有シ特別ノ金庫ヲ有シテ管下ノ各箇組合間ノ金融ヲ掌ル

金庫ハ獨立ノ一法人タリ、國家ヨリ資金ノ供給ヲ受クルヲ以テ國家ノ監視ヲ受ク、即チ主トシテ大藏大臣ノ支配ニ屬ス、尙銀行ノ業務ヲ營ムヲ以テ商法ノ支配ヲ受ク國庫トノ關係密接ナルカ故ニ收支ノ豫算ハ年々議會ニ提出セラレ會計ニ就テハ會計検査院ノ検査監督ヲ受ク

金庫ノ事務執行シ首腦ハ理事ニシテ理事長之ヲ統括シ別ニ其諮問機關トシテ産業組合ニ關係アル人々ヨリ成レル顧問會アリ、金庫ノ供給スル資金ノ利息ハ出來得ル限り一般金利ヨリモ低利ヲ以テ貸出スノ方針ヲトリ組合連合會ノ手形割引歩合及有價證券擔保貸付歩合ハ主トシテ獨逸帝國銀行ノ歩合ニ準シテ之ヲ定ム、今千九百八年ノ統計ヲ見ルニ金庫ヨリ金融ヲ乞ヒタル連合組合ノ數五十四箇ニシテ之ニ屬スル組合數一萬五千三百五十三、組合員數百五十一萬九千九百人アリ貸付金額二千八百三十一萬二千三百五十「マルク」手形割引高ハ六千九百三十萬六千八百「マルク」ニシテ貸付利子ハ平均三分六厘九毛ニシテ割引歩合ハ五分四厘七毛ナリトス

今信用組合ノ利息歩合ヲ見ルニ組合員及組合員以外ノ第三者ノ貯金ニ對シテ組合ヨリ與フル利息ハ大抵常ニ一定不動ノ歩合ヲ示シ且ツ市立貯蓄銀行ノ利子(普通一般ノ金利ヨリ稍低シ)ニ準シ其他ノ借入金ニ與フル利子ハ主トシテ普通一般ノ金利ニ從フ、組合員ニ對スル貸付利子ハ保證債務ト然ラサルモノト又期限ノ長キト短キトニ依リテ種々ニ分ル、唯概言スレハ普通ノ金利ニ準スト云フヲ當レリトス次ニシユルツエ式信用組合トライプアイゼン式信用組合トノ異同ニ就テ記サンニ兩派ハ從前ニハ互ニ

相反抗シ各自相爭フテ自派ノ組合ヲ普及センコトニ努メタリシカ近時ニ於テハ兩者ノ反目漸次薄ラキ寧ロ相提携シテ組合ノ發達ニ力ヲ盡スコトナレリ、從テ實際ニ付テ見ルモ兩者ノ性質上差異ハ漸ク其跡ヲ收メントスルノ傾向アリ兩者共ニ自治ノ精神ニ基ツキ組合員ニ對人信用ヲ與フルヲ主眼トシ組合員竝ニ第三者ノ貯金ヲ收容シ共ニ連帶債務ノ基礎ヲ有スルノ組合タルノ點ハ相同シ。其異ナル所ハシユルツエ式ニアリテハ主トシテ經濟的ニ業務ヲ經營スルニ反シライプアイゼン式ニアリテ經濟的以外ニ寧倫理的宗教的ノ臭味ヲ帶ヒ從ツテ事實上教會ノ經營ニ成ル所ノ信用組合頗ル多シ、ライプアイゼン或ハ其組合ノ區域ハ一箇ノ教會區又ハ一村ト云フカ如ク狹隘ナル部分ニ限局セラレシユルツエ式ニアリテハ其組合ノ區域ハ一定セス可成廣ク組合員ヲ收容スルヲ理想トス、ライプアイゼン式ニアリテハ組合員ニ利益ノ配當ヲ爲サス利益アルトキハ之ヲ公益事業ニ投スルカ又ハ組合ノ準備金ニ編入スルニ反シシユルツエ式ニアリテハ組合員ニ可成多クノ利益配當ヲ行ヒ之ヲ以テ相合員ノ加入ヲ容易ナラシムルノ手段ト爲ス。ライプアイゼン式ハシユルツエ式ト異ナリ理事ハ其職務ヲ無報酬ニテ掌理シ唯會計事務ニ從事スル者ニ些少ナル報酬ヲ給スルノミ從ツテ經費ノ點ニ於テハシユルツエ式ヨリモ少クシテ足ルノ利アリ。又シユルツエ式ト異ナリ出資ノ制度無ク唯貯金ニ依リテ資本ノ充實ヲ計ルヲ本位トス。ライプアイゼン式ニアリテハ十年ニ渉ル如キ長期ノ信用ヲ與ヘシユルツエ式ニアリテハ三箇月乃至六箇月ヲ最長期トス等ノ差異アリ

以上ハ組合發生當時ニ於ケル兩派ノ差異ヲ掲ケタルモノナルカ千八百八十九年産業組合法ノ發布アリ
テ信用組合ニ對シ統一の制度ヲ強ヒタル以來兩者ノ差異ハ漸次融和シ來リ今日ニ於テハ事實上兩者ノ
間ニ著シキ差異ヲ見出シ得サルノ實況ナリトス

兩者ノ優劣ニ關シテガルツ氏(Garst)ノ論評セル所ニ曰ク「信用組合ノ成立即千八百五十年代以來今日
迄ノ實績ニ徴スレハライファイゼン式信用組合ノ破産ニ陥リタルモノ極メテ少キニ反シシユルツエ式
信用組合ニ在テハ此運命ニ遭遇シタルモノ却テ多數ナルノ事實アリ、其然ル所以ノモノハライファイ
ゼン式ニアリテハ組合ノ區域狹隘ナル範圍ニ限局セラレ組合員ノ經濟狀態ハ悉皆組合ニ知レ渡レルニ
反シシユルツエ式ニアリテハ區域廣ク且ツ種々ノ職業ヲ有スルモノヲ組合員トスルカ爲メニ信用ヲ與
フル點ニ於テ精粗ノ差異アルノミナラスシユルツエ式ハ可成多クノ純益ヲ得ンコトヲ理想トスルヲ以
テ全然銀行の營業ヲ爲シ理事其他ノ當局者ニシテ往々投機事業ニ手ヲ出シ之レカ累ヲ組合ノ基礎ニ及
ホスニ至レルナリ、要スルニライファイゼンノ基本ハ倫理的ニ在リテシユルツエデリーツチノ基本ハ
經濟的ニ在ルノ差異アリ、而シテ其結果トシテライファイゼン式ハ主トシテ村落ニ行ハレ都市ニ適當
セ、シユルツエ式ハ村落ヨリモ寧ロ都市ヲ適當トスルハ實況ヲ呈スルニ至レリト

今普國中央産業組合金庫ノ調査ニ依リテ信用組合ノ數ヲ見ルニ千九百八年獨逸全國ニ存在スル信用
組合ノ總數ハ實ニ一萬六千九十二箇ニシテ内無限責任組織ノモノ一萬四千九十二無限保證責任組織ノ

モノ五十一、有限責任組織ノモノ千九百四十九アリ

千九百六年末ニ於ケル帝國內ノ信用組合ノ總數一萬五千六百〇二ニシテ内一萬ハシユルツエデリーツ
チ式ニ屬ス、會員總數約百八十萬人内シユルツエデリーツチ式ニ屬スルモノ六十萬人ニ達セリ、拂込
總資本ハ二億三千三百萬「マルク」内シユルツエデリーツチ組合ニ屬スルモノ一億八千萬「マルク」ヲ有
セリ、組合ノ剩餘資金總額ハ一億六百萬「マルク」ニシテ内シユルツエデリーツチ組合ハ七千二百萬
「マルク」ヲ有セリ、總預金二十三億三千五百萬「マルク」内九億五千萬「マルク」ハシユルツエデリーツ
チ式組合ニ屬ス、即シユルツエドリーツチ式組合ハ組合總數ノ六割六分會員總數ノ三割三分資本ノ七
割五分剩餘金ノ六割二分預金ノ四割ヲ占ム、シユルツエデリーツチ式信用組合ノ貸付一口平均額ハ示
シ難キモ低キハ二十「マルク」高キハ三十萬「マルク」ヲ達スルモノアリト云フ

第六節 質屋業

獨逸ニ於テハ十四世紀ノ始以來市府當局者カ其計算ニテ銀行業ヲ開始スルモノヲ生シフランクフルト
市ニアリテハ千四百二年ヨリニユーレムベルヒ市ニテハ千五百九十八年ヨリ此種銀行ノ發生ヲ見タリ
シカ後伊國風ノ質屋業ヲ採用シテ之ヲ經營スルコト、ナレリ、質屋銀行ノ最初ノモノハ千五百九十
一年ニアウグスブルヒニ設立セラレ今日モ尙現存ス

此種ノ銀行ハハンノーフエル(一五九八年)ニユーレムベルヒ(一六一八年)ウルム及ハムブルヒ(一六五〇年)ニモ相續キテ興レリ、當時質屋業ノ大多數ハ概シテ公營ナリシモ十八世紀以降ハ時トシテハ私營ノモノモ生シ來レリ

現今ニテハ獨逸帝國ノ聯邦憲法及各州ノ立法ニ遵ヒテ邦立市立等ノ公營及私營ノ質屋業カ混合シテ存在シ居レリ、例ヘハ伯林ノ質舖ノ如キハ王立ノ設備ナリトス、公立質舖ハ其目的トスル所カ高利ニ對スル救済ニアルヲ以テ元來非營利的ナリ、之カ爲メニ私立質舖ハ所在ニ壓倒セラレテ公立質舖ノ完備セル都市ニテハ私立質舖ハ漸次其數ヲ減少スルノ傾向アリ、尙公立質舖カ需要ニ應スル丈ケ十分ニ成立セル所ニテハ新タニ私立質舖ヲ免許セサルノ方針ヲトレルモノアリ

現今ニ於テハ私立質營業者ハ皆免許ヲ受クルヲ要ス、而シテ地方官廳ノ管轄ノ下ニ置カル、サレト免許ハ申請者カ個人的ニ不適任ナリトカ又ハ其設立ノ必要ナシト云フヨリ以外ノ理由ニテ拒絕セラル、コトナシ、各邦ノ當局者ハ其必要ヲ感スル所ニ於テハ一定ノ創立基金ヲ要求スルヲ得ルモノトス、監督ハ一般ニ嚴重ニシテ利息ヲ制限シ又ハ帳簿ノ整理並ニ罰則ノ勵行ニ努メ居レリ

質舖カ公衆ニ對スル取引ニ於テ爲ス職務ハ別ニ他ト異ル所ナシ即チ左ノ如シ

- (一) 質ノ爲ニ交附セラレタル目的物ヲ受領シ保管スルコト、之ニ依テ保證セラル、貸付金ヲ支拂ヒ及質入人ニ質入證券ヲ交附スルコト

(二) 質入物ヲ質期間ノ滿了迄保存スルコト

(三) 貸付金ノ返還及利子手数料ノ支拂ニ對シ權利者ニ質物ヲ交附スルコト、又ハ

- (四) 適當ナル時ニ返済ナキ場合ニハ質物カ十分ニ保證タラサル程度ニ利子カ増加セサル以前ニ之ヲ賣却スルコト

等はナリ

現今獨逸ニ於ケル邦立質舖ヲ舉グレハ(ハムブルヒヲ除ク)伯林ノ王立質舖、ワイマール及アイゼナツハノ大公國質舖、ゴータ公國ノ質舖、六都市(ブランデンブルヒ、ブラウンシュワイヒ、ガन्दルシヤイム、ヘルムスチツド、ホルワミンデン、ウオルヘンビユツテル)ニ於ケルブラウンシュワイヒ公國ノ質舖、カツセル州ノ地方團體連合會ノ有スルカツセル、ハンナウ、フルダ質舖佛國時代ヨリ成立セルストラスブルヒ及メツツノ質舖並ニマインツ及マンハイムノ質舖即チ是レナリ

此他ノ地方團體質舖ハ

- (一) 普國、アルトナ、バルメン、ボン、プロムベルヒ、ブレスラウ、エツセン、ブリーグ其他四十二地方團體。

- (二) バイエレン、アムベルヒ、アン斯巴ツハ、アシヤフエンブルヒ、アウグスブルヒ其他三十地方團體

(三)其他諸邦。アルテンブルヒ、パウツエン、ケムニツツ、ダルムスタット其他十一地方團體之等ノ内最モ新シキモノハプロムベルヒ、エツセンアルトナ等ニテ千八百八十一年乃至千八百八十九年ノ間ニ成立セリ

私立質舖ニアリテモ主トシテ營利ヲ目的トセサルモノニアリテハ公立ト異ナル所ナシ、例ヘハ千八百七十九年以來成立セルフレンスブルヒ貯蓄金庫ノ質舖及千八百八十二年十二月三十日ニ内閣ヨリ許サレタルプロオルツハイムノ市立救助組合ノ質舖ノ如キ是ナリ

ウユルテンベルヒ王國內ニハ現今公立質舖全ク無シ
人口十萬以上ノ獨逸都市中今日質舖ヲ缺クモノヲマゲデブルヒ、ブレーメン、ステツチン、アーヘン及伯林行政部トナス

ライン左岸ノバイエルンニハ團體質舖最モ擴布セラレ居レリ。大體ニ於テハ獨逸ニ於ケル質舖ノ數ハ佛國ニテモ多ク白耳義及和蘭殊ニ伊太利ニ及ハス
人口五萬以上ノ三十一市ノ公立質舖ニ於ケル取引ノ總高ハ千九百零六年即千九百零六年四月一日ヨリ千九百零七年三月三十一日迄ノ會計年度ニ於テ左表ノ如シ

都 市 名	一箇年中買取扱高		年度末現存高	
	質 件 數	金 額	質 件 數	金 額

伯 林	一五三、六八九	五、二四三	九八、八〇〇	三、一三九
ミ ユ ン ヘ ン	四六五、〇四六	五、一八四	一五八、二三五	一、八六一
プ レ ス ラ ウ	二四、五〇四	三四五	一一、八三四	二六七
ハ ン ブ ル ヒ	一七一、三五三	二、四九八	六八、〇六二	一、一二七
ラ イ プ チ ッ ヒ	二〇〇、八二〇	二、四〇七	九二、六一五	一、〇四一
ケ ル ン	一五一、五八二	一、二六六	六三、二五四	六六一
ド レ ス テ ン	一二一、一四〇	三、七二〇	五七、三三三	一、六三二
フ ラ ン ク フ ル ト ア ム マ イ ン	一三九、一六六	一、〇二九	—	—
其他ノ二十三都市	一、一二二、三九九	七、四〇六	四三四、四一三	三、三三五

千九百零六年大質舖ノ資産及成績ハ左表ノ如シ

都 市 名	年度末ノ事業資本(國有分及借入分)		損	益
	質 件 數	金 額		

伯 林	三、九六七	四三、一	—	—
ラ イ プ チ ッ ヒ	一、一二一	五、一三	—	—
ド レ ス テ ン	一、六七一	六七〇	—	—
ケ ル ン	六七四	五九九	—	—
プ レ ス ラ ウ	二六四	〇〇〇	—	—
フ ラ ン ク フ ル ト ア ム マ イ ン	約 六二〇	〇〇〇	—	—

附

録

尙市立質舗ノ實況ニ就キテハ小野參事官調査トレスデン市立質舗ノ組織及運用ヲ參照スヘシ

附

録

尙市立質舗ノ實況ニ就キテハ小野參事官調査ドレスデン市立質舗ノ組織及運用ヲ參照スヘシ

英國ノ部

第一章 中央銀行

中央銀行—英蘭銀行

英蘭銀行カ英國ノ中央銀行トシテ獨特ノ機能ヲ有スルハ紙幣ノ發行及國庫金ノ運用ノ二大特典ヲ享有スルニ依ルヲ以テ英蘭銀行ノ機能ヲ述フル前ニ其特典ニ付キ概説ス

第一、英蘭銀行ノ特典

一、紙幣ノ發行

千七百九年條例ヲ以テ英蘭土ニ於テハ六人以上ノ組合員ヨリ成ル銀行ハ紙幣ノ發行ヲ爲スコトヲ得ストシ英蘭銀行ヲシテ紙幣ノ發行ヲ獨占セシムルノ方針ヲ採リ、千八百四十四年特許條例ニ於テ千八百四十四年五月六日迄ニ適法ニ紙幣ヲ發行シタル銀行ニ非ラサレハ今後紙幣ヲ發行スルヲ得ヌ又是等ノ銀行ニシテ破産スルカ或ハ一旦紙幣發行權ヲ放棄スルトキハ再ヒ紙幣ノ發行ヲ爲スコトヲ得ス而シテ英蘭銀行ハ是等銀行ノ放棄シタル發行權ヲ承繼シ發行額三分ノ二ヲ超過セサル限度ニ於テ

紙幣ヲ増發スルコトヲ得ル旨ヲ規定シ益々紙幣ノ發行ヲ英蘭銀行ノ特典タラシムルニ到レリ
紙幣ノ發行ニ關シテハ千八百四十四年ノ條例ニ於テ嚴密ナル規定ヲナシ(一)同年八月三十一日以後ハ
英蘭銀行ニ發行部ヲ特設シ營業部ト獨立シテ紙幣發行ニ關スル業務ヲ管理セシメ(二)同日ニ於テ營業
部ハ千四百萬磅ノ證券及營業部ニ於テ要セサル金貨及金塊ヲ發行部ニ交付シ發行部ヨリハ右ノ證券
及金貨金塊ニ相當スル紙幣ヲ交付スルコト、セリ

右千四百萬磅ハ即保證準備ニシテ英蘭銀行ノ特典ヲ形成スルモノナリ
千四百萬磅ハ前數年間ニ於ケル紙幣流通高ヲ平均シ常ニ英國ノ紙幣流通高ハ此ノ額ヨリ減少シタル
コトナキ數ナリ、故ニ此ノ數ニ對シテハ正貨ノ準備ヲ必要トセサリシナリ、而シテ此ノ額ハ他銀行
ノ發行權ヲ承繼シタル場合ニ非ラサレハ増加スルヲ得サルヲ以テ千八百四十四年以來約七十年間ニ
英蘭銀行ノ保證準備ニヨリ發行高ハ約四百五十萬磅ヲ増加シタルヲ見ルノミ

二、國庫金ノ運用

英國ノ國庫收入ハ凡テ一旦會計監查總監ノ名義ヲ以テ英蘭銀行ニ預ケ入レ或官廳ニ於テ經費支出ノ
必要生シタルトキハ會計監查總監ヨリ預金ノ一部ヲ當該官廳ノ預金ニ移ス可キ命令ヲナス而シテ後
其官廳ニ於テ適宜引出ヲナス故ニ其ノ間ニ於テ英蘭銀行ハ是等ノ國庫金ヲ使用シテ利殖ヲ圖ルヲ得
可ク且政府預金ハ凡テ無利子ナルヲ以テ英蘭銀行ハ大ナル特典ヲ受クルモノトス

以上ノ特典ヲ享有スルニ對シ(一)英蘭銀行ハ保證準備千四百萬磅ニ對シテハ一年二十萬磅ノ税金ヲ課セ
ラレ又他銀行ノ發行權ヲ承繼シタルニヨリ増加シタル分ニ對シテハ其純益ヲ政府ニ納メサル可カラス
(二)國庫金ノ運用ニ對シテハ政府ニ對シ特別ノ任務ニ服ス(次項ニ記ス公債ノ取扱政府ニ對スル一時的
融通等)

第二、英蘭銀行ノ機能

甲 政府トノ關係ニ於ケル機能

既ニ英蘭銀行カ敍上ノ特典ヲ賦與セラレテ保護セラル、以上政府トノ間ニ密接ナル關係ナカルヘカラ
ス、今英蘭銀行カ政府ノ銀行トシテノ機能ヲ見ルニ

一、政府ニ對スル貸付

元來英蘭銀行設立ノ動機ハ當時政府カ財政ノ窮乏ヲ救ハンカ爲メニシテ千六百九十四年設立ノ當時
資本金百三十萬磅ヲ政府ニ借り上ケ、年四千磅ノ手数料ヲ支拂フコト、セリ、其遺風ハ今尙存シ現
ニ保證準備發行高ノ内千百一萬五千百磅ハ政府貸上金ニシテ銀行ハ其證書ヲ保證準備ニ加ヘテ紙幣
ヲ發行ス

二、國庫金ノ保管

前ニモ述ヘタル如ク英政府ノ歳入ハ凡テ之ヲ英蘭銀行ニ保管セシム、而シテ銀行ハ何等ノ手数料ヲ受ケスシテ保管、支拂ノ事務ヲ爲スモノトス、然レトモ銀行ハ之ニ依リ無利息ニテ莫大ノ預金ヲ利用スルヲ得ルヲ以テ假令國庫金ノ取扱ニ關シ多少ノ費用ヲ要スルモ銀行ニ取リテハ得ル所更ニ大ナリ

三、政府ニ對スル一時的融通

英政府ガ歳出超過ノ爲メニ一時國庫金ノ不足ヲ告グル場合ニ於テ大藏省證券ヲ引受ケテ資金ヲ融通シ又ハ政府トノ契約ニ依リ一時貸上金ヲ爲ス

四、公債ノ取扱

英蘭銀行ハ政府ノ爲メニ公債ノ取扱ヲナシ、利子ノ支拂、元金償還等ノ事務ヲ爲ス

乙 商業銀行トノ關係ニ於ケル機能

英蘭銀行ハ英國ニ於ケル銀行トシテ著シキ機能ヲ有ス、英國ノ商業銀行ハ皆其遊資ヲ英蘭銀行ニ預託シ(一部ハ割引商ト對シ Cash at Call & Short Notice ノ科目ノ下ニ貸付ヲナス)唯日々ノ支拂ニ必要ナル小額ノ現金ノミヲ手許ニ置クヲ例トス、英國今日ノ通貨ノ狀況ヲ看ルニ後ニモ述フル如ク金屬通貨、銀行紙幣ハ通貨トシテハ既ニ過去ノモノニ屬シ今日諸取引ハ皆小切手ニヨリテ決済セラル、殊ニ商業銀行ノ手形交換所ニ加入セル者カ日々ノ貸借ヲ決済スルニハ凡テ英蘭銀行宛小切手ヲ以テ英

蘭銀行ノ帳簿上ニ於テ其決済ヲナスヲ以テ商業銀行ハ必ス英蘭銀行ニ預金ヲナスノ必要アリ、之レ英蘭銀行カ銀行ノ銀行タル機能ノ一ナリ

英蘭銀行ノ公定割引歩合(Official minimum)ハ常ニ普通商業銀行ノ割引歩合ヨリ高率ニ在リ、之レ即英蘭銀行カ普通商業銀行ト營業上ノ競争ヲ爲スコトヲ避ケ市場ノ割引貸付ヲ商業銀行ノ手ニ歸セシメントノ度量ニ外ナラス、而シテ英蘭銀行自身ハコンソル公債、印度公債、鐵道證券等ニ放資スルヲ常トシ若シ遊資ノ多キニ苦シミタルトキハ公定歩合以下ノ利率ヲ以テ英蘭銀行獨特ノ取引先タル大會社大商人ニ割引ヲ爲シ商業銀行ノ取引ヲ害セサルコトニ注意ス、然ルニ一朝金融逼迫シ市場ノ金利暴騰シ商業銀行ノ割引歩合カ英蘭銀行ノ公定歩合ヨリモ高率ナルニ到ランカ英蘭銀行ノ特色ヲ發揮シ公定歩合ヲ以テ商業銀行ニ資金ノ融通ヲ與ヘテ其援助ヲ爲ス、是レ同行カ銀行ノ銀行タル機能ノ二ナリ

丙 一般金融市場ニ對スル英蘭銀行ノ機能

前述ノ如ク英國ノ普通商業銀行ハ皆其準備金ヲ英蘭銀行ニ預託スルヲ以テコノ點ニ於テ英蘭銀行ハ公共信託者タルノ地位ニ立ツ可シ、コノ單一準備ノ制度ヨリ英蘭銀行ハ一般金融市場ニ對シ重大ナル機能ヲ行フ、即英蘭銀行ハ自行ニ於ケル諸銀行ノ預金ノ豊裕ナルト窮乏ナルトニ依リテ金融ノ緩急ヲ察シ又諸銀行カ英蘭銀行ニ有スル預金ニ對シ與ヘタル信用ニ基キ海外ヨリ來ル支拂ノ請求ノ多寡ニ依リ

テ正貨出入ノ狀況ヲ看取シ、場合ニ應シテ或ハ公定歩合ヲ高低シ或ハ市場ノ浮動資金ヲ吸收スル等臨機ノ處置ヲ爲スコト之ナリ

市場ノ金融緩漫ニシテ遊貨餘リアルトキハ資金ハ不絶英蘭銀行ニ流入シ諸銀行ノ英蘭銀行ニ於ケル預金ハ非常ニ膨脹スヘシ、斯ル場合ニハ英蘭銀行ハ其公定制引歩合ヲ引下ケンカ市場ノ一般金利モ亦引下ケラレ其結果資金ノ需要ヲ喚起シ金融ハ調節セラル、此ノ如ク英蘭銀行カ自己ノ金利ヲ引下グルニ依リテ市場ノ金利ヲ引下グルハ容易ナル可シト雖モ英蘭銀行カ金融ノ狀況ニ依リ必要上金利ヲ引上グル場合ニ於テモ亦然ク容易ニ市場ノ金利ヲ左右シ得ルヤト云フニ事情大ニ異ルモノアリ

英蘭銀行ハ金準備ノ保管者タル重大ナル任務ヲ有スルヲ以テ常ニ世界各地ノ金融ノ狀況ヲ察シ正貨出入ノ傾向爲替相場ノ變動ニ對シ常ニ周密ナル注意ヲ拂フモノトス、故ニ英蘭銀行カ正貨流出ノ徵候ヲ看取シ之ニ對スル防壓ノ手段トシテ金利ヲ引上グルコトハ屢々實行スル所ナリ

然ルニ普通ノ商業銀行ニ於テハ英蘭銀行ニ預託セル準備金ニ信賴シ英蘭銀行ノ利上ニ關セス盛ニ融通證券ノ引受、割引等ニ依リ信用ヲ與フルヲ以テ英蘭銀行ハ不得止正貨ヲ海外ニ支拂ハサル可カラス、斯ノ如ク商業銀行カ英蘭銀行ノ利上ケト同一歩調ヲ採ラサル限リハ常ニ正貨ハ流出シ爲替相場ニ影響ヲ及ホスヲ以テ英蘭銀行ハ金利引上ノ外ニ尙別種ノ方法ヲ以テ市場金利ノ引上ヲ策シ正貨吸收ヲ圖ラサル可カラス、其ノ方法ハ畢竟借入其他ノ方法ニ依リテ市場ノ資金ヲ英蘭銀行ニ吸入シ同行ニ於ケル

諸銀行ノバランスヲ出來得ル限リ減少スルニ外ナラス、商業銀行ハ英蘭銀行ニ於ケル其資金カ減少セシカ勢自衛ノ手段トシテ金利ヲ引上ケ茲ニ正貨ノ流出ヲ防壓スルヲ得ルニ到ル可シ、從來英蘭銀行カ屢々行ヒタル方策ハ營業部ニ所有スル公債ヲ直取引ニテ賣却シ而シテ定期取引ニテ買戻スコトニシテ此ノ方法ニ依リ英蘭銀行ハ常ニ其效果ヲ收メタリ

第二章 商業銀行

商業銀行

商業銀行ハ其組織ニ依リテ二種ニ分ツコトヲ得(一)株式銀行(二)個人銀行之ナリ

兩者ノ間ニ於ケル差異ハ銀行ノ機能ニ非ラスシテ其組織ニ在リ、前者ハ重役其他ノ役員カ株主ノ爲メニ其業務ヲ管理スルニ反シ後者ニ於テハ少數ノ組合員又ハ一個人カ自己ノ爲メニ其業務ヲ營ムニ在リ凡テノ企業ハ個人組織ヨリ合同組織ニ進ムヲ以テ發達ノ順序トス、英國ノ銀行業亦其例ニ洩レスシテ個人銀行カ銀行業ノ先達者ナリトス、然レトモ時勢ノ進運ニ從ヒ個人銀行ハ漸々株式銀行ニ吸收セラレ千八百九十六年ニ於テハ多數ノ個人銀行カ Barclay and Co.ノ稱號ノ下ニ合併シ今日古キ意味ニ於テ個人銀行ト呼フコトヲ得ルモノハ唯倫敦ニ於テ Childs' Bank 及 Hoare's Bankノ二行存在スルノミナリトス

商業銀行ノ主要ナル機能ハ顧客ノ爲メニ金錢ノ預託(當座勘定又ハ預金勘定ニ於テ)ヲ受ケ而シテ顧客ノ振出シタル小切手ニ對シ其預金中ヨリ支拂ヲ爲スコトニ在リ

當座勘定ニ於テハ利息ヲ附セサルヲ原則トシ且多クハ常ニ百磅ノ殘ヲ維持スルニ非ラサレハ手數料ヲ課スヘキコトヲ條件トス

預金ニ對シ顧客カ振出シタル小切手ニ對シ銀行カ支拂ヲナスト云フ此ノ機能ヨリ更ニ銀行ノ重大ナル機能ヲ生ス、即商業界金融界ニ對スル小切手通貨ノ供給ナリトス、英國ニ於テハ今日金屬通貨ノ流通ハ極メテ狭キ範圍殊ニ貧民ノ階級ニ於テ流通セラル、ノミ又銀行紙幣モ通貨トシテハ殆ント廢物ナリ唯英蘭銀行ノ紙幣カ他ノ諸銀行ニ於テ準備金トシテ使用セラル、ノミ、實際今日英國ノ商業上金融上ノ諸取引ハ皆小切手ニ依リテ行ハル、素ヨリ小切手ハ法律上ノ通貨ニ非ラサルヲ以テ強制通用ノ效力ヲ有セサレトモ詐欺ニ對スル使用者ノ保護充分ナルヲ以テ其使用ハ殆ント一般ナリ、又小切手ノ供給ニ付キ銀行ハ何等ノ制限ヲ受ケス

英國ニ於ケル商業銀行ノ貸借對照表資産ノ部ヲ見レハ必ス手許及英蘭銀行在高ナル科目アリ是レ銀行ノ手許ニ保有スル金額ト英蘭銀行ニ預入レタル預金トヲ示スモノナリ、是レ英國銀行業ノ特色ノ一ニシテ普通商業銀行ハ何レモ皆日常ノ支出ニ必要ナル金額ノミヲ手許ニ保有シ他ハ悉ク之ヲ英蘭銀行ニ預入ル、モノトス、素ヨリ英蘭銀行ハ是等預金ニ對シテ利子ヲ付セサルニカ、ワラス斯ク諸銀行カ其餘金ヲ英蘭銀行ニ入ル、ニハ相當ノ理由アリ

一、商業銀行ニシテ手形交換所組合ニ加入シタルモノハ日々ノ交換差ヲ決濟スルニ現金ヲ用キス英蘭銀行宛ノ小切手ヲ以テスルカ故ニ勢ヒ同行ニ預金ヲ有スルノ必要アリ

二、右ノ理由ノミナラハ其預金ハ交換差ニ相當スル預金ヲ有スレハ足ルモ多クハ多額ノ預金ヲ有ス

ルハ是レ右ノ理由ノ外ニ尙英蘭銀行ノ基礎強固ニシテ各銀行カ自行ニ保管スルヨリモ一般公衆ノ信用ヲ得ルヲ以テナリ

三、尙英蘭銀行ノ慣例トシテ貸付割引ノ取引ヲ開クニハ自行ト當座勘定ヲ有スル者ニ限ルヲ以テ諸銀行カ金融市場逼迫ノ場合ニ於テ英蘭銀行ヨリノ援助ヲ藉ラントスルニハ平素ヨリ預金ヲ爲シ當座勘定ヲ開キ置クノ必要アリ

商業銀行カ商業界ニ小切手通貨及信用ヲ供給スル機能以外ニ尙倫敦ノ割引市場ニ對シテ重大ナル働きヲ爲ス商業銀行ノ貸借對照表ヲ見ルニ Cash at Call and Short Notice ナル科目アリ、コノ科目ハ主トシテ割引商 (Discount house) ニ對スル貸付ヲ示シ或場合ニハ又株式仲買人其他請求次第ニ於テ返済スルコトヲ豫期シ得ル者ニ對スル貸付ヲ示ス、倫敦ノ割引商ハ凡テノ商業銀行ヨリ融通ヲ受ケタル資金ヲ以テ手形ノ割引ヲ爲ス故ニ銀行ノコノ貸付ノ利率ハ割引市場ニ於ケル割引歩合ニ非常ノ影響ヲ有スルモノトス、而シテ割引商カ資金ヲ商業銀行ヨリ仰キテ手形ノ割引ヲナスハ更ニ再ヒ自己ノ顧客ニ對シ讓渡スルノ目的ヲ以テ手形ヲ購入スルニ外ナラス而シテ手形ノ多額ノ購買者ニシテ割引商ノ重要ナル顧客ハ即商業銀行ニ外ナラサルヲ以テ割引ノ市場利率ハ實際大商業銀行カ購買セントスル價格ニ依リテ律セラレハシ

割引商ノ業務ハ別ニ記述スヘク茲ニ商業銀行カ割引者ニ多額ノ貸付ヲナス所以ヲ見ルニ (實際英國ノ商業銀行ノ貸借對照表ニ於テ Cash at call and short notice ノ科目ハ資産中重大ナル科目ナリ) 銀行ハ預金ニ對シ相當ノ準備ヲ爲サ、ル可カラス其準備金ハ前ニモ述ヘタル如ク通常英蘭銀行ニ預入ル、ヲ例トスレトモ利付ノ金額ヲ無利子ニテ英蘭銀行ニ預入ル、ハ營業ノ宜シキヲ得タルモノト言フヲ得サル可ク事情ノ許ス限リ利殖ヲ圖ルヲ要ス、然レトモ濫ニ貸付割引ヲナシテハ準備金ノ性質ヲ失フニ到ル可キヲ以テ一方ニ於テ準備金タルノ性質ヲ失ハスシテ他方ニ利殖ヲ計ルニハ割引商ニ對シ請求次第返還スルノ條件ヲ以テ貸付ヲ爲スヲ最良ノ方法ナリトスルニ在リ

商業銀行ハ近來顧客ノ望ミニ應シテ爲替手形ノ引受ヲナスニ到レリ引受業務ハ後ニ記述スル如ク元來 Merchant firms 或ハ accepting houses ノ固有ノ業務ニ屬スルモノナルヲ以テ近時商業銀行ノコノ侵入ニ對シ引受業者ハ手形引受ノ業務ハ特別ノ熟練ヲ要スル特別ノ機能ナリ商業銀行ハ其固有ノ銀行業務ニ關スル才能ヲ適用スルヲ得スト論シ銀行ハ或ル程度ニ迄又適當ナル範圍ニ於テ顧客ノ爲メニ引受ヲ爲スハ是認ス可キモ濫リニ引受商ノ業務ニ侵入スルヲ非難スルニ到レリ

最後ニ近時商業銀行カ從來倫敦ノ finance houses 及 foreign firms ノ業務タリシ外國爲替業務ニ或程度迄干與スルノ傾向ヲ生セリ、The London and Country Bank 及 The London City & Midland Bank ニ於テハ新ニ外國爲替部ヲ設置セリ此ノ傾向ハ銀行ノ業務ノ範圍ヲ擴張シ廣ク金融界ニ接近スル徵候トシテ一部ノ人士ニ依リテ歡迎セラレ、モ、又他ノ方面ニ於テ銀行ハ宜シク信用及通貨ヲ社界ニ供給シ及顧

客ノ預託金ヲ保管スルテフ重要ナル職務ニ執著ス可シトノ批難モアリ

第三章 割引商

割引商 (Discount Houses)

遊金ヲ貸シテ利殖ヲ圖ラントスル者ト資金ヲ貸入レントスル者トノ間ニ立チテ銀行カ其調節ヲ計ル如ク、爲替手形ノ所持人ニシテ満期日前ニ其手形ニヨリテ資金ヲ得ントスル者ト手形ニ投資セントスル者トノ間ニ立チテ其調節ヲ計ルヲ業トスル者之レ割引商ナリトス

割引商ノ營業狀態ヲ見ルニ經濟狀況ノ進歩ニ伴ヒ自ラ變遷シタルヲ感ス、初メハ手形ヲ賣ラントスル者ト買ハントスル者トノ中間ニ立チテ其賣買ヲ周旋シ手數料ノミヲ收入スル純然タル仲介商タリシナリ、今日ニ於テモ此ノ種ノ商人多少存在スルモ之レヲ Running Broker ト稱シ discount house ト稱スルヲ得ス、今日ノ割引商ハ皆多額ノ資金ヲ以テ常ニ多額ノ手形ヲ購入シ保有シ更ニ顧客（主トシテ商業銀行）ニ對シテ之レヲ賣渡スニ在リ、故ニ單純ナル仲介人ニ非スシテ裏書署名ニ依リ自ラ手形ノ關係者タリ、又其利得モ單純ナル手形料ニ非スシテ賣買相場ノ差額ヲ以テ利益ヲ得ルナリ

今日ノ割引商ニハ株式組織ノ大資本ヲ以テ營業スル者モアリテ多クハ自己固有ノ相當資本ヲ有スレトモ夫レノミニテハ到底多額ノ手形ヲ購入シ顧客ノ求メニ應スルコトヲ得ス然レハ彼等ノ營業資金ハ何レヨリ之レヲ求ムルヤト云フニ即チ倫敦市中ノ商業銀行ナリトス

前ニモ述ヘタル如ク銀行ノ貸借對照表ニ記載アル Cash at call & short notice ナル科目ハ即割引商ニ對スル貸付ニシテ何時ニテモ請求次第返濟スルノ條件ヲ以テ銀行ハ資金ノ一部ヲ貸付ケ割引商ハ銀行ノ爲メニ遊金ノ使用者トナルナリ、而シテ割引商ハ銀行ヨリ借入レタリ利子ヨリモ稍々高率ヲ以テ手形ヲ割引シテ其資金ヲ運用シ若シ銀行ノ請求ニヨリ資金ノ回收ヲ要スルトキハ自己ノ割引歩合ヨリモ稍低歩ヲ以テ再割引ニ附シテ資金ノ回收ヲ計ルモノナリ、而シテ割引商カ銀行ヨリ資金ヲ借入ル、爲メ擔保トシテ銀行ニ手形ヲ提供スルカ或ハコンソル公債、印度公債等何時ニテモ容易ニ賣却シ得ル證券 (Floaters) ヲ提供スルヲ常トス

上述ノ如ク割引商カ銀行ヨリ借入ル、資金ハ銀行ノ請求次第ニ返還スルヲ要スルヲ以テ一朝金融逼迫センカ銀行ハ資金ノ回收ヲ促ス可ク割引商ハ之ニ應スル爲メ保有手形ヲ再割引ニ付セサル可カラス、然モ斯ル場合ニ於テハ手形ニ資金ヲ投セントスル者ハナカル可シ、茲ニ於テカ割引商ハ非常ニ窮境ニ陥ル可ク而シテ銀行ハ割引商ニ對スル貸付ハ實ニ莫大ナルヲ以テ銀行モ其影響ヲ被リ一般金融界ニ變調ヲ來タスコトナキニ非ラス、斯ル危急ノ場合ニ處スル爲メ英蘭銀行カ手形ヲ擔保トシテ割引商ニ資金ヲ貸付クルコトアリ、然レトモ割引商カ英蘭銀行ノ資金ノ融通ヲ求ムルトキハ多ク金融逼迫ノ際ナルヲ以テ同行モ自衛上其條件ヲ嚴重ニシ期限十五日以内ノ手形ニ限り公定歩合又ハ夫レ以上ニ於テ(普通顧客ニハ公定歩合以下ニテ割引スルヲ普通トス)割引スルモノトス、故ニ割引商ハ一時ノ急ヲ救

濟セラル、ノ利益アレトモ自己ノ收入ニ於テハ損失タルヲ免レズ

最後ニ注目ス可キハ近時大規模ノ割引商中ニハ公衆ヨリ預金ヲ收受シ或ハ有價證券ニ對シ短期ノ貸付ヲナスヲ以テ銀行ト割引商トノ區別自ラ判然タラサルニ到リタルコト是レナリ

第四章 引受商

引受商 (Merchant Banker; Accepting House)

引受商ハ爲替手形ノ引受ヲ爲シテ手数料ヲ收入スルヲ以テ業トス、小商人ノ引受ケタル手形ハ唯狹小ナル範圍内ニ於テノミ流通セラル、モ大商人ノ引受ヲナシタル手形ハ容易ニ流通シ銀行モ其資金ヲ投スルニハ好個ノ目的物タル可シ、故ニ手形ニ依リ資金ノ融通ヲ受クルニハ自然大商人ノ引受ヲ必要トス可ク此ノ必要カ經濟ノ發達ニ伴ヒ遂ニ手形ノ引受行爲ヲ専門ノ業務タラシムルニ到リ大商人ハ漸々自己ノ實際ノ商業事務ヲ棄テ、専ラ手数料ヲ收メテ他人ノ手形ヲ引受ケルコトヲ業務トスルノ機運ヲ導キタルニ外ナラス

引受商ハ其ノ引受行爲ニ依リ手形ノ信用ヲ増加シ流通作用ヲ十分ナラシメ金融上重要ナル職務ヲ爲スコトハ論スル迄モ無ケレトモ倫敦ニ於ケル引受商ハ或程度迄ハ銀行ノ裁斷ニ對シ從屬セサル可カラサル地位ニ在リ、何トナレハ何人ノ引受ケタル證券カ最モ善ク流行スルカノ最後ノ判定ハ銀行カ之ヲ爲ス可ク又銀行カ時々或引受人ノ引受ケハ餘リニ自由ナリト認メタル場合ニハ其手形ニ對シテ融通ヲ與ヘサルコトアレハナリ、而シテ斯ノ如ク銀行カ或引受商ノ引受ケタル手形ニ對シ區別ヲ立ツル如キ場合ニ於テモ亦英蘭銀行カ仲裁人ノ務メヲ爲スモノトス、即チ問題ニナリタル手形ニ付割引商ヲ通シテ

英蘭銀行ニ於テ商議シ英蘭銀行カ其引受ニツキ起リタル疑問カ理由ナシト考ヘタルトキハ其手形ハ流通セラル可シ

引受商ノ他ノ機能ハ一般金融 (General finance) 及爲替業務ニ於ケル働ナリトス、是等ノ機能ハ引受商ノ商人トシテ舊キ本來ノ業務ヨリ生スルモノニシテ之ニヨリテ外國ノ政府及事業界ト密接ナル關係ヲ生ス。外國政府トノ關係ニ於テハ外國政府カ倫敦市場ニ於テ公債ノ募集其他經濟上ノ行爲ヲ爲ス場合ニ於テ引受商カ信用上ノ便宜ヲ與フルモノナリ

即引受商ハ外國政府ノ代理人トナリテ政府ニ代リテ公債ヲ發行シ利子ノ支拂ヲ爲シ其他借款ニ關スル凡テノ事務ヲ取扱フモノナリ又事業界トノ關係ニ於テハ原料ノ購入、旅行其他國際間ニ信用ノ移轉ヲ生スル無數ノ事項ニ關シ爲替事務ヲ取扱フモノナス

尙附言スヘキハ英蘭銀行ノ重役會ハ引受商ニ依リテ外國ノ財政經濟ノ狀態ヲ知悉シ其政策ヲ定ムルニ關シ大ナル援助ヲ受クル點ニ在リトス

第五章 農業銀行

農業銀行

英國ノ農民ハ一般ハ知識ノ程度高ク豊富ナル資本ヲ有シ(實際上五百磅以下ノ資本ヲ有スル農民ハ稀レナリト云フ)耕地ノ面積モ廣大ニシテ勞働方法モ亦比較的優良ナルカ上ニ英國ノ農民ハ皆借地農民ナルヲ以テ彼等ノ要スル資本ハ土地ノ購買等永久ニ土地ニ固定スルモノニ非ラスシテ農具ノ改良、設備、肥料ノ購入等皆比較的流動性ヲ帯ヒタル資本ニシテ從テ其資本ハ凡テ短期ノ性質ヲ有ス。以上一般農民ノ信用豊富ナルト其融通短期ナルトノ二箇ノ理由ニ依リ一般普通銀行モ恰モ商人タル顧客ニ對スル如ク農業者ニ對シテモ手形ニ依リテ容易ニ資金ノ融通ヲナス。殊ニ農業ノ最モ盛ナル蘇格蘭土ニ於テハ保證貸付(Cash Credit)(蘇格蘭銀行制度ノ部參照)ニヨリテ對人信用ヲ以テ盛ニ農業者ニ金融ヲ爲スヲ以テ從來英國ニ於テハ農業ニ關スル特殊ノ金融機關ノ設置ヲ見ス又其ノ必要ヲ感セサリシナリ。唯友誼組合條例(Friendly Society Act)工業備慌組合條例(Industrial and Provident Societies Act)ノ下ニ認メラレ其適用ヲ受クル組合ノ中ニハ農業ノ振興ヲ目的トシ其金融ノ便宜ヲ計ル信用組合アリテ農業金融ノ機關タリト雖モ之等ハ微々トシテ參考トナスニ足ラス。然レトモ近時英國ニ於テモ農業金融ニ關スル中央機關設置ノ必要ヲ認メ千九百十一年ニ於テ國民土地銀行法案ノ通過ヲ見ルニ到レリ、

國民土地銀行ハ恰モ獨逸ノ Dresdner Bank カ「シユルツエーデーリツチ」式組合ニ資金ヲ融通スル如キ關係ニ於テ全國ノ農業信用組合ニ對シ貸付ヲナシ又是等ノ組合間ノ貸借ヲ決済スルノ地位ニ立ツモノナリ

第六章 蘇格蘭土ノ銀行制度

蘇格蘭銀行制度

蘇格蘭ハ同シク大貌利顛ニ屬スト雖モ英蘭土及「ウエールス」ト比較シテ其銀行制度ノ上ニ著シキ特色ヲ有ス

一、銀行券ノ發行

近世ノ銀行制度ニ於テハ紙幣發行權ハ之レヲ特典トシ一國中央銀行ヲシテ獨占セシムルヲ以テ普通トス、英蘭土ニ於テモ千六百九十四年以來英蘭銀行ニ銀行券發行ノ特典ヲ與ヘ獨占的地位ニ立タシムルノ方針ヲ採レリ。然ルニ蘇格蘭ニ於テハ千六百九十五年蘇格蘭銀行(Bank of Scotland)設立セラレ二十一年間紙幣ノ發行權ヲ獨占シタルモ其期間ノ滿了スルト共ニ銀行ノ營業ハ繼續セラル、モ發行權ノ獨占ハ承認セラレス、續テ千七百二十七年ニ設立セラレタル Royal Bank of Scotland ヲ初メ幾多ノ銀行皆紙幣ノ發行ヲ爲セリ千八百四十四年ニ於テ初メテ紙幣發行ニ關スル條例制定セラレコノ條例ニ於テ當時紙幣ヲ發行セサリシ銀行ハ新ニ紙幣發行權ヲ得ルコトナキ旨ヲ規定セリ

現今蘇格蘭土ニ於テ發行權ヲ有スル銀行ハ凡テ九行ニシテ其名稱左ノ如シ

- (1) Bank of Scotland.
- (2) Royal Bank of Scotland.
- (3) British Linen Bank.
- (4) North Bank of Scotland.
- (5) Commercial Bank of Scotland.
- (6) National Bank of Scotland.
- (7) Union Bank of Scotland.
- (8) Cleydesdale Bank.
- (9) Town and Country Bank.

二、保證貸付 (Cash Credit)

ロドマコーレーカ蘇格蘭土ハ銀行ト學校トニ依リテ開發セラレタリト叫ヒタル如ク蘇格蘭土ノ銀行ハ同地ノ開發ニ著シキ效驗ヲ與ヘタルモノナリ、然カモ蘇格蘭土ノ銀行カ斯克同地ノ開發ヲ導キタル所以ハ人民一般通有ノ勤儉ノ特性其他ノ原因モアリシナランモ特ニ大筆ス可キハ保證貸付ナル營業方法ナリトス

千七百二十七年 Royal Bank 設立セラレタル當時市場ニ商業手形ノ流通スルモノ極メテ尠ナク而

カモ一方ニ於テハ極少額ノ預金ヲモ受取り夫レニ利息ヲ附シ尙又當座勘定ヲ許可シタルヲ以テ益々吸收シタル預金ノ投資方法ヲ發見スルニ苦シミタル結果 Royal Bank ニ於テハ保證貸付ノ方法ヲ實行シタル處非常ノ好成績ヲ收メ爾來蘇格蘭土ノ諸銀行ハ皆コノ營業方法ヲ採用シ遂ニ蘇格蘭諸銀行ノ一大特色ヲ爲スニ到レリ

單ニ保證貸付ト稱スルハ抵當貸付ニ對スル詞ニシテ借主ノ外ニ一人若シクハ二人以上ノ保證人ヲ置キテ資金ノ融通ヲ爲スコトヲ意味スルモ蘇格蘭土ニ於ケル保證貸付ハ Cash Credit ト稱シ特殊ノ方法ニ依ルモノナリ、今其方法ヲ看ルニ先ツ銀行ヨリ資金融通ヲ受ケントスル者ハ普通ハ二名ノ保證人 (Cautions) ヲ立テ銀行ノ請求次第何時ニテモ返金ノ條件ヲ以テ一定ノ極度金額ヲ定メ其範圍内ニ於テ隨時資金ノ融通ヲ受クルヲ得ルナリ而シテ保證人ハ借主ニ關スル勘定ヲ検査スルノ權能ヲ有シ又ハ何時ニテモ其保證ヲ取消スコトヲ得ルモノトス

コノ制度ノ特長ハ(一)顧客ハ當座預金ノ預託ヲ爲サシテ當座勘定ヲ有スルト同一ノ利益ヲ有ス(二)普通ノ貸付割引ノ如ク豫メ借入金額及期間ヲ定メス隨時借入レ隨時返済スルヲ以テ借主ハ運用セサル資金ニ對シ利子ヲ負擔スルノ損失ヲ免ル(三)普通貸付又ハ割引ノ如ク其都度擔保物ノ鑑定手形ノ検査等ノ手數ヲ必要トセサルノ利益アリ

蘇格蘭土ノ銀行ハ保證貸付ノ方法ニヨリ商人ノミナラス農業者ニ對シテ盛ニ金融ノ便宜ヲ與ヘ農

業ノ發達ヲ助長シタルコト擧ガラス、左レハ蘇格蘭土ハ農業ノ盛ナル地方ナレトモ農業金融ニ關スル農業銀行又ハ不動産銀行等ノ機關ハ未タ存在セス

三、支店制度

近世ノ銀行制度ニ於テハ金融機關ノ集中主義、支店制度カ一般ノ趨勢ナルカ如キモ未タ曾テ蘇格蘭土程支店制度ノ發達シタルモノ世界ニ其比ヲ見ス、千八百十九年ニ於テハ本店數三十行支店數九十七箇所ナリシニ漸次銀行ノ合併行ハレ千九百八年ニハ本店數十支店數千五百五十五ニ達セリ、然レハ蘇格蘭土ニ於テハ如何ナル小都會小村落ニモ銀行營業所ノ設置アリテ金融上ノ便宜到ル所ニ普及セリ、斯ク支店制度ノ發達シタル結果殘存セル小數ノ銀行ハ皆其基礎確實ナル大銀行ニシテ營業上ノ規模モ殆ント同一ナリ、而シテ諸銀行互ニ組合ヲ設ケ其規約ニ依リテ割引貸付歩合、預金利子、取立手數料等ヲ一定シ同一歩調ヲ以テ各自營業ヲ爲ス狀態實ニ注目ニ値セリ

第七章 貯蓄銀行

英國ニ於ケル貯蓄銀行ハ嚴格ナル意味ニ於テ銀行ト稱スルコトヲ得ス、銀行ハ一方ヨリ預金ヲ受入レ他方ニ對シ貸付ヲ爲スヲ以テ其本質トス然ルニ英國ノ貯蓄銀行ハコノ兩面ノ機能ヲ要セス唯貯金ノ受託ヲ受クルノミ

英國ノ貯蓄銀行ニ二種アリ(一)受託貯蓄銀行(Trustee savings banks) (二)郵便貯蓄銀行(Postal savings Banks)之レナリ

受託貯蓄銀行ハ元來慈善博愛ノ資産家カ細民ヲ救濟シ彼等ノ生活狀態ヲ上進セシメンカ爲メ慈善ノ目的ヲ以テ資力ヲ提供シ貯蓄ノ利殖ヲ計リタルニ始マリ千七百九十七年創設セラレタル勤儉銀行(Friendly Society Banks)ヲ以テ嚆矢トス、爾來幾多ノ慈善家輩出シ此種ノ事業ヲ營ミタルモ往々經營ノ途ヲ誤リ却テ貯金者ニ迷惑ヲ懸クル如キコトアリシヲ以テ千八百十七年ノ法律ニヨリテ之カ取締ヲ規定シ(一)銀行經營者ハ一切投機ニ關與スルコトヲ得サルコト(二)定款ヲ裁判所ニ登記スルコト(三)五十磅以上ノ貯金ハ凡テ英蘭銀行ノ手ヲ經テ國債局ニ送致セシムルコト、セリ、此ノ取締法ノ施行セラレテヨリ一般公衆モ安堵シ自然銀行ノ信用モ加ハリ貯蓄事業ハ益々發達ノ域ニ進メリ、然ルニ事業ノ發達ニ伴ヒ復タ幾多ノ不正行爲ヲナス者簇出シ公衆ヲ害スルコト多カリシヲ以テ千八百五十八年ニ於テ調査委員會ヲ

設ケ審査シタルニ銀行經營者ニ於テ貯金ヲ私シ私利ヲ營ミ居ル者多數アルコト及貯金ノ送致ヲ受ケタル國債局ニ於テモ亦貯金ノ管理ヲ誤リ居ルコトヲ發見シタリ。玆ニ於テカ之カ根本的救濟策ニ就キ種々考慮ノ結果斯ル事業ハ公益ノ事業ニシテ政府自ラ之カ經營ニ當ルヲ適當ナリトシ玆ニ郵便貯金ヲ施行シ全國到ル所ニ其取扱所ヲ設置シ國家カ自ラ確實ナル方法ヲ以テ貯金ノ受託ヲ受クルト同時ニ他方ニ於テ從來ノ受託貯蓄銀行ニ對シ可成嚴格ナル制限ヲ附加シ不確實ナル銀行ヲ淘汰スルニ努メタリ、今日ニ於テハコノ貯金官營ノ主義ハ充分其效果ヲ收メ受託貯蓄銀行ハ多ク淘汰セラレ小數ノ而カモ健全ナル銀行二百餘行殘存スルノミ今千九百九年ニ於ケル預金額ヲ見ルニ

- 郵便貯金 一六四、五九六、〇六五磅
- 受託貯金 五二、一八一、九八三磅

受託貯蓄銀行

受託貯蓄銀行ニ關スル制度ハ大要左ノ如シ

一、貯金ノ預入。預金者ハ同時ニ二行以上ノ受託貯蓄銀行若シクハ受託貯蓄銀行及郵便貯金銀行ニ貯金ノ預入レヲナスヲ得ス、故ニ初メ貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ハ先ツ他ノ貯蓄銀行ニ於テ預金ヲ有セサルコトノ證明書ヲ差出スコトヲ要ス、若シ故意ヲ以テ虛偽ノ届出ヲ爲シタルコト證明セラレタルトキハ不法貯金トシテ沒收セラル

未成年者及妻ハ後見人若シクハ夫ノ許可ヲ經スシテ貯金ノ預入及引出ヲナスコトヲ得、但シ此ノ場合ニ於テハ銀行支配人及検査官之ヲ證明セサル可カラズ

合ニ於テハ自己ノ死亡後預金ヲ受取ル可キ第三者ヲ指定スルコトヲ得、但此ノ場合ニ於テハ其預金ハ百磅以下ナルコト及被指定人ハ預金者ノ親族タラサル限リハ官吏若シクハ貯蓄銀行ノ雇員タラサルヲ要ス

二、貯金額ノ限度。貯金ハ年額五十磅全額二百磅ヲ以テ限度トシ、利子ヲ算入スルモ此ノ定額ヲ超ユルヲ得ス、但慈善機關、備慌機關、ペンニー銀行、共濟組合等ハ年額百磅總額三百磅迄預入ル、コトヲ得可ク尙國債委員ノ特許ヲ經テ夫レ以上ノ預入レヲナスコトヲ得
利息ハ年二朱五厘トス

三、役員。役員ハ皆銀行ノ收益ヲ私スルコトヲ得スシテ全部預金者ニ配當スルヲ要ス、役員ハ又報酬ヲ受クルヲ得ス唯下級ノ雇員ノミ特ニ相當ノ手當ヲ受ク

四、投資。貯蓄預金ハ英蘭銀行ニ預入レ日々ノ收支ニ必要ナル金額ノミニ非ラサレハ銀行ノ手許ニ保留スルヲ得ス、英蘭銀行ハ右預金ヲ擧ケテ之ヲ國債局ニ送致シ利子ト共ニ政府證券ノ買入ニ使用ス可シ

尙特別投資ノ制度アリテ或條件ヲ具備シタル者ハ政府證券以外ノ投資ヲ請求スルコトヲ得、然レト

モコノ制度ハ昔時ノ遺物ニシテ千八百九十一年ノ法律ニ依リテ同年一月一日以前ニ於テ既ニ特別投資ノ權能ヲ有セル貯蓄銀行ニ限ルコト、シ將來ハ之ヲ賦與セサルコト、セリ、而シテ現今コノ權能ヲ有スルモノハ唯十八行ノミ、特別投資ヲ爲サントスルモノハ五十磅以上ノ預金ヲ有スルコトノ證明ヲ要ス同一預金者カナシ得ル特別投資ハ五百磅ヲ超ユルコトヲ得ス特別投資ハ特別勘定トシ國債局ハ之カ爲メニ生シタル損失ニ付預金者ニ對シテ其責ニ任セス。

五、監督。銀行ヲ設立センニハ二名以上ノ署名アル定款ニ審査官ノ證明書ヲ添付シ國債局ニ提出シテ認可ヲ受クルコトヲ要ス。國債局ハ銀行支配人カ法規ニ違犯シタリト認メタルトキハ職權ヲ以テ一定ノ期間其營業ヲ停止シ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スルコトヲ得、又營業報告書ノ提出ヲ怠リタル銀行アルトキモ亦新聞紙ヲ以テ其名稱ヲ公告スルコトヲ得

六、検査。常置検査委員會ヲ設ケ必要アリト認メタル場合ニ於テ銀行ノ帳簿、金庫其營業ノ狀況ヲ検査セシム、委員會カ違法行爲ヲ發見シタルトキハ當該銀行ニ對シ其訂正ヲ命シ若シ之ニ從ハサルトキハ國債局又ハ起訴シタル場合ハ管轄裁判所ヲシテ有期ノ營業停止ヲ宣告セシム、銀行支配人ハ委員會ノ要求ニ對シ毎年ノ貸借對照表ノ謄本、定款及帳簿ノ提出ヲ拒ムコトヲ得ス、委員會ハ毎年其執務ニ關スル報告書ヲ作製シ國債局ニ提出シ國債局ハ之ヲ議院ニ送附ス、營業検査ヲナシタルトキハ其費用ハ銀行ノ負擔トス

七、清算。銀行カ解散ノ決議ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ各預金者ニ通知シ夫レヨリ一箇月ヲ經過スルニ非ラサレハ支配人ハ妄リニ閉店スルヲ得ス、此ノ場合ニ國債局ハ預金者ニ對シ其預金ヲ郵便貯金局ニ移送スルヲ得可キ旨ヲ通知ス可シ

以上ハ受託貯蓄銀行ノ大要ナリ、然ルニ玆ニ英國ノ貯蓄制度ニ關シ最モ重大ニシテ而カモ今尙解決セラレサル困難ナル問題アリ、ソハ受託貯蓄銀行ノ損失問題ナリトス、前ニモ述ヘタル如ク貯蓄銀行ノ預金ハ郵便貯金ト受託貯金トヲ問ハス凡テ之ヲ國債ニ投スルコト、セリ蓋シ之レ最モ安全ナル投資方法ナリト認メタルニ依ル可シ、然レトモ國債ノ利子ハ市場金融ノ狀況ニヨリ其利率ヲ低下スルモ貯金ノ利子ハ常ニ必スシモ之ニ伴ヒテ引下クルヲ得ス而カモ他方ニ於テ貯金ハ間斷ナク増加スルヲ以テ玆ニ收支相償ハサル結果ヲ呈スルニ到レリ、郵便貯金ハ其事情稍々異ナルヲ以テ多少ノ剩餘ハ生ス可キモ受託貯蓄銀行ニ於テハ益々損失ヲ加ヘ千八百七十六年ヨリ千九百一十一年迄ノ間ニ於テ六十一萬磅ノ缺損填補ヲ國庫ニ仰クニ到レリ、此ノ趨勢ハ「コンソール」公債ノ利下ケト共ニ益々其度ヲ高メタルヲ以テ之カ救済策ニ付キ種々攻究セラレ結局千九百一十二年ニ選任セラレタル特別調査委員會ノ決議ニ基ツキ大藏大臣ハ一法案ヲ作製セリ、其法案ニヨレハ貯金利子ヲ八分ノ一朱方引下クルニ在リタリ、然レトモ他方ニ於テ反對説アリ

(一)預金ノ一部ヲ地方廳ニ貸與シ又印度政廳其他殖民地政府ニモ之ヲ貸與セント云ヒ(二)或ハ政府ノ軍事公債募集ニ關シ從來ノ如ク英蘭銀行ヲ媒介者トシテ大資本家ノミヲ對手トセス郵便局ヲモ利用シテ國內ノ小資力者ニ直接應募ノ途ヲ開キ國費補助ノ機ヲ得セシム可シト云ヒ、要スルニ貯金放資ノ方法ヲ擴張シテ軍事又ハ生産事業ニ使用シ其利殖ヲ計ル可シトスル有力ナル説アリテ本問題ハ未タ決定スルニ到ラス

銀行以外ノ貯蓄機關

學生ノ爲メニハ學校貯金庫、ペンニ銀行アリ、軍人ノ爲メニハ陸海軍貯金庫アリ、鐵道従業員ノ爲メニハ鐵道貯金銀行アリ、細民、勞働者ノ爲メニ勞働組合、共濟組合アリ。

第八章 庶民銀行

庶民銀行

英國ニ於テハ庶民銀行ノ制度夙ニ發達ス、今各種ノ庶民銀行ニ共通ノ點ヲ見ルニ(一)其組織ハ主ニ相互組織又ハ共同組織ナリ(二)特別法ニヨリテ支配セラル(三)或種ノ特權ヲ享有ス(四)法律ニヨリテノミナラス特別ノ官廳ニヨリテ嚴重ナル監督ヲ受クルモノトス
今庶民銀行ノ種類ヲ見ルニ

- (一)友誼組合(Friendly Societies)及友誼組合條例ノ下ニ認可セラレ且登記ヲ受ケタル組合(友誼組合條例アリ)
- (二)工業及備慌組合(Industrial and Provident Societies)(工業及備慌組合條例アリ)
- (三)慈善建築組合(Benefit Building Societies)(慈善建築組合條例アリ)
- (四)法人建築組合(Incorporated Building Societies)(建築組合條例アリ)
- (五)保證貸付組合(Certified Loan Societies)(貸付組合條例アリ)

第一 友誼組合

友誼組合ハ元來資金ノ貸付ヲ目的トスル組合ニ非ラスシテ病者、老廢者、鰥寡孤獨ヲ救濟シ葬式費用

ヲ支出シ、或ハ火災ニ對スル損害ヲ保險スル等(詳細ハ友誼組合條例抄譯參照)凡テ相互救濟ヲ目的トシテ設立セラレタルモノニシテ又會員ヨリ貸付ノ目的ヲ以テ寄附シタル特別貸付基金中ヨリ唯五十磅以内ノ小額貸付ヲ會員ニ許スコトヲ得ルモノトス。然レトモ現今友誼組合條例ノ適用ヲ受ケ居ルモノハ右ニ述ヘタル本來ノ友誼組合以外ニ尙數種ノ組合存在ス、即チ

- 一、家畜保險組合(Cattle Insurance Societies)
- 二、慈惠組合(Benevolent Societies)
- 三、労働者協會(Workmen's Clubs)
- 四、特別認可組合(Specially Authorized Societies)

右ノ諸組合ハ皆友誼組合條例ノ下ニ登記ヲ受ケ其特權ヲ享有スルモノトス

右ニ掲ケタル特別認可組合ニハ又種々ノ組合ヲ包含スルモノトス即チ

- 一、月々ノ掛金其他ノ出資ニ依リテ資金ヲ作り之レヲ會員ニ貸付ケ又ハ會員ノ利益ノ爲メニ使用スルヲ目的トスル相互組織ノ組合
- 二、農業ノ振興ヲ目的トスル組合
- 三、勤儉貯蓄ヲ目的トスル組合

等はレナリ、是等ノ特別許可組合ニ於テ最高五十磅迄會員ノミニ限り貸付ヲ爲スヲ得、又組合ハ會員

ニ對シテ有スル貸付金ノ總額ノ三分ノ二以內ノ金額ノ預金ヲ一度ニ受入ル、コトヲ得、尙注意ス可キハ特別認可組合ハ大藏大臣カ特ニ認可ヲ與フルモノニシテ認可ノ際其認定ヲ以テ友誼組合條例ノ適用ヲ制限シ特權ノ享有ヲ制限スルコトヲ得ルモノトス

第二、工業及備慌組合

工業及備慌組合ハ一般ニ共同組織ニシテ、其目的ハ卸賣、小賣ノ業ヲ營ミ、手工業ヲ營ミ土地ノ賣買ヲ爲シ及特別ノ制限ノ下ニ銀行業ヲ營ムニアリ
コノ組合ハ工業及備慌組合條例ノ支配ヲ受ケ一般會社法ノ支配ヲ受ケス而シテ右條例ノ下ニ登記ヲ受ケタル組合及組合員カ一般會社法(Companies Act)ノ下ニ登記ヲ受ケタル組合及其組合員ヨリ有利ナル點種々アリ(工業及備慌組合條例ニ規定アリ)
貸付ニ關シテハ組合ハ其規約ニ於テ組合員ニ對シ動産又ハ不動産ヲ擔保トシテ貸付ヲナスコトヲ規定スルヲ得

銀行業ハ引出シ得可キ株式資本ヲ有スル組合ハ之レヲ營ムコトヲ得ス、但組合カ一人總額二十磅一回五志以下ノ金錢ヲ預リ少ナクトモ滿二日以前ノ通知ヲ以テ引出スコトヲ許スモノハ之レヲ銀行業ト認メサルヲ以テ如何ナル組合モ之レヲ爲スヲ得

尙銀行事業ヲ營ム組合ハ毎年二月及八月ノ最初ノ月曜日ニ於テ財産ノ狀態ヲ左記ノ形式ニ依リテ記載

シ登記ヲ受ケタル店舗及其他ノ各店舗ニ於テ揭示スルヲ要ス

一、組合ノ資本金

- (a) 各株式ノ金額
- (b) 發行シタル株式ノ數
- (c) 各株式ニ付キ拂込ミタル金額

二、一月一日又ハ七月一日現在組合ノ債務

- (a) 裁判上ノ債務
- (b) 手形上ノ債務
- (c) 全債務額

三、同日ニ於ケル組合ノ資産

- (a) 政府證券
- (b) 爲替手形及約束手形
- (c) 銀行ニ於ケル現金
- (d) 其他ノ證券

第三 慈善建築組合

慈善建築組合ノ目的ハ會員ヲシテ組合ノ出資ヲ引受ケシメ毎月一磅宛ヲ拂込マシメ、而シテ會員ヲシテ住家ヲ建築購入シ又ハ土地ヲ買入ルヲ得セシメ、又ハ會員ニ對シ各自引受ケタル出資ノ額迄不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スニ在リ。而シテ一口ノ出資ハ百五十磅ヲ超ユルヲ得ス。Birkbeckハ此種ノ組合中最モ有名ナルモノナリ

第四 建築組合

此ノ種ノ組合ハ近世ノ形式ニシテ其目的ハ組合員ヲシテ出資ヲ引受ケシメコレニ依リテ作りタル資金ヲ以テ不動産ヲ抵當トシテ組合員ニ貸付ヲ爲スニ在リ。今其内容ヲ概觀スルニ(一)會員ハ出資ノ引受ヲナシ週掛又ハ月掛ノ割賦ニ依リテ其拂込ヲ爲ス(二)一定ノ期間ノ終ニ於テ組合員ハ拂込ミタル金額ト配當セラレタル利益トノ和カ引受ケタル出資ノ金額ニ達シタルトキニハ其拂戻ヲ受ケ又ハ放資ヲナスヲ得(三)故ニ組合員ハ常ニ變動ス(四)組合員カ貸付ヲ受ケルニハ相當ノ擔保ヲ提供スルコトヲ要シ一旦貸付ヲ受ケタル組合員ハ每週又ハ毎月ノ掛金ト共ニ貸付金ニ對スル利息ヲ支拂フモノトス而シテ出資ノ拂込金カ拂込済ニナリタル場合ニ其組合員カ受ク可キ拂戻金ト借入金ト相殺セラル、モノトス故ニコノ種ノ組合ハ貸付ヲ受ケル會員ニハ貸付組合タリ又貸付ヲ受ケサル會員ニハ貯蓄組合タリ又投資組合タリト云フヲ得可シ

第五 保證貸付組合

コノ種ノ組合ハ労働者ニ對シ割賦辨濟ノ方法ニ依ル貸付ヲナスヲ目的トス

第六 愛蘭土ノ貸付組合

愛蘭土ノ貸付組合ハ前ニ掲ケタル法律ノ支配ヲ受ケス全然他ノ法律ニ依リテ規定セラル。愛蘭土ノ貸付組合ハ全然慈善機關ニシテ組合ノ利益ハ組合員所得ニ非ラスシテ學校ノ設立、病院ノ維持等凡テ公共事業ニ使用セラル、貸付ニハ二名ノ保證人ヲ要シ而シテ其貸付金額ハ或ル特定ノ目的ニノミ使用スルヲ要ス、一人ノ貸付最高額ハ十磅トシ利息ハ手数料共百分ノ六トス返済ハ週拂ニシテ二十週間ニ返済スルヲ要ス、組合員ノ貸付金ヲ以テ購入シタル器具、農具類ハ其貸付金ヲ皆済スル迄ハ組合ノ封印ヲ受ク封印ヲ解カル、迄ハ組合ニ對スル債務以外ノ債務ニ依テ差押ヘラル、コトナシ租税ノ滞納ニ對シテモ差押フルヲ得ス

第九章 質屋

第一 營利的質業

英國ニ於テ質業ニ關スル最初ノ法律ハジエームス一世ノ時千六百三年ニ於ケル質屋取締條例(An Act against Pawnbrokers)ナリトス、其後千八百十年シヨース三世ノ時代ニ於テAn Act for better regulating the business of pawnbrokingト稱スル取締法ヲ發布セリ、是等ノ法律ハ頗ル嚴密ナル規定ヲ設ケ質業者ノ行動ヲ束縛シタルヲ以テ質業者ハ非常ナル苦痛ヲ感シ之レカ修正ヲ爲サンカ爲メ或ハ組合ヲ組織シ或ハ連合會ヲ作り幾度カ運動ヲ試ミタリ、今千八百四十四年ニ於ケル「リバープール」ノ質屋組合ニ於テ決議シ全國質業者ニ配布シタル回狀ヲ見ルニ(一)法律ニ規定シタル過重ノ刑罰ヲ輕減スルコト(二)公平ナル基礎ノ上ニ法律規則ヲ立ツルコト(三)詐僞行爲ヨリ質屋ノ正當ナル地位ヲ保護スルコト(四)法律中ノ微細ナル規定ヲ削除スルコト(五)一般ニ業務執行ノ方法ヲ簡易ニスルコト等ヲ決議シ、尙倫敦其他ノ都市ニ於ケル同業者ノ援助ヲ得ルナラハ「リバープール」同業組合ハ奮テ運動ノ先鞭者タル可キコトヲ記セリ其後質業者ノ激烈ナル運動ノ結果政府モ條例ノ改正ヲ必要ナリト認メ千八百七十一年特別調査委員ヲ任命セリ、調査委員ノ報告ノ要旨ハ左ノ如クニシテ質業者ハ利益アル報告ヲ得タリ

一般公衆ハ法律ノ規定ノ範圍内ニ於テ相互ニ最良ナリト考フル條件ヲ以テ貨物ヲ賣買シ又ハ貨物ヲ

擔保トシテ金錢ノ貸借ヲナスハ自由タル可シ、從テ質業ニ關スル法律ニ規定スル制限モ亦狹キ範圍ニ限ラサル可カラス、唯質業者ト少額ナル取引ヲ爲ス細民ハ質取引ニ關スル凡テノ條件ヲ充分ニ理解スルヲ得サル爲メ往々不正ノ損害ヲ受クル如キコトアルヲ以テ此ノ點ニ於テ制限ヲ置カサル可カラス、然レトモ此ノ理由ハ巨額ノ取引ニ關シ適用スルノ根據ヲ有セサルヲ以テ巨額ノ質取引ニ關シテハ宜數自由契約ニ放任ス可シ、如何ナル程度ノ取引ニツキテ制限ス可キヤハ容易ナラサル問題ナレトモ先ツ二磅ヲ以テ標準トシ夫レ以上ハ當事者ノ自由契約ニ放任スルヲ可トス可シ、然レトモ久シキ間ノ慣習トシテ十磅迄ノ取引ニツキテハ法律ニ規定セラルトノ考カ一般公衆ノ腦裡ニ存スルヲ以テ二磅以上十磅以下ノ取引ニ關シテハ當事者間ニ特別ノ意思表示ナキ限りハ法律ノ規定ニ從ハシムルヲ可トス

質業者ハ質物請出期間ハ質物ヲ返還シ不正ナル要求ニ對シ保證ス可キ絶對ノ義務ヲ負擔ス可シ、尙質業者ハ自由ニ擔保物ノ價格ヲ決定シ自己ノ債務全體ヲ保險ニ附ス可キ權限ヲ有ス可シ特別調査委員會ノ報告ハ右ノ如ク質業者ノ改正意見ニ裏書シタリシモ尙政府ハ不充分ノ點アリトシ更ニ改正ノ實際上ノ效果及質屋ヲ利用スル人民ノ慣習ニ便宜ナリヤ否ヤヲ調査セシムル目的ヲ以テ更ニ議會ニ於ケル特別調査會ニ附議セリ、コノ調査會ニ於テ多少ノ修正ヲナシテ遂ニ可決セラレ千八百七十二年一月一日ヨリ實施セラル、コト、ナレリ是レ今日ノ法ナリ

現行法ノ大要ヲ看ルニ

- 一、動産ヲ買ニ取リテ金錢ノ貸付ヲナスコトヲ營業トスル者及外觀他ノ業務ヲ營ムモ實際ニ於テ動産擔保貸付ヲ營業トスル者ハ十磅以下ノ貸付ヲ爲ス範圍ニ於テ毎年免許ヲ受ケサル可カラズ
免許申請者カ善良ナル性格ヲ有セサルトキ及申請者ノ店舗ニ盜賊其他惡シキ性格ノ者カ出入スルトキハ免許セラレス
- 二、質業者ハ特定ノ勘定帳簿ヲ設備シ使用セサル可カラズ
- 三、店頭ノ入口ニハ Pawnbroker, ナル詞ヲ附シテ姓名ヲ揭示セサル可カラズ
- 四、店頭ノ見易キ場所ニ於テ質取引カ許可セラレタル條件ニ關スル規則ヲ揭示セサル可カラズ
- 五、二磅以上十磅以下ノ貸借ニ就キテハ當事者間ニ特別ノ合意存スル場合ハ法律ノ適用ナシ
- 六、凡テノ場合ニ質入券ヲ交附セサル可カラズ、券面ニハ利息、期間及請出ノ條件其他定メラレタル事項ニ關シ詳細ナル記載ヲナスヲ要ス
- 七、質業者ハ二十才以下ニ見ユル者及酩酊者ヨリ質物ヲ受クルコトヲ得ス
- 八、質業者ハ助手トシテ十六歳以下ノ者ヲ使用スルヲ得ス、又公共ノ休日ニハ執務スルヲ得ス
- 九、尙自己ニ寄託セラレタル物品又ハ盜取シタル物品ヲ質ニ置クコトヲ困難ナラシムル爲ノ規定アリ、而シテ質業者ハ質物カ質入主ノ所有物ニ非ラサルコトヲ疑フ可キ正當ノ理由アルトキハ質入

主及物品ヲ警察官ニ引渡スヲ要ス

- 十、規則ニ違反シタル質業者ハ刑罰ノ制裁ヲ受ク
- 十一、質物ノ質却ニ關シテハ特別ノ規則ニ從フ

第二 慈善的質屋

英國ニ於ケル慈善質屋ニ關スル計畫ハ凡テ失敗ノ歴史ヲ存スルノミニシテ現時ニ於テモ大陸諸國ニ於テ行ハル、如キ慈善質屋制度ハ殆ント見ルヲ得ス今簡單ニ其沿革ヲ尋ヌルニ

○セントフライヰウード基金 (The St. Frideswyde Fund)、十一世紀ニ於テオックスフォード金庫 (Oxford Chest) エヨックスフォード大學ノ貧窮ナル學生ニ金錢ヲ貸與シタルコトカ英國ニ於ケル慈善的質業ノ濫觴ナリトス、千二百四十年此ノ基金ノ保管及使用ニ關シ規定シタル勅令ヲ見ルニ(一)基金ニ寄附セラレタル金錢ハ凡テ St. Frideswyde 寺院ニ預托スルコト(二)基金ノ保管者ヲ三人トシ二名ハ牛津大學總長之レヲ任命シ一名ハ大學總長ノ同意ヲ得テ同寺院ニ於テ任命スルコト(三)此基金ハ適當ナル擔保物ヲ取リテ貧窮ナル學生ニ金錢ノ貸付ヲナスコト(四)借主ハ一箇年間ハ質物ノ請出ヲ許サル、モ其期間經過スレハ質物ハ賣却セラル可キコト(五)貸借ニ關シ生シタル爭議ハ凡テ大學總長ノ決定ニ服從ス可キコト等ノ規定アリ

○ノースベリー基金(The Northbury Fund)、次ニ千七百六十一年ニ於テ倫敦ノ大僧正ノースベリー氏カセントポールスノ金庫ニ千「マルク」ノ寄贈ヲナシコレニ依ツテ無利息無手料ノ質貸ヲナサシメタリ
 貸付金最高額ハ借主ノ社會上ノ地位ニ依リテ異ナリ一般平民ハ十磅以内、公民權ヲ有スル市民及貴族
 ハ二十磅以内、寺院ノ監督(Dean; Canon)ハ三十磅以内、僧正(bishop)ハ四十磅以内ノ借入ヲナスコ
 トヲ得、而シテ貸付金カ一ケ年以内ニ返還セラレサルトキハセントポールスヨリ僧ヲ派シテ期限到來
 ノ旨ヲ通知シ夫レヨリ尙二週間内ニ質物ヲ請出サ、ルトキハ賣却セラル可シ

○ハルグレーヴノ計畫、其後チャルス一世ノ時代ニ於テ國帑窮乏シ如何トモスル能ハス時ニ王黨ノ一
 人ハルグレーヴ氏ハ當時高利貸(Usurer)及質屋カ非常ノ高利ヲ貪ルコトニ依ツテ貧民カ受ケツ、ア
 ル慘害ヲ救済シ併セテ之レニヨリテ王室ノ收入ヲ計ラン爲メChambers of Orphanes par çous 孤兒院ノ
 保有金ヲ倫敦市ニ預託セシメテ慈善的質業ヲ營マシムルカ又ハ倫敦市ノ資金ヲ以テ十萬磅ノ資本ヲ有
 スル簡易貸付銀行ヲ設立セシメ之レニ依ツテ其純益ノ三分ノ二ヲ王室ノ收入トナサント計畫セリ、然
 レトモ苛斂誅求ノ爲メ既ニ市民ノ同情ヲ失ヒタル王室ノ計畫ハ全然失敗ニ歸シタリ

○質屋銀行、其後アンナ女王ノ時代ニ於テ始メテ大陸諸國ノ制度ニ倣ヒ慈善的貸付機關ヲ設立シテ細
 民ヲ保護スルノ機運近ツケリ、即チ千七百八十年ニ於テ細民ニ對スル貸付ヲ目的トスル慈善法人(Char-
 itable corporation for lending money to the industrious but necessitous poor)カ國會ノ條例ニヨリテ設立

セラレ、ニ到レリ、該法人ハ初メ三萬磅ノ資本金(其後展増資シテ遂ニ六十萬磅トナレリ)ヲ以テ千七
 百十九年開業シ數年間ハ每期一割ノ配當ヲナシ居リシモ經營其宜シキヲ得ス株式取引ニ失敗シテ莫大
 ノ損失ヲ招ク等遂ニ千七百三十七年ニ於テ最後ノ破綻ヲナセリ、然ルニ本法人ノ株主ハ中産以下ノ人
 民多カリシヲ以テ此ノ法人ノ破綻ニヨリテ影響スル所決シテ尠カラサリキ、殊ニ此ノ法人ハ英國ニ於
 テ細民ニ對スル慈善的金融機關ノ嚆矢タリシヲ以テ此レカ事業ノ成否ハ英國ニ於ケル此種ノ事業ノ盛
 衰ニ非常ナル關係ヲ有シタルニ拘ラス不幸ニシテ經營其宜シキヲ得サリシ爲メニ破綻シタル結果其後
 殆ント一世紀ノ間絶エテ此ノ種ノ計畫ヲ企ツルモノナカリキ、漸ク千八百二十三年ニ於テ一ノ慈善
 貸付銀行(Philanthropic Loan Bank)ノ設立カ發起セラレタルモ資本金ノ募集意ノ如クナラスシテ閉息
 シタリ、然レトモ更ニ又百萬磅ノ資本金ヲ以テ公平貸付會社(Equitable Loan Company)ノ設立發起セ
 ラレタリ、而シテ此ノ會社ニハ小資本家ヲモ干與セシムル爲メニ僅カニ二磅ノ預托金ヲナセハ券面五
 十磅ノ株主タラシムルコトヲ得セシメタリ然レトモ此ノ法案ハ下院ヲモ通過セスシテ止ミタリ。
 要スルニ英國ニ於ケル慈善的質屋制度ハ當時凡テ失敗トシテ認メラレ其後千八百四十三年ニ上院ニ提
 出セラレタル案モ千八百四十四年下院ニ提出セラレタル案モ皆同一ノ運命ニ陥レリ

内國ノ部

産業組合法

明治三十三年三月
法律第三十四號

第一章 總 則

第一條 本法ニ於テ産業組合トハ組合員ノ産業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル爲左ノ目的ヲ以テ設立スル社團法人ヲ謂フ

一 組合員ニ産業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト(信用組合)

二 組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ加工セシテ之ヲ賣却スルコト(販賣組合)

三 産業又ハ生計ニ必要ナル物ヲ購買シ之ニ加工シ又ハ加工セシテ組合員ニ賣却スルコト(購賣組合)

四 組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ組合員ヲシテ産業ニ必要ナル物ヲ使用セシムルコト(生産組合)

信用組合ハ組合員外ノ者ニシテ組合加入ノ豫約^的ヲ爲シタルモノ、出資一口ニ達スル迄ノ貯金ヲ取扱フコトヲ得

第二條 産業組合ノ組織ハ無限責任、有限責任及保證責任ノ三種トス

無限責任組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ連帶無限ノ責任ヲ負擔シ、有限責任組合ニ在リテハ組合員ノ全員カ其出資額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔シ、保證責任組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ其ノ出資額ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔ス

第三條 産業組合ノ住所ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第四條 産業組合ノ名稱中ニハ其ノ組織及目的ヲ示スヘキ文字ヲ用ウヘシ

産業組合ニ非シテ其ノ名稱中ニ産業組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第五條 産業組合ニハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外商法及商法施行法中商人ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 産業組合ニハ所得税營業稅ヲ課セス

第二章 設 立

第七條 産業組合ハ七人以上ニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第八條 組合ノ設立者ハ定款ヲ作り之ヲ主タル事務所々在地ノ地方長官ニ差出シ設立ノ許可ヲ請フヘ

シ

第九條 定款ニハ本法ニ規定アルモノヲ除クノ外左ノ事項ヲ記載シ設立者之ニ署名捺印スヘシ

一 目的

二 名稱

三 組織

四 事務所

五 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

六 第一回拂込ノ金額

七 剩餘金處分及損失分擔ニ關スル規定

八 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

九 組合員タル資格ニ關スル規定

十 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

十一 組合ノ目的タル事業ノ執行ニ關スル規定

十二 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

信用組合ノ區域ハ市町村ノ區域以内ニ於テ之ヲ定メ定款中ニ記載スヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ

地方長官ノ認可ヲ得テ此ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

第十條 産業組合ハ其ノ組合員ノ數ヲ限定スルコトヲ得ス

第十一條 出資一口ノ金額ハ均一ニ之ヲ定ムヘシ

第十二條 組合カ其ノ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク各組合員ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシム

ヘシ

第十三條 前條ノ拂込アリタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第十四條 登記スヘキ事項左ノ如シ

一 第九條第一號乃至第五號及第十二號ニ掲ケタル事項

二 設立許可ノ年月日

三 理事及監事ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテハ其

ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十五條 産業組合ハ其ノ設立ノ登記ノ申請ト共ニ左ノ事項ヲ記載シタル組合原簿ヲ其ノ主タル事務

所々在地ノ裁判所ニ差出スヘシ

一 出資ノ總口數

二 拂込ミタル出資ノ總額

三 保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名、住所及保證金額

四 無限責任組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名、住所

前條第二項ノ規定ハ前項ニ依リ差出シタル帳簿ニ之レヲ準用ス但シ前項第一號及第二號ノ事項ニ付テハ定款ヲ以テ一事業年度内一回又ハ數回ニ期日ヲ定メテ其ノ期日後二週間内ニ記載ヲ爲スコトヲ得

裁判所ニ差出シタル組合原簿ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第十五條ノ二 行政區劃又ハ其ノ名稱ニ變更アリタルトキハ登記簿又ハ組合原簿ニ記載シタル行政區劃又ハ其ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス大字若ハ字又ハ其ノ名稱ニ變更アリタルトキ亦同シ

前項大字若ハ字又ハ其ノ名稱ノ變更アリタルトキハ組合ハ遲滞ナク之ヲ登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知アリタルトキハ登記所ハ登記簿又ハ組合原簿ノ記載ヲ變更スヘシ

第一項ノ規定ハ事務所所在地ニ關スル定款ノ規定ニ之ヲ準用ス

第十六條 民法第四十五條第二項、第三項、第四十七條及第四十八條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス但シ同規定中一週間トアルヲ二週間トス

第三章 組合員ノ權利義務

第十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

組合員ノ有スヘキ出資口數ハ十口ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條 組合員ハ組合ニ拂込ムヘキ出資額ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス

第十九條 組合員ハ組合ノ承諾アルニ非サレハ其持分ヲ讓渡スコトヲ得ス

組合員ニ非サル者ニシテ持分ヲ讓受ケムトスルトキハ加入ノ例ニ依ルヘシ

第二十條 組合員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス

第二十一條 持分ノ讓受人ハ其持分ニ付讓渡人ノ權利義務ヲ承繼ス

第二十二條 新ニ組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生シタル組合ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負擔ス

第二十三條 組合員ハ總組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ總會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ理事ニ請求スルコトヲ得

第二十四條 組合員ニシテ總會ノ招集手續又ハ其ノ決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ違背スト認ムルトキハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ其ノ決議ノ取消ヲ地方長官ニ請求スルコトヲ得

第四章 管理

第二十五條 産業組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立ノ當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十六條 理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 理事又ハ監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第二十八條 理事及監事ノ選任及解任ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ決ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 理事ハ定款及總會ノ決議録ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且組合員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クヘシ

組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條ノ二 組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 各組合員ノ氏名住所

二 各組合員ノ出資口數

三 各組合員ノ拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日

四 出資各口ノ取得ノ年月日

五 保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ保證金額

第三十條 理事ハ通常總會ノ會日ヨリ一週間前ニ財産目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フヘシ

組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 理事ハ前條第一項ニ掲ケタル書類及監事ノ意見書ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第三十二條 民法第四十四條第一項、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第六十條及第六十一條第一項ノ規定ハ産業組合ノ理事ニ之ヲ準用ス

第三十三條 監事ハ理事其ノ他組合ノ事務員ト相兼メルコトヲ得ス

第三十四條 民法第五十九條ノ規定ハ産業組合ノ監事ニ之ヲ準用ス

第三十五條 組合カ理事ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事組合ヲ代表ス組合ト理事トノ間ノ訴訟ニ付テモ亦同シ

第三十六條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第三十七條 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス但シ組合ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スヘシ

第三十八條 民法第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項及第六十六條ノ規定ハ產業組合ニ之ヲ準用ス

第三十八條ノ二 組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ定款ヲ以テ總會ニ代ハルヘキ總代會ヲ設クルコトヲ得總會ニ關スル規定ハ前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス但シ總代會ニ於テハ解散及合併ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 定款ノ變更ハ總會ノ決議ニ依ルヘシ

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第四十條 組合カ出資一口ノ金額ノ減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及貸借對照表ヲ作ルヘシ

組合ハ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述ブヘキ旨ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

第四十一條 債權者カ前條第二項ノ期間内ニ出資ノ減少ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ出資ヲ減少スルコトヲ得ス

第四十二條 前二條ノ規定ハ保證責任組合カ組合員ノ保證金額ヲ減少スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 組合員カ其ノ出資ノ拂込ヲ終ル迄ハ之ニ配當スヘキ剩餘金ハ其ノ拂込ニ充ツヘシ

第四十四條 組合ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

剩餘金配當ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十五條 組合ハ第五十三條ノ場合ヲ除クノ外持分ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得ス

第四十六條 組合ハ定款ヲ以テ定メタル準備金ノ額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第四十七條 組合ノ事業年度ハ一箇年トス

第四十八條 組合ハ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

第五章 加入及脱退

第四十九條 無限責任組合ニ加入セムトスル者ハ總組合員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第五十條 定款ヲ以テ組合ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス組合員ハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得但シ六箇月前ニ其ノ豫告ヲ爲スヘシ

前項ノ豫告期間ハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得但シ二箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十一條 組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス

- 一 組合員タル資格ノ喪失
- 二 死亡
- 三 破産
- 四 禁治産
- 五 除名

第五十二條 除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

除名ハ總會ノ決議ニ依ル但シ除名シタル組合員ニ其ノ旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第五十三條 脱退シタル組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第五十四條 脱退シタル組合員ノ持分ハ其ノ脱退シタル事業年度ノ終ニ於ケル組合財産ニ依リテ之ヲ定ム但シ定款ノ定ムル所ニ依リ脱退當時ノ財産ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得

第五十五條 持分ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ但シ前條但書ノ場合ニ於テハ脱退ノ時ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ

持分拂戻ノ請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二箇年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第五十六條 持分ノ計算ヲ爲スニ當リ組合財産ヲ以テ組合ノ債務ヲ完済スルニ足ラサルトキハ脱退シタル組合員ハ其ノ負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムヘシ

第五十七條 脱退シタル組合員カ組合ニ對スル債務ヲ完済スル迄ハ組合ハ其ノ持分ノ拂戻ヲ停止スルコトヲ得

第五十八條 無限責任組合及保證責任組合ニ在リテハ脱退シタル組合員ハ脱退前ノ組合債權者ニ對シ其ノ脱退ヲ組合原簿ニ記載シタル後二箇年間責任ヲ負擔ス

前項ノ規定ハ特別ノ契約ヲ以テ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ妨ケス

前二項ノ規定ハ持分ヲ讓渡シタル組合員ニ之ヲ準用ス

六六八

第六章 監督

第五十九條 産業組合ハ主務大臣、地方長官及郡長之ヲ監督ス

第六十條 監督官廳ハ何時ニテモ理事ヲシテ組合ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ組合ノ事業及財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他必要ナル命令ヲ發シ及處分ヲ行フ

第六十一條 組合ノ事業又ハ組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲カ定款若ハ法令ニ違背シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アルトキハ主務大臣又ハ地方長官ハ總會ノ決議ヲ取消シ、理事、監事若ハ清算人ノ改選ヲ命シ、組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ヲ解散スルコトヲ得

第七章 解散

第六十二條 組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總會ノ決議

三 組合ノ合併

四 組合員カ七人未滿ニ減シタルトキ

五 組合ノ破産

第二十八條ノ規定ハ解散及合併ノ決議ニ之ヲ準用ス但シ無限責任組合ノ合併ニ付テハ總組合員ノ同意アルコトヲ要ス

第六十三條 組合カ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第六十四條 第四十條第四十一條ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 合併ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第六十六條 組合カ合併ヲ爲シタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ合併後存続スル組合ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ消滅シタル組合ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル組合ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第六十七條 合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第六十八條 組合ハ總組合員ノ同意ヲ以テ其ノ組織ヲ變更スルコトヲ得

六六九

組合カ組織變更ニ因リ組合員ノ責任ヲ減少スルトキハ第四十條及第四十一條ニ定メタル手續ヲ爲スヘシ

第六十九條 民法第七十條ノ規定ハ産業組合ノ解散ニ之ヲ準用ス

第八章 清算

第七十條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第七十一條 清算人ハ就職後遲滞ナク組合財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ作り之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十二條 清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ組合財産ヲ分配スルコトヲ得ス

第七十三條 清算事務カ終リタルトキハ清算人ハ遲滞ナル決算報告書ヲ作り之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十四條 清算人ノ解任アリタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲シ且之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第七十五條 民法第七十三條乃至第八十三條ノ規定ハ産業組合ノ清算ニ之ヲ準用ス但シ同規定中一週

間トアルハ二週間トス

第九章 産業組合聯合會及産業組合中央會

第七十六條 産業組合ハ左ノ目的ヲ以テ産業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

一 所屬組合ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト(信用組合聯合會)

二 所屬組合ノ賣却スル物ニ加工シ又ハ加工セスシテ之ヲ賣却スルコト(販賣組合聯合會)

三 所屬組合ノ購買スル物ヲ購買シテ之ニ加工シ又ハ加工セスシテ所屬組合ニ賣却スルコト(購買組合聯合會)

四 所屬組合カ其ノ組合員ニ使用セシムル物ヲ所屬組合ニ貸付スルコト(生産組合聯合會)
前項第一號ノ聯合會ニ在リテハ信用組合外ノ組合又ハ第二號乃至第四號ノ産業組合聯合會ヲ加入セシムルコトヲ得

第七十七條 産業組合聯合會ハ社團法人トス

産業組合聯合會ノ組織ハ有限责任及保證責任ノ二種トス

保證責任産業組合聯合會ノ所屬組合及所屬聯合會ノ保證責任ハ其ノ出資總額ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第七十八條 産業組合又ハ産業組合聯合會カ産業組合聯合會ニ加入シ又ハ脱退セムトスルトキハ總會ノ決議ニ依ルヘシ

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第七十九條 産業組合聯合會ノ區域ハ道府縣以内ノ範圍ニ於テ之ヲ定メ定款中ニ記載スヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ主タル事務所々在地ノ地方長官ノ認可ヲ得テ此ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

主タル事務所々在地ヲ管轄スル地方長官ヲ異ニスル二箇以上ノ産業組合聯合會カ合併セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一項但書又ハ前項ノ規定ニ依リ設立シタル産業組合聯合會ノ監督其ノ他ノ職務ハ其ノ主タル事務所々在地ヲ管轄スル地方長官之ヲ行フ

第八十條 産業組合聯合會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ所屬組合又ハ所屬聯合會ノ理事及監事ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ニ非サル者ヨリ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

産業組合聯合會設立當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ定ムルコトヲ得

第八十一條 産業組合聯合會ニハ本章ニ規定アルモノヲ除クノ外産業組合ニ關スル規定ヲ準用ス

第八十二條 産業組合中央會ハ産業組合及産業組合聯合會ノ普及、發達及聯絡ヲ圖ル目的ヲ以テ設立

スルコトヲ得

産業組合中央會ハ社團法人トス

産業組合中央會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ産業組合ノ事業ノ一部ヲ行フコトヲ得

第八十三條 産業組合中央會ノ名稱中ニハ産業組合中央會ナル文字ヲ用ウヘシ

産業組合中央會ニ非スシテ其ノ名稱中ニ産業組合中央會タルコトヲ示スヘシ文字ヲ用ウルコトヲ得

第八十四條 産業組合中央會ハ全國ヲ通シテ一箇トシ其ノ設立ハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

産業組合中央會ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十五條 産業組合及産業組合聯合會ハ産業組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得

前項以外ノ者ト雖モ定款ノ定ムル所ニ依リ産業組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得

第八十六條 産業組合中央會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 名稱

二 事務所

三 會員ノ加入及脱退ニ關スル規定

四 會員ノ權利義務ニ關スル規定

- 五 資産ニ關スル規定
 - 六 役員ニ關スル規定
 - 七 會議ニ關スル規定
 - 八 事業ノ執行ニ關スル規定
 - 九 定款ノ變更ニ關スル規定
 - 十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由
定款ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス
- 第八十七條 産業組合中央會設立ノ許可アリタルトキハ二週間内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立
ノ登記ヲ爲スヘシ
- 登記スヘシ事項左ノ如シ
- 一 目的及第八十二條第三項ノ規定ニ依ル事業ノ種類
 - 二 第八十六條第一項第一號、第二號及第十號ニ掲ケタル事項
 - 三 資産ノ總額
 - 四 設立許可ノ年月日
 - 五 理事及監事ノ氏名、住所

- 第十四條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第八十八條 産業組合中央會ニハ理事及監事ヲ置クヘシ
- 第八十九條 産業組合中央會ノ理事及監事ハ會員タル産業組合又ハ産業組合聯合會ノ理事、監事及第
八十五條第二項ノ會員ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ
- 第九十條 産業組合中央會ノ總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ中ヨリ選出シタル代表者ヲ以テ組織
ス但シ第九十二條ニ於テ準用シタル第六十二條第一項第二號ノ總會ハ會員ヲ以テ組織ス
- 第九十一條 産業組合中央會ハ主務大臣之ヲ監督ス
- 第九十二條 第三條、第五條、第六條、第七條、第十條、第十五條ノ二、第十六條、第二十六條、第
二十七條、第二十九條、第三十條乃至第三十五條、第三十九條第一項、第四十七條、第六十條、第
六十一條、第六十二條第一項第一號第二號第四號第五號、第六十三條、第六十九條乃至第七十五條
第八十條第二項、第九十三條、第九十四條、第九十八條、第九十九條、第一百一條、第一百二條第二項
第一百三條乃至第一百五條及民法第六十二條、第六十四條ノ規定ハ産業組合中央會ニ之ヲ準用ス

第十章 罰 則

第九十三條 組合ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上三百圓以下ノ過料ニ處セラル

- 一 本法ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ
 - 二 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
 - 三 第二十九條第一項及第三十條第一項ノ規定ニ違背シ又ハ第二十九條第一項及第三十條第一項ニ掲ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ若ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ
 - 四 第四十條、第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十八條又ハ第七十二條ノ規定ニ違背シタルトキ
 - 五 第六十條ノ報告ヲ爲サス又ハ検査ヲ拒ミ其ノ他監督官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ
 - 六 民法第七十九條ノ期間内ニ債權者ニ辨償ヲ爲シタルトキ
 - 七 民法第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ
 - 八 民法第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ違背シタルトキ
 - 九 組合ノ目的タル事業ニ非サル營利事業ヲ營ミタルトキ
- 第九十四條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附 則

第九十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十六條 産業組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所々在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所産業組合聯合會及

産業組合中央會ノ登記ニ付テハ其ノ事務所々在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス

第九十七條 各登記所ニ産業組合登記簿、産業組合聯合會登記簿及産業組合中央會登記簿ヲ備フ

第九十八條 組合設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 定款

二 地方長官ノ許可書又ハ其ノ認證アル謄本

三 保證責任組合ニ在リテハ各組員ノ保證金額ヲ證スル書面

四 無限責任組合ニ在リテハ各組員ノ加入ヲ證スル書面

第九十九條 事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且地方長官ノ認可ヲ要スルモノニ付テハ其ノ認可

書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ

前二項ノ規定ハ組合原簿ノ記載ノ申請ニ之ヲ準用ス

第一百條 出資一口ノ金額又ハ組員ノ責任ノ減少ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 地方長官ノ認可書又ハ其ノ認證アル謄本

二 第四十條第二項ニ依ル催告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル債權者アルトキハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面

第百一條 組合ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且組合カ總會ノ決議ニ因リテ解散シタルトキハ總會ノ決議録ヲ添附スヘシ

第百二條 合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請書ニハ第百條ニ掲ケタル書面ヲ添附スヘシ

組合カ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ監督官廳ノ囑託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第百三條 第九十八條第一項ノ規定ハ出資一口ノ金額又ハ組合員ノ責任ノ減少、組合ノ解散及組合ノ合併ニ因ル變更、設立又ハ解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百四條 本法ノ規定ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所遲滯ナク之ヲ公告スヘシ但シ組合原簿ニ記載シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百五條 非訟事件手續法第百三十六條乃至第百三十八條、第百四十一條乃至第百五十一條、第百五十四條乃至第百五十八條、第百六十三條乃至第百六十五條及第百七十五條乃至第百七十七條ノ規定ハ産業組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百六條 本法ノ規定ニ因リ郡長ノ行フヘキ職務ハ伊豆七島ニ於テハ東京府知事、北海道ニ於テハ支

廳長、沖繩縣ノ區ニ於テハ區長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ

第百七條 北海道ニ於ケル産業組合ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前産業組合カ裁判所ニ差出シタル組合員名簿ハ組合原簿ト看做ス

産業組合法施行規則

明治四十二年八月
農商務省令第三十五號

六八〇

第一條 信用組合ノ區域内ニ住居スル者ニ非サレハ加入ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ豫約者ニ對スル貯金ノ拂戻ハ豫約ノ消滅シタル時ニ限り之ヲ爲スコトヲ得
豫約者ハ其ノ貯金カ現在組合員ノ出資一口ニ對スル拂戻金額ノ最小額ト同額ニ達シタル後ニ非サレ
ハ組合ニ加入スルコトヲ得ス

豫約者カ豫約後三箇年ヲ經過シ尙ホ組合員ト爲ルニ至ラサルトキハ組合ハ豫約ノ解除ヲ爲スヘシ

第二條 出資一口ノ金額ハ組合ニ在リテハ五十圓、聯合會ニ在リテハ五百圓ヲ超ユルコトヲ得ス但シ
特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 第一回拂込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第四條 準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ス

第五條 組合若ハ聯合會カ新ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徴收シ又ハ新ニ出資口數ヲ増加スル者ヨリ増
口金ヲ徴收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルヘシ脱退シタル組合員又ハ組合若ハ聯合會ニ
對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戻スヘキコトヲ定メタルトキハ其殘額ニ付亦同シ

第六條 總代會ハ組合ニ在リテハ千人以上ノ組合員、聯合會ニ在リテハ百人以上ノ所屬組合及所屬聯

合會ヲ有スルニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス

總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款ニ總代ノ員數、任期及選舉ニ關スル規定ヲ設ケヘシ

第七條 産業組合法第九十條ノ代表者ハ道府縣毎ニ會員之ヲ選舉スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ代表者ニ之ヲ準用ス

第八條 理事及監事ハ定款ノ規定又ハ總會若ハ總代會ノ決議ニ依ルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ
受クルコトヲ得ス

第九條 組合、聯合會及中央會ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 理事ハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル後遲滞ナク産業組合法第三十條第一項ニ掲ケタル書類
ヲ組合又ハ總代會ニ在リテハ地方長官ニ、中央會ニ在リテハ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十一條 組合又ハ聯合會ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 組合ニ在リテハ組合員ノ職業別ノ數並出資口數ノ異動、聯合會ニ在リテハ所屬組合及所屬聯合
會ノ種類別ノ數並出資口數ノ異動

二 出資拂込ノ總額及剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込ニ充テタルトキハ其ノ總額

三 損益ノ計算並借入金及其ノ償還

四 總會又ハ總代會ノ決議

六八一

五 事業ノ狀況

六 信用組合又ハ信用組合聯合會ニ在リテハ貸付シ又ハ償還ヲ受ケタル金額及件數、受入又ハ拂戻シタル貯金額及貯金ヲ爲シタル組合員又ハ所屬組合及所屬聯合會ノ數並貯金及貸付金ノ利率、產業組合法第一條第二項ノ豫約ヲ爲シタル信用組合ニ在リテハ豫約者ノ數及其ノ貯金額、販賣組合又ハ販賣組合聯合會ニ在リテハ受入又ハ販賣シタル物ノ種目別ノ數量及價額、購買組合又ハ購買組合聯合會ニ在リテハ購買又ハ賣却シタル物ノ種目別ノ數量及價額、生産組合ニ在リテハ生産シタル物ノ種目別ノ數量又ハ加工若ハ使用ノ功程ヲ表示スヘキ事項、生産組合聯合會ニ在リテハ使用ノ功程ヲ表示スヘキ事項

七 處分ノ要件

前項ノ規定ハ中央會ノ事業報告書ニ之ヲ準用ス
 第十二條 組合、聯合會又ハ中央會カ借入金ヲ爲サムトスルトキハ毎年總會又ハ總代會ニ於テ一事業年度ニ於ケル借入額ノ最高限度ヲ議決スヘシ
 前項ノ規定ハ信用組合又ハ信用組合聯合會カ一事業年度ニ於ケル一組合員又ハ一所屬組合若ハ一所屬聯合會ニ對シテ爲ス貸付額ノ最高限度ニ付之ヲ準用ス
 理事ハ前二項ノ規定ニ依リ議決シタル事項ヲ組合又ハ聯合會ニ在リテハ地方長官ニ、中央會ニ在リ

テハ農商務大臣ニ遲滞ナク報告スヘシ

第十三條 出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ理由書、總會又ハ總代會ノ決議録、

財産目録及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十四條 剩餘金ノ配當ハ持分ノ全部若ハ一部又ハ取扱ヒタル物ノ數量、價額又ハ事項ノ分量ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

持分ノ全部若ハ一部ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六分ヲ超ユルコトヲ得ス

第十五條 合併ノ認可申請書ニハ第十三條ニ掲ケタル書類ノ外合併契約書及合併後存續スル組合若ハ聯合會又ハ合併ニ因リテ設立スル組合若ハ聯合會ノ定款ヲ添附スヘシ

第十六條 組織變更ノ認可申請書ニハ組合ニ在リテハ總組合員、聯合會ニ在リテハ總所屬組合及總所屬聯合會ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ組合員又ハ所屬組合及所屬聯合會ノ責任ヲ減少スルトキハ尙ホ第十三條ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ

第十七條 組合又ハ聯合會カ中央會ニ加入シ又ハ脱退シタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第十八條 郡長又ハ郡長ノ職務ヲ行フヘキ者カ産業組合法第六十條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ハムトスルトキハ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 地方長官カ産業組合法第六十條又ハ第六十一條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ヒタ

ルトキハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十條 産業組合法ノ規定ニ依リ理事又ハ監事ニ關スル登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク登記シタル事項及其ノ登記ノ年月日ヲ組合又ハ聯合會ニ在リテハ地方長官ニ中央會ニ在リテハ農商務大臣ニ届出ツヘシ

附 則

第二十一條 本則ハ明治四十二年法律第二十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 本則ハ明治三十三年勅令第二百五十五號ニ依リ設立スル産業組合ニハ之ヲ適用セス

産業組合模範定款

農商務省ノ調査ニ係ル無限責任信用組合ノ模範定款左ノ如シ

無限責任組織ノ信用組合模範定款ハ明治三十三年十二月一日官報ニ掲ケテ之ヲ公示セルモ昨四十二年産業組合法改正セラレタルニ依リ右改正法ニ基キ調査シ茲ニ之ヲ公示スルモノナリ

本模範定款カ從來ノモノト異ナル主要ノ點ハ信用組合カ組合員外ノ者ニシテ組合加入ノ豫約ヲ爲シタルモノ、貯金ヲ取扱フ場合及組合原簿記載ノ變更ニ關スル規程ヲ設ケタルコト金利ヲ低下シタルコト等ナリ信用組合外ノ産業組合ノ模範定款ハ既ニ公示セラレアルモ今後其定款ヲ作成シ又ハ變更セントスルトキハ本模範定款及聯合會模範定款ヲモ参照スヘシ
無限責任何々信用組合定款

第一章 總 則

第一條 本組合ハ組合員ニ産業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルヲ以テ目的トス
本組合ハ加入豫約者ノ貯金ヲ取扱フ

第二條 本組合ハ無限責任何々信用組合ト稱ス

- 第三條 本組合ノ組織ハ無限責任トス
- 第四條 本組合ノ區域ハ何縣何郡何村トス
- 第五條 本組合ノ事務所ハ之ヲ何縣何郡何村何番地ニ置ケ
- 第六條 組合員ハ本組合ノ區域内ニ住居シ且獨立ノ生計ヲ營ム者ニ限ル加入豫約者ノ資格亦同シ
- 第七條 組合員又ハ加入豫約者ハ他ノ信用組合ニ加入シ又ハ加入ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ス
- 第八條 本組合ノ存立時期ハ三十箇年トス
- 第九條 本組合ノ財産ニ付組合員ノ有スル持分ハ其ノ拂込濟出資額ニ應スルモノトス

第二章 出資及積立金

- 第十條 出資一口ノ金額ハ金十圓トス
- 第十一條 出資第一回ノ拂込金額ハ一口ニ付金一圓トス但シ第四十八條第三項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十二條 第一回後ノ出資拂込ハ配當スヘキ剩餘金ヨリ拂込ニ充ツルモノ、外出資一口毎ニ左ノ各號ノ一ニ依リ出資ノ拂込ヲ爲スモノトス
 - 一、毎月末金二十錢宛拂込ムコト
 - 二、毎年一月末及六月金末金一圓宛拂込ムコト
 - 三、第一回拂込後一箇年内ニ全額ヲ拂込ムコト
- 第十三條 出資ノ拂込ヲ怠リタルトキハ期日後一日ニ付其拂込ムヘキ金額ノ二百分ノ一ニ當タル過怠金ヲ徴收ス
- 第十四條 産業組合法第十五條第一項第一號及第二號ノ事項ニ付テ爲スヘキ産業組合原簿ノ記載ノ變更ハ毎年十二月三十一日ニ之ヲ取纏メテ其後二週間内ニ之ヲ爲スモノトス
- 第十五條 本組合ハ出資總額ト同額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ準備金トシテ積立ツルモノトス
- 第十六條 過怠金及第五十四條ノ規定ニ依リ拂戻ヲ爲シタル持分ノ殘額ハ之ヲ準備金ニ組入ル、モノトス
- 第十七條 剩餘金ヨリ準備金ニ積立ツヘキ金額ヲ控除シ仍殘餘アルトキハ配當金又ハ特別積立金ト爲スモノトス
- 第十八條 特別積立金ハ損失填補ニ充ツルノ外總會ノ決議ニ依リ臨時ノ支出ニ處分スルコトヲ得
- 第十九條 準備金及特別積立金ハ總會ノ承認ヲ經タル銀行若ハ一個人ニ預ケ入レ又ハ之ヲ以テ國債證券若ハ地方債證券ヲ買入ル、ノ外他ニ之ヲ利用スルコトヲ得ス但シ總會ノ承認ヲ經テ專業資金ニ融

通スルコトヲ得

第三章 機關

第二十條 本組合ニ理事三名監事二名ヲ置ク

理事ハ組合長一名ヲ互選ス

組合長ハ事務ヲ總理シ組合ヲ代表ス場合長事故アルトキハ理事ノ互選ニ依リ其ノ代理者一名ヲ定ス

第二十一條 理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ再選ヲ妨ケス

組合長ノ任期ハ理事ノ任期ニ從フ

補闕選舉ニ依リ就任シタル理事又ハ監事ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス

理事及監事ハ任期滿了後ト雖モ後任者ノ就職スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第二十二條 辭任其ノ他ノ事由ニ依リ理事又ハ監事ニ闕員ヲ生シタルトキハ通常總會開會ノ時期迄猶

豫スルコト能ハサル場合ニ限り臨時總會ヲ招集シ補闕選舉ヲ爲スモノトス

總會カ理事又ハ監事ノ解任ヲ議決シタルトキハ同時ニ其ノ補闕選舉ヲ爲スコトヲ要ス

第二十三條 總會ハ通常總會及臨時總會ノ二種トス

通常總會ハ毎年一回一月之ヲ開ク

臨時總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ開ク

一 理事カ必要ト認メタルトキ

二 監事カ財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付不整ノ廉アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ總會ニ報告スル爲必要ト認メタルトキ

三 組合員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的及其招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ請求シタルトキ

第二十四條 總會ノ招集ハ少クとも五日前ニ書面ヲ以テ組合員ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

前項ノ通知書ハ招集者之ニ記名スルコトヲ要ス

第二十五條 總會ハ總組合員ノ半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 總會ノ議長ハ第二十三條第三項第二號ノ場合ヲ除クノ外組合長之ニ當タル組合長事故アルトキハ理事ノ互選ニ依ル

第二十三條第三項第二號ノ場合ニ於ケル總會ノ議長ハ總會ヲ招集シタル監事之ニ當タル其ノ多數ナル場合ニ於テハ互選ニ依ル

總會ニ於テ必要ト認メタルトキハ出席者ノ互選ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十七條 組合員ハ五人以上ヲ代理シテ議決權ヲ行フコトヲ得ス

第二十八條 總會ニ於テハ決議録ヲ作り會議ノ顛末及出席者ノ員數ヲ記載スルコトヲ要ス

決議録ニハ議長ノ指名シタル出席者二名以上之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

第二十九條 總會ノ議事ニ關スル細則ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

第三十條 本組合ニ信用評定委員三名ヲ置キ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス

信用評定委員ノ任期ハ一箇年トス但シ再選ヲ妨ケス

第三十一條 信用評定委員ハ總會ノ決議ニ依リ何時ニテモ解任スルコトヲ得

信用評定委員ノ選任及解任ニ關シテハ理事及監事ノ例ニ依ル

第三十二條 信用評定委員ハ一月及七月定會ヲ開キ組合員各自ノ信用ヲ評定シ信用程度表ヲ作成

ス

信用程度表ハ理事之ヲ保管シ役員ノ外閱覽スルコトヲ得サルモノトス

第三十三條 理事、監事及信用評定委員ハ名譽職トス

理事、監事及信用評定委員ハ正當ノ事由ナクシテ辭任スルコトヲ得ス

第三十四條 本組合ニ書記何名ヲ置キ理事之ヲ任免ス

書記ハ理事及監事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第四章 事業ノ執行

第三十五條 本組合ノ事業年度ハ毎年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル

第三十六條 組合員カ貸付ヲ請求シタルトキハ理事ハ信用程度表及貸付金ノ用途ヲ調査シ貸付クヘキ

金額及其ノ方法ヲ定ムルモノトス

第三十七條 貸付金ノ辨濟期限ハ一箇年内ニ於テ之ヲ定ム但シ特別ノ事由アルトキハ三箇年内ニ於テ

之ヲ定ムルコトヲ得

第三十八條 貸付金ノ辨濟ニ付テノ遅延利息ハ貸付金ノ利率ニ依ル

第三十九條 理事ハ貸付金使用ノ實況ヲ監査シ貸付ノ目的ニ反スルモノアリト認ムルトキハ組合員ニ

對シ期限前ト雖モ辨濟ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十條 貯金ハ一回金一錢以上トス

加入豫約者ノ貯金ハ一人ニ付出資一口ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ス

貯金ノ利息ハ毎年六月末及十二月末ノ兩度ニ之ヲ元本ニ組入ル、モノトス

第四十一條 貸付金及貯金ノ利率ハ左ノ制限内ニ於テ理事之ヲ定ム

一、貸付金ニ付テハ年一割以下

二 貯金ニ付テハ年七分以下

第四十二條 組合ノ餘裕金ハ總會ノ承認ヲ經タル銀行又ハ一個人ノ外他ニ之ヲ預入ル、コトヲ得ス
第四十三條 事業執行ニ關スル細則ハ理事之ヲ定ム

第五章 剩餘金處分並損失ノ填補及分擔

第四十四條 剩餘金ハ準備金ニ積立ツヘキ金額ヲ控除シタル後ニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス
剩餘金ノ配當ハ拂込済出資額ニ應シ其率ハ年五分以下トス
第四十五條 損失ノ填補ハ先ツ特別積立金ヲ以テシ次ニ準備金ヲ以テス
第四十六條 組合ノ財産ヲ以テ其債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テ各組合員間ニ於ケル損失分擔ノ割合ハ其出資額ニ應スルモノトス脱退シタル組合員ノ損失分擔ノ割合亦同シ

第六章 加入及脱退

第四十七條 組合ニ加入セムトスルトキハ申込書ヲ理事ニ差出スコトヲ要ス理事前項ノ申込書ヲ受ケタルトキハ書面ヲ以テ總組合員ノ同意ヲ求ムルコトヲ要ス
總組合員ノ同意アリタルトキハ理事ハ其ノ旨申込人ニ通知シ出資第一回ノ拂込ヲ爲サシメタル後組

合員名簿ニ記載スルコトヲ要ス

加入ノ效力ハ第四十八條第三項、第五十條及第五十二條ノ場合ヲ除クノ外出資第一回ノ拂込ト同時ニ發生スルモノトス

第四十八條 加入豫約ノ申込アリタルトキハ理事ハ其ノ許否ヲ決シ申込人ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

加入豫約者ノ貯金額カ現在組合員ノ出資一口ニ對スル拂込金額ノ最小額ニ達シタル後ニ非サレハ之ヲ組合ニ加入セシムルコトヲ得ス

第四十七條ノ規定ハ加入豫約者ヲ組合ニ加入セシムル場合ニ準用ス但シ此ノ場合ニ於テ加入豫約者ノ貯金ハ其全部ヲ出資拂込ニ充ツルコトヲ要ス

第四十九條 加入豫約者カ第五十三條第二號又ハ第三號ニ該當スルトキハ總會ノ決議ニ依リ豫約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五十條 持分ヲ讓渡サムトスル場合ニ於テハ理事ノ承諾ヲ經ルコトヲ要ス持分ヲ讓受ケムトスル者カ組合員ニ非サルトキハ出資拂込ヲ爲サシメサルノ外第四十七條第一項乃至第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十一條 組合員カ脱退セムトスルトキハ少クトモ其ノ事業年度末十箇月前ニ其ノ旨ヲ理事ニ豫告スルコトヲ要ス

第五十二條 死亡ニ依リ脱退シタル組合員ノ相續人カ遲滞ナク加入ノ手續ヲ爲シタルトキハ組合ハ被相續人ニ對スル持分ノ拂戻計算ヲ爲サスシテ之ヲ被相續人ト同一ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フモノト看做ス

第五十三條 組合員カ左ノ事由ノ一ニ該當スルトキハ決議ニ依リ之ヲ除名ス

一 出資ノ拂込、過怠金ノ納付、貸付金ノ辨濟又ハ利息ノ支拂ヲ怠リ期限後一箇月内ニ其義務ヲ履行セサルトキ

二 組合ノ事業ヲ妨グル行爲アリタルトキ

三 犯罪其ノ他ノ行爲ニ依リ信用ヲ失ヒタルトキ

第五十四條 組合員脱退ノ場合ニ於ケル持分ノ拂戻ハ其ノ拂込済出資額ニ止ムルモノトス但シ死亡、禁治産其ノ他總會ニ於テ止ムコトヲ得サルモノト認メタル事由ニ依リ脱退シタル組合員ニハ持分ノ全部ヲ拂戻スモノトス

第七章 解散

第五十五條 組合解散シタルトキハ理事其ノ清算人ト爲ル

第八章 附則

第五十六條 組合設立當時ノ理事、監事及信用評定委員ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ第一回通常總會ニ於テ之ヲ改選ス

理事	何	某
理事	何	某
理事	何	某
監事	何	某
監事	何	某
信用評定委員	何	某
信用評定委員	何	某
信用評定委員	何	某

相互會社

六九六

第一設 立

第二十六條 相互會社ノ發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

- 一、保險ノ種類及ヒ事業ノ範圍
- 二、名 稱
- 三、事務所ノ所在地
- 四、基金ノ總額
- 五、基金ノ釀出者カ有スヘキ權利
- 六、社員ノ責任ノ種類
- 七、基金及ヒ設立費用ノ償却ノ方法
- 八、剩餘金分配ノ方法
- 九、會社カ公告ヲ爲ス方法
- 十、存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由

第二十七條 相互會社ハ其名稱ニ保險ノ種類ヲ示シ且之ニ相互會社ナル文字ヲ附スルコトヲ要ス

第二十八條 相互會社ノ基金ハ十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

基金ノ支拂ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條 相互會社ノ社員ノ數ハ百人ヲ下ルコトヲ得ス

第三十條 發起人ニ非ラサル者カ社員タラントスルトキハ入社申込證ニ通ニ保險ノ目的及ヒ保險金額ヲ記載シ之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス但會社カ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル後社員タラントスル者ハ此限ニ在ラス

入社申込證ハ發起人之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一、定款作成ノ年月日
- 二、第二十六條ニ掲ケタル事項
- 三、基金ノ釀出者ノ氏名、住所及ヒ其各自カ釀出スル金額
- 四、發起人ノ氏名、住所
- 五、發起人カ報酬ヲ受クヘキトキハ其報酬ノ額
- 六、設立ノ際募集セントスル社員ノ數
- 七、一定ノ時期迄ニ會社カ成立セサルトキハ入社申込ヲ取消スコトヲ得ヘキコト

六九七

第三十一條 社員カ豫定ノ數ニ滿チタルトキハ發起人ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スルコトヲ要ス

創立總會ニ於テハ社員ノ半數以上出席シ其四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス

第四十三條及ヒ商法第五百十六條第一項第二項第六十一條第三項第四項第六十三條乃至第六

十三條ノ四ノ規定ハ相互會社ノ創立總會ニ之ヲ準用ス

第三十二條 第四十九條ノ二ノ規定ハ入社申込人ニ對スル通知及ヒ催告ニ之ヲ準用ス

第三十三條 相互會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス

第三十四條 取締役ハ創立總會ノ終結ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記ス

ルコトヲ要ス

一、第二十六條第一號、第二號及ヒ第四號乃至第十號ニ掲ケタル事項

二、事務所

三、取締役及ヒ監査役ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲ス

コトヲ得ス

四、會社ヲ代表スヘキ取締役ヲ定メタルトキハ其氏名

五、數人ノ取締役カ共同シ又ハ取締役カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ

其代表ニ關スル規定

第三十五條 商法第九條、第十一條乃至第十五條第十九條乃至第三十八條、第四十條、第四十一條、第

四十四條第四十四條ノ二第四十四條ノ三第一項第二項第四十五條第四十八條ノ二第四百九條第百三

十三條、第百三十八條第百四十二條ノ二及ヒ第百四十二條ノ三ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第七十三條第一項ノ規定ハ商法第四十四條ノ三第二項ノ規定ニ依ル選任ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二、社員ノ權利義務

第三十六條 社員ハ會社ノ債權者ニ對シ直接ニ義務ヲ負フコトナシ

第三十七條 會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ハ左ノ三種トス

一、社員ノ全員カ無限ノ責任ヲ負フモノ

二、社員ノ全員カ保險料ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ

三、社員ノ全員カ保險料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ

第三十八條 社員ハ會社ニ拂込ムヘキ金額ニ付キ相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十八條ノ二 社員ノ責任カ第三十七條第二號又ハ第三號ニ該當スル相互會社ニ在リテハ定款ヲ以

テ保險金額ノ削減ニ關スル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

第三十九條 社員カ保險料ノ外會社ノ債務ニ關シ醜出ス可キモノアルトキハ其金額及ヒ其醜出ノ方法ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條 損害保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ會社ノ承諾ヲ得テ讓渡人ノ權利義務ヲ承繼スルコトヲ得

第四十一條 生命保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員ハ會社ノ承諾ヲ得テ他人ヲシテ其權利義務ヲ承繼セシムルコトヲ得

第四十一條ノ二 第二十條ノ二第一項乃至第三項及ヒ第二十條ノ四乃至第二十條ノ十二ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第三、會社ノ機關

第四十二條 相互會社ハ定款ヲ以テ社員總會ニ代ハルヘキ機關ヲ設クルコトヲ得此機關ニハ社員總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十三條 社員ハ總會ニ於テ各一箇ノ議決權ヲ有ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第四十四條 十分ノ一以上ノ社員ハ會議ノ目的タル事項及ヒ其招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得但此權利ノ行使ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

ヲ得

商法第六十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 商法第五十六條第一項、第二項、第五十七條第一項、第五十九條第六十一條第一項、第三項、第四項及ヒ第六十三條乃至第六十三條ノ四ノ規定ハ相互會社ノ社員總會ニ之ヲ準用ス

第四十六條 取締役及ヒ監査役ハ社員總會ニ於テ之ヲ選任ス

第四十七條 取締役及ヒ監査役ハ社員タルコトヲ要セス

第四十八條 取締役ハ社員總會ノ認許アルニ非サレハ同種ノ保險ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員、業務擔當社員、取締役又ハ監査役ト爲ルコトヲ得ス

第四十九條 取締役ハ社員名簿ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一、社員ノ氏名、住所

二、各社員ノ保險契約ノ種類、保險金額及ヒ保險料

三、第三十七條第三號ノ場合ニ於テ各社員ノ責任ノ限度

第四十九條ノ二 商法第七十二條ノ二ノ規定ハ會社ノ社員ニ對スル通知及ヒ催告ニ之ヲ準用ス但保險關係ニ屬スル事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第五十條 取締役ハ定款及ヒ總會ノ決議録ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且社員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

社員及ヒ會社ノ債權者ハ事業時間内何時ニテモ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 社員總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員カ之ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一箇月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス但起訴ノ請求ヲ爲ス者ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲シタル社員、監査役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
會社カ敗訴シタルトキハ右ノ社員ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ヲ任ス

第五十二條 前條ノ請求ヲ爲シタル社員ハ特ニ會社ノ代表者ヲ指定スルコトヲ得
第五十三條 商法第六十四條第二項、第六十五條乃至第六十七條ノ二、第六十九條、第七十條、第七十四條第二項、第七十六條、第七十七條及ヒ第七十九條ノ規定ハ相互會社ノ取締役ニ之ヲ準用ス

第五十四條 社員總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員カ之ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一箇

月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第五十一條第一項但書、第五十二條及ヒ商法第一百八十五條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
會社カ敗訴シタルトキハ右ノ社員ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第五十五條 商法第六十四條第二項、第六十六條但書、第六十七條、第六十七條ノ二、第七十七條、第七十九條乃至第八十四條、第八十五條第一項及ヒ第八十六條ノ規定ハ相互會社ノ監査役ニ之ヲ準用ス

第四、會社ノ計算

第五十六條 基金ハ每事業年度ノ剩餘金ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ償却スルコトヲ得ス基金ノ釀出者ニ支拂フヘキ利息亦同シ

第五十七條 相互會社ハ損失ノ填補ニ備フル爲メ每事業年度ノ剩餘金中ヨリ準備金ヲ積立ツルコトヲ要ス毎年積立ツヘキ金額及ヒ準備金ノ最低額ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ハ十年ヲ超エサル期間内ニ於テ定款ノ定ムル所ニ從ヒ毎年其一部ヲ償却スルコトヲ得

第五十九條 設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ノ全額ヲ償却シ且第五十七條ノ準備金ヲ控除シタル後ニ非サレハ基金ヲ償却シ又ハ剩餘金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ前條ノ期間内ニ於テ基金ノ醸出者ニ利息ヲ支拂フコトヲ妨ケス

第六十條 基金ヲ償却スルトキハ其償却スル金額ト同一ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス

第六十一條 剩餘金ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ各事業年度ノ終ニ於ケル社員ニ之ヲ分配ス

第六十二條 商法第九十條乃至第九十三條ノ規定ハ相互會社ノ計算ニ之ヲ準用シ

第五、定款ト變更

第六十三條 定款ノ變更ハ社員總會ノ決議ニ依リテノミ之ヲ爲スコトヲ得但其決議ノ認可ヲ得ルニ付キ必要ナル變更ハ社員總會ノ決議ヲ以テ之ヲ取締役ニ委任スルコトヲ得

第三十一條第二項ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第六十四條 會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ヲ減少セントスルトキハ商法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第六、社員ノ退社

第六十五條 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス社員ハ事業年度ノ終リニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但六箇月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第六十六條 社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス

一、定款ニ定メタル事由ノ發生

二、死亡

三、破産

四、保險關係ノ消滅

第六十七條 退社員ハ定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ從ヒ其權利ニ屬スル金額ノ拂戻ノ請求スルコトヲ得

第六十八條 退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ六箇月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

退社員ノ拂戻請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六十九條 退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ計算ヲ爲スニ當タリ會社ニ現存スル財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ辨濟スルニ足ラサルトキハ退社員ハ其負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムコトヲ要ス

第七十條 退社員カ會社ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ會社ハ其退社員ニ拂戻スヘキ金額ノ中ヨリ其債務ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

第七十一條 無限責任ヲ負フ社員及ヒ保險料ノ外一定金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フ債務ハ登記所ニ備フル社員名簿ニ退社ノ記載ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ其記載後二年間責任ヲ負フ前項ノ規定ハ第四十條及ヒ第四十一條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七 解 散

第七十二條 相互會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一、存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生
 - 二、社員カ百人未滿ニ減シタルコト
 - 三、社員總會ノ決議
 - 四、合併
 - 五、破産
 - 六、免許ノ取消
- 第七十三條 任意ノ解散、合併及ヒ保險契約移轉ノ決議ハ總社員ノ半數以上出席シ其四分ノ三ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス
- 前項ノ決議ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス

第七十四條 合併ノ認可ヲ申請スルニハ申請書ニ合併契約書財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十五條 商法第七十六條及ヒ第七十八條乃至第八十二條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第八 清 算

第七十六條 相互會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外本節ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條 削除

第七十八條 會社カ第七十二條第二號、第三號又ハ第六號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタルトキハ保險金額ヲ支拂フヘキ事由カ解散ノ時ヨリ三箇月内ニ生シタルトキニ限り保險金額ヲ支拂フコトヲ要ス

前項ノ期間經過ノ後ハ損害保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ未タ經過セサル期間ニ對スル保險料生
命保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ被保險者ノ爲メニ積立タル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス

第七十九條 清算人ハ左ノ順序ニ從ヒテ會社財産ヲ處分スルコトヲ要ス

- 一、一般ノ債務ノ辨濟

二、社員ノ保險金額及ヒ前第二項ノ規定ニ依リテ社員ニ拂戻スヘキ金額ノ支拂
三、基金ノ償却

社員ハ保險料ノ外基金ノ償却ニ付キ責任ヲ負フコトナシ第八十條殘餘財産ハ定款ニ別段ノ定ナキト
キハ剩餘金ノ分配ト同一ノ割合ヲ以テ之ヲ社員ニ分配ス

第八十一條 削除

第八十二條 第四十四條、第五十條乃至第五十二條、第五十四條、商法第八十四條、第九十條乃至第
九十三條、第九十三條ノ二第二項、第九十七條、第九十九條、第五十七條、第五十九條、第六
十三條乃至第六十三條ノ四、第六十四條第二項、第六十七條ノ二、第七十條、第七十六條第
百七十七條、第七十九條、第八十一條、第八十三條、第八十四條、第八十五條第一項、第
百八十六條、第九十一條乃至第九十三條、第二百二十六條乃至第二百二十七條ノ二、第二百二十八
條第一項、第二百三十條、第二百三十二條、第二百三十三條及ヒ民法第七十九條、第八十三條ノ規定
ハ相互會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十三條 各登記所ニ相互保險會社登記簿ヲ備フ

第八十四條 相互會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一、定款

二、社員名簿

三、社員ヲ募集シタル場合ニ於テハ各社員ノ入社申込證

四、主務官廳ノ免許書又ハ其認證アル謄本

五、創立總會ノ決議錄

第八十五條 相互會社ノ社員名簿ハ登記簿ノ一部ト看做シ社員名簿ニ爲シタル記載ハ之ヲ登記ト看做

ス但之ヲ公告スルコトヲ要セス

前項ノ規定ハ社員ノ全員カ保險料ヲ限度トシテ責任ヲ負フ

會社ノ社員名簿ニハ之ヲ適用セス

第八十六條 相互會社ノ支配人ノ選任ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス支配

人ノ代理權ノ消滅及ヒ非訟事件手續法第七十三條第一項第四號ニ掲ケタル事項並ニ其變更、消滅

ノ登記ニ付キ亦同シ

第八十七條 相互會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ囑託ニ因リテ其登

記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十八條 第八十四條第一項ノ規定ハ相互會社ノ解散又ハ其合併ニ因ル變更若クハ設立ノ登記ノ申

請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八十八條ノ二 相互會社カ合併ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ非訟事件手續法第八十二條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

相互會社カ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其理田ヲ記載シ第八十四條第二項並ニ非訟事件手續法第八十二條第二項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第四十四條ノ三第二項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十九條 非訟事件手續法第二百二十六條第一項第三項、第三百三十五條ノ四、第三百三十八條ノ三乃至第三百三十九條、第四百一條乃至第六十四條、第七十三條、第七十四條第二項、第七十五條乃至第七十八條、第八十八條、第九十三條第一項、第二項及ヒ第九十五條ノ二ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第九十條 相互會社カ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ營利ヲ目的トセサル社團法人ト同一ノ登録稅ヲ納ムルコトヲ要ス

社員名簿ノ記載ニ付テハ登録稅ヲ課セス

第九十一條 相互會社ニハ營業稅ヲ課セス

第一生命保險相互會社定款

第一條 當會社ハ明治三十三年法律第六十九號保險業法ニ依リテ設立セル相互會社ニシテ第一生命保險相互會社ト稱シ本社ヲ東京ニ置ク

第二條 社員ハ當會社ノ保險契約者タルコトヲ要ス

第三條 當會社ハ生命保險事業ヲ營ムモノニシテ其被保險者ハ保險契約締結ノ時ニ於テ十五年七箇月以上六十年六箇月以下ノ者タルコトヲ要ス

第四條 當會社ハ保險契約ノ終期ニ達シタルトキ又ハ被保險者カ其以前ニ死亡シタルトキ保險金額ヲ支拂フモノトス

第五條 社員ハ當會社ノ債權者ニ對シ直接ニ義務ヲ負フコトナシ

第六條 當會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ハ保險契約ヲ以テ定メタル保險料ヲ限度トス

第七條 社員カ他人ヲシテ其權利義務ヲ承繼セシムルニハ會社ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第八條 當會社ノ本社ニハ社員名簿ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ記載ス

一 各社員ノ氏名、住所

二 各社員ノ保險契約ノ種類、保險金額及ヒ保險料

第九條 當會社ノ公告ハ本社ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ公告スル新聞紙ヲ以テ之ヲ爲ス

第十條 當會社ノ基金ハ二十萬圓トシ創立總會前其四分ノ一ヲ拂込マシメ其餘ハ取締役ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ拂込マシム

第十一條 基金ハ二百圓ヲ以テ一口トシ之ヲ分割又ハ共有スルコトヲ許サス

第十二條 基金ノ醸出者ニハ基金一口毎ニ記名證券一通ヲ交付ス

第十三條 基金證券ヲ喪失シタル者更ニ證券ノ交付ヲ申出テタルトキハ當會社ハ申出人ノ費用ヲ以テ三日間公告シ異議ヲ申出ツル者ナキトキハ更ニ證券ヲ交付ス但證券一通ニ付三十錢ノ手数料ヲ徴收ス

第十四條 基金ノ醸出者ハ當會社ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ他人ヲシテ其權利義務ヲ承繼セシムルコトヲ得ス

前項ノ承繼ハ之ヲ基金臺帳ニ登録シ且取締役カ之ヲ基金證券ニ記載スルニ非サレハ當會社ニ對シテ其效力ヲ生セス

基金ノ醸出者及ヒ其承繼者ハ前項ノ登録ヲ爲シタル後二年間當會社ニ對シ連帶シテ其拂込ノ責任ヲ負フ

第十五條 基金ヲ拂込ムヘキ者カ期日ニ拂込ヲ爲サ、ルトキハ百圓ニ付キ日歩四錢ノ遅延利息ヲ徴收ス

ス

第十六條 第三十九條ニ規定シタル基本積立金カ二萬圓ニ達スル毎ニ抽籤ヲ以テ基金一百口ヲ償却ス

第十七條 當會社ニハ社員總代ニ代ルヘキ最高ノ機關トシテ社員總代會ヲ置ク

第十八條 社員總代會ハ各府縣（北海道及ヒ臺灣ハ共ニ一府縣ト見做ス以下之ニ準ス）ニ於テ其府縣ニ住所ヲ有スル社員ノ互選スル總代ヲ以テ之ヲ組織ス

第十九條 各府縣ニ於テハ選舉ヲ行フヘキ事業年度ノ初メニ於テ其府縣ニ住所ヲ有スル社員ノ保險金額カ當會社ノ保險金總額ノ五十分ノ一ニ當タル毎ニ一人ノ社員總代ヲ選舉ス但五十分ノ一ニ達セサル府縣ニ於テハ他ノ府縣ト合シテ選舉ヲ行フ既ニ社員總代ヲ選出シタル府縣ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス其社員總代ノ全員カ退任スルマテハ選舉ヲ行ハス

第二十條 社員總代ノ選舉ハ毎年十府縣ニ於テ之ヲ行ヒ選舉ヲ行フヘキ府縣ノ順序ハ社員總代ヲ選出スヘキ府縣中保險金額ノ大ナルモノヲ先ニス但社員總代ヲ選出スヘキ府縣ノ數カ十二滿タサルトキハ選舉ハ其府縣ニ於テノミ之ヲ行フ

第二十一條 第一回ノ社員總代ハ創立總會ニ於テ十五人ヲ選舉シ滿三年目ヨリ毎年抽籤ヲ以テ三人宛退任セシメ同時ニ前二條ノ規定ニ依リ各府縣ニ於テ新ニ社員總代ヲ選出セシム

第一回ノ選舉ニ於テ當選シタル者カ就職中又ハ退任後再選セラレタルトキハ其任期ハ再選ニ依リテ

就任シタル時ヨリ五年トス

第二十二條 社員總代ノ選舉ニ關スル費用ハ當會社ニ於テ之ヲ負擔ス

第二十三條 社員ノ社員總代ヲ選舉スヘキ權利ハ各一箇トス

第二十四條 選舉ハ記名投票トス

選舉權ハ他ノ社員ニ委任シテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

社員ノ法定代理人ハ其資格ヲ證スル書面ヲ選舉委員ニ差出タスコトヲ要ス

第二十五條 社員總代ノ選舉ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十六條 社員總代ハ無給名譽職トシ其任期ハ五年トス

第二十七條 社員總代ハ死亡又ハ辭任ノ爲メ二十人未滿ニ減シタルトキハ第二十條ノ規定ニ依リ新ニ

選舉ヲ行フ但會社設立後三年間ハ選舉ヲ行ハス

第二十八條 社員總代會ニ於ケル社員總代ノ議決權ハ各一箇トス

第二十九條 社員總代會ニ於テハ社長ヲ以テ議長トシ社長事故アルトキハ他ノ取締役之ニ代ル

第三十條 社員總代會ノ決議ハ出席シタル社員總代ノ議決權ノ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長

之ヲ決ス

第三十一條 定時社員總代會ハ毎年十一月本社所在地ニ於テ之ヲ開ク

第三十二條 臨時社員總代會ハ取締役若クハ監査役ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ十分ノ一以上ノ社

員ニシテ其保險金額カ當會社ノ保險金總額ノ三分ノ一以上ニ當タル者若クハ五分ノ一以上ノ社員總

代カ其目的及理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ開會ヲ請求シタルトキ之ヲ開ク

第三十三條 社員總代會ニ出席スル社員總代ニハ社員總代會ニ於テ定メタル旅費ヲ支給ス

第三十四條 當會社ニ左ノ役員ヲ置ク

取締役 三人乃至五人 監査役 一人乃至三人

取締役中互選ヲ以テ社長一人專務取締役一人ヲ置ク

取締役及ヒ監査役ハ社員總代會ニ於テ之ヲ選舉ス

第三十五條 取締役ノ任期ハ三年トシ監査役ノ任期ハ一年トス共ニ再選ヲ妨ケス

第三十六條 當會社ハ毎年八月三十一日ヲ以テ帳簿ヲ閉鎖シ決算ヲ爲ス

第三十七條 當會社ノ設立費用ハ初年度ニ於テ之ヲ償却ス

第三十八條 決算ニ於テ剩餘金ヲ生シタルトキハ二十分ノ一ヲ法定準備金トシ二十分ノ一ヲ役員賞與

金トシ剩餘ヲ社員ニ配當ス但法定準備金カ基金ト同額ニ達シタル場合ニハ社員總代會ノ決議ヲ以テ

其積立ヲ廢シ又ハ其積立ノ率ヲ減スルコトヲ得

第三十九條 基金ノ全部ヲ償却セサル前ニ於テハ剩餘金ヨリ前條ノ法定準備金及ヒ役員賞與金ヲ控除

シタル後殘額ノ十分ノ一ヲ基本積立金トシ其殘額ヨリ未償却基金ニ對シ利息トシテ其拂込額ノ百分ノ六ヲ支拂ヒ（此殘額カ百分ノ六ニ達セサルトキハ利息ハ其金額ヲ以テ限トス）最後ノ殘額ヲ左ノ比例ニ依リ基金ノ釀出者又ハ其承繼者及ヒ社員ニ配當ス

一基金ノ一部モ償却セサル場合

基金ノ釀出者又ハ其承繼者

百分ノ十

社員

百分ノ九十

二基金ノ十分ノ一ヲ償却シタル場合

基金ノ釀出者又ハ其承繼者

百分ノ九

社員

百分ノ九十一

三以下之ニ準ス但基金ノ一部ヲ償却スル毎ニ其後ノ五年間ハ之ヲ償却セサル前ノ比例ニ依リ配當ス
基金ノ釀出者又ハ其承繼者ハ基金ノ償却ヲ受ケタル後五年間尙前記ノ配當ヲ受ケルモノトス
基金ノ釀出者又ハ其承繼者ニ對スル配當金ハ各自拂込額ノ比例ニ依リ分配ス

第四十條 基本積立金カ二十萬圓ニ達シタルトキハ其積立ヲ止ム

第四十一條 社員配當金トナルヘキ剩餘金ハ其十分ノ一ヲ超エサル範圍ニ於テ社員總代會ノ決議ヲ以テ他ノ目的ニ使用スルコトヲ得

第四十二條 社員配當金ハ會社ニ於テ其總額ヲ保管シ二年ノ後尙社員タル者ニノミ配當ス

前項ノ配當ヲ爲スニハ現存スル各保險契約ニ付各社員カ二年前ノ決算期迄ニ保險料ヲ拂込ミタル年數（端數ハ算入セス）ニ年額保險料ヲ乘シタル數ヲ以テ標準トス保險契約カ保險金額支拂ニ因リテ消滅シタルトキハ前二項ノ規定ニ準シ尙三年間社員配當金ヲ交付ス

第四十三條 社員配當金ハ次年度ノ保險料ト相殺スルモノトス但二十年以上ノ期間ニ互ル保險契約ニ在リテハ社員ハ之ヲ一時拂濟保險料ニ振替ヘ保險金額ヲ増加スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ振替ヲ爲サントスル者ハ保險契約締結ノ時ニ於テ之ヲ定ムヘシ但當會社ノ定ムル手數料ヲ支拂フトキハ保險契約締結ノ後ト雖モ當會社ハ振替ヲ承諾スルコトアルヘシ

明治四十一年六月三十日迄ニ振替ヲ爲サントスル者ハ手數料ヲ支拂フコトヲ要セス

第四十四條 社員配當金ト保險料ト相殺スル場合ニ於テ社員カ既ニ次年度ノ保險料ヲ拂込ミタルトキ保險料拂込ノ義務ヲ有セサルトキ又ハ配當金カ次年度ノ保險料ヨリ大ナルトキハ現金ヲ以テ其全部又ハ一部ヲ交付ス

第四十五條 第四十三條ノ規定ニ依リ社員配當金ヲ以テ振替ヘタル一時拂濟保險料ハ第四十二條第二項ニ定メタル配當ノ標準ト爲ルヘキ保險料ニ之ヲ算入セス

第四十六條 保險契約カ失效又ハ解除ニ因リテ消滅シタルトキハ社員ハ其保險契約ニ付社員配當金ヲ

受クヘキ權利ヲ失フ

第四十七條 當會社カ社員配當金ノ率ヲ公告シタル後二年間之ヲ請求セサル者ハ其權利ヲ失フ

第四十八條 社員配當金ハ社員總代會ノ決議ヲ以テ其全部又ハ一部ヲ次年度ノ社員配當金ニ繰越スコトヲ得

第四十九條 決算ニ於テ損失ヲ生シタルトキハ當會社ハ社員總代會ノ決議ヲ以テ先ツ最初ニ積立テタル社員配當金ヲ以テ之ヲ填補シ尙不足アルトキハ漸次ニ最後ニ積立テタル社員配當金ヲ以テ之ヲ填補スルコトヲ得

第五十條 前條ノ手續ヲ爲シ且法定準備金ヲ以テ填補シタル後尙容易ニ損失ヲ填補シ難シト認メタルトキハ取締役ハ社員總代會ノ決議ヲ經テ未タ保險金額支拂ノ事由カ發生セサル保險契約ニ限り一定ノ率ヲ以テ其保險金額ヲ減少スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ取締役ハ遲滞ナク爾後保險金額ヲ減少スヘキ率ヲ總社員ニ通知ス

第五十一條 會社財産ヲ利用スルハ左ノ方法ニ依ル

- 一 國債證券、地方債證券又ハ確實ナル會社ノ證券、株券ヲ取得スルコト
- 二 確實ナル銀行ニ預金ヲ爲スコト

三 當會社ノ事業上必要ナル不動産ヲ取得スルコト

四 第一號ニ掲ケタル有價證券又ハ不動産ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

五 府縣市町村等ノ公共團體又ハ確實ナル會社ヘ貸付ヲ爲スコト

第五十二條 退社スル社員ハ保險約款ニ定メタルモノ、外當會社ニ對シテ何等ノ權利ヲ有セス

第五十三條 社員ノ二分ノ一以上ニシテ其保險金額カ當會社ノ保險金額ノ二分ノ一以上ニ當タル者カ解散ヲ請求シ社員總代會ニ於テ出席シタル社員總代ノ四分ノ三以上カ同意シタル場合ノ外當會社ハ任意ノ解散ヲ爲サス

第五十四條 社員カ財産目録、貸借對照表、事業報告書、損益計算書及ヒ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金並ニ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルトキハ實費ヲ以テ之ヲ交付ス

第五十五條 普通保險約款ハ社員總代會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第五十六條 本定款ヲ變更スルニハ社員總代會ニ於テ社員總代ノ二分ノ一以上出席シ其四分ノ三以上ノ同意アルコトヲ要ス

第五十七條 第四十二條ノ配當金ノ計算ハ錢位ニ止メ厘位以下ハ之ヲ算入セス但之カ爲ニ生スル剩餘金ハ次年度ノ配當金ニ算入ス

東亞火災保險相互會社定款

第一章 總 則

- 第一條 當會社ハ東亞火災保險相互會社ト稱シ本社ヲ東京市ニ置ク
- 第二條 當會社ハ本邦ニ於ケル家屋倉庫其他ノ建造物並ニ商品、家具、機械等ノ動産、不動産ニ付キ社員ニ對シテ火災保險業ヲ營ミ且ツ火災保險ノ再保險ヲ營ムヲ以テ目的トス
- 第三條 社員ハ凡テ當會社ト保險契約ヲ締結スヘキモノトス
- 第四條 當會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ハ保險契約ニ依テ定メタル保險料ヲ限度トス
- 第五條 社員カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ會社ノ承諾ヲ經テ讓渡人ノ權利義務ヲ承繼スルコトヲ得
- 第六條 社員カ死亡シタルトキハ相續人ハ其權利義務ヲ承繼スルモノトス但相續人カ社員タルコトヲ承認セサルトキハ社員ノ死亡シタルトキヲ以テ退社シタルモノトス
- 第七條 退社シタル社員ハ定款及ヒ保險約款ニ於テ定メタルモノ、外會社財産ニ對シテ何等ノ權利ヲ有セス
- 第八條 當會社ノ公告ハ本社ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ商事ヲ公告スル新聞紙ヲ以テ之ヲ爲ス

第二章 基 金

- 第九條 當會社ノ基金ハ二百萬圓トシ創立總會前ニ其四分ノ一ヲ拂込マシメ殘額ハ取締役ニ於テ必要ト認メタルトキ二週間前ノ豫告ヲ以テ之ヲ拂込マシムルモノトス
- 第十條 基金ハ四萬圓ニ分チ一口ノ金額ヲ五十圓トス
- 第十一條 基金醜出者ノ責任ハ其引受又ハ承繼シタル基金ノ全額ヲ限度トス
- 基金醜出者ハ基金ノ拂込ニ付キ相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス
- 第十二條 基金醜出者ニハ基金證券ヲ交付ス但基金證券ニハ左ノ事項及ヒ番號ヲ記載シ取締役之ニ記名捺印ヲ爲ス
- 一、會社ノ名稱
 - 二、基金ノ總額
 - 三、一口ノ金額及ヒ拂込金額
 - 四、基金醜出者ノ氏名
- 第十三條 基金證券ヲ喪失シ其再交付ヲ求ムルトキハ會社ハ其所有者ノ費用ヲ以テ三日間公告シ公告中ニ三十日ヲ下ラサル期間ヲ指定シ其期間内ニ異議ヲ申出ツル者ナキトキハ新證券ヲ交付ス

基金證券ヲ毀損シ、其再交付ヲ求ムルトキハ該證券ト引換ニ之ヲ交付ス

第十四條 基金醸出者ノ權利義務ノ承繼ハ會社ノ承諾ヲ必要トス但相續及遺贈ノ場合ハ此限ニアラス

基金醸出者ノ權利義務ノ承繼アリタルトキハ之ヲ基金臺帳ニ記載シ且ツ其承繼者ノ氏名ヲ基金證券ニ記載スルモノトス

基金臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載ス

- 一、基金醸出者及ヒ承繼者ノ氏名、住所
- 二、基金醸出者及ヒ承繼者ノ所有スル基金ノ口數及ヒ基金證券ノ番號
- 三、各口ニ就キ拂込タル基金及ヒ拂込年月日
- 四、各基金ノ權利取得年月日

第十五條 基金證券ノ再交付ヲ求ムル者ハ一通ニ付三十錢名義書換ヲ求ムル者ハ同十錢ノ手数料ヲ會社ニ納ムヘキモノトス

第十六條 基金醸出者及ヒ各承繼者ハ基金ノ承繼ヲ基金臺帳ニ記載シタル後二年間會社ニ對シ連帶シテ基金拂込ノ責任ヲ負フ但隠居相續ニ依ル場合ノ隠居者ハ此限ニアラス

第十七條 基金ヲ拂込ム可キ者カ期日迄ニ其拂込ヲ爲サ、ルトキハ一百圓ニ付キ日歩四錢ノ延滯利息ヲ會社ニ納ムヘキモノトス

第十八條 基金ハ第三十七條ニ定メタル基金償却準備金カ基金四千口ニ對スル償却ヲ爲シ得ルニ至リタル毎ニ抽籤ヲ以テ基金四千口宛ヲ償却ス

基金ノ償却ハ評議委員會ノ決議ヲ以テ延期スルコトヲ得

第三章 會社ノ機關

第十九條 當會社ハ社員總會ノ外社員總會ニ代ルヘキ機關トシテ評議委員會ヲ設ク評議委員會ハ評議員ヲ以テ組織ス

第二十條 定時社員總會ハ五年毎ニ東京市ニ於テ之ヲ開キ社員中ヨリ評議委員ヲ選舉スルモノトス但第一回ノ評議委員ハ創立總會ニ於テ之ヲ選舉ス

評議委員ハ社員五名ニ對シ一名ノ割合ヲ以テ選舉ス但其數百名ヲ超エサルモノトス

第二十一條 評議委員ノ任期ハ五箇年トシ其間社員ノ増減アルモ評議委員ノ定數ヲ増減セサルモノトス

評議委員ハ其任期中何時ニテモ社員總會又ハ評議委員會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第二十二條 評議委員ハ無給名譽職トス但評議委員會ニ出席スルカ爲メ地方ヨリ出京スルトキハ相當ノ旅費ヲ支給ス

第二十三條 評議委員ニ缺員ヲ生スルトキハ臨時社員總會ヲ開キ補缺選舉ヲ行フモノトス但半數未滿ニ減スル迄ハ補缺セサルコトアルヘシ

第二十四條 補缺評議委員ノ任期ハ前任者ノ殘期間トス

第二十五條 定時評議委員會ハ毎年六月東京市ニ於テ之ヲ開キ財産目錄、貸借對照表、事業報告書、損益計算書及監査役ノ報告書ヲ調査シ且剩餘金ノ分配案ヲ決議ス

第二十六條 臨時社員總會及ヒ臨時評議委員會ハ取締役又ハ監査役ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ十分ノ一以上ノ社員若クハ三分ノ一以上ノ評議委員ヨリ其目的及ヒ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ開會ヲ請求シタルトキ之ヲ開ク

第二十七條 社員總會及ヒ評議委員會ヲ招集スルトキハ會日ヨリ二週間前ニ開會ノ日時、場所、會議ヲ目的及ヒ決議スヘキ事項ヲ示シ之ヲ通知ス

第二十八條 社員總ハ及ヒ評議委員會ノ決議ハ定款變更又ハ任意解散ニ關スル場合ノ外社員ハ五十分ノ一以上評議員ハ三分ノ一以上出席シ其過半數ヲ以テ之ヲ爲ス可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス

第二十九條 社員ハ社員總會、評議委員ハ評議委員會ニ於テ各一箇ノ評決權ヲ有ス
社員ハ社員總會ニ於テ社員ノ外自己ノ權限ヲ委任スルコトヲ得ス
評議委員ハ評議委員會ニ於テ他人ニ自己ノ權限ヲ委任スルコトヲ得ス

第四章 役員

第三十條 當會社ニ五名以上八名以下ノ取締役及ヒ一名以上四名以下ノ監査役ヲ置ク

第三十一條 取締役中互選ヲ以テ會長及ヒ專務取締役各一名ヲ置ク

第三十二條 取締役及監査役ハ評議委員會ニ於テ之ヲ選任ス

第三十三條 取締役ノ任期ハ三年監査役ノ任期ハ一年トス但共ニ其再選ヲ妨ケス

第三十四條 取締役及監査役ニ缺員ヲ生スルモ法定ノ人員ヲ缺カス且取締役ニ於テ事務執行上差支ナシト認メタルトキハ其選舉ヲ次期ノ定時評議委員會迄延期ス

第三十五條 取締役及監査役ノ報酬ハ評議委員會ニ於テ之ヲ定ム

第五章 計算

第三十六條 當會社ハ毎年四月三十日ヲ以テ決算期トス

第三十七條 決算ニ於テ剩餘金ヲ生シタルトキハ左ノ方法ニ依リ之ヲ處分ス

- 一、法定準備金 剩餘金ノ百分ノ五以上
- 二、特別準備金 剩餘金ノ百分ノ五以上

- 三、基金利息 拂込基金ノ百分ノ六
 - 四、基金償却準備金 剩餘金ヨリ第一號第二號第三號ノ金額ヲ引去リタル殘額ノ百分ノ十以上
 - 五、役員賞與金 剩餘金ヨリ第一號第二號第三號ノ金額ヲ引去リタル殘額ノ百分ノ十以内
- 剩餘金中前項各號ノ金額ヲ引去リ其殘額ハ左ノ割合ニ依リ基金釀出者ニ社員トニ配當ス但計算ノ都合ニ依リ後年度繰越金ト爲スコトアルヘシ
- 一、基金ノ一部ヲモ償却セサル場合
 - 基金釀出者配當金 百分ノ三十
 - 社員配當金 百分ノ七十
 - 二、基金ノ十分ノ一ヲ償却シタル場合
 - 基金釀出者配當金 百分ノ二十七
 - 社員配當金 百分ノ七十三
 - 三、基金ノ十分ノ二ヲ償却シタル場合
 - 基金釀出者配當金 百分ノ二十四
 - 社員配當金 百分ノ七十六
 - 四、以下右ニ準ス但基金ノ一部ヲ償却スル毎ニ其後ノ五箇年間ハ配當計算上之ヲ償却セサルモノト

見做ス

各事業年度ノ計算ニ於テ第一項第三號規定ノ利息ヲ支拂フニ足ラサルトキハ次年度以後ノ剩餘金中法定準備金及ヒ特別準備金ヲ引去リ其殘額ヨリ漸次之ヲ補足ス

第二項基金釀出者配當金ハ拂込基金ノ百分ノ八ヲ超ユルコトヲ得ス若シ此制限ヲ超ユルトキハ其超過部分ハ之ヲ特別準備金ニ繰入ルヘキモノトス

基金釀出者ハ基金ノ償却ヲ受ケタル後五箇年間尙其償却ヲ受ケタル金額ニ對シ第二項ノ配當ヲ受ケルモノトス

基金釀出者ニ對スル配當ハ毎年定時評議委員會ノ終結後ニ於テ之ヲ行フ

第三十八條 社員配當ハ各事業年度ノ終ニ於テ現在社員タル者ニ對シ定時評議委員會ノ終結後毎年之ヲ行フ入社後三年ニ滿タサル社員ノ配當金ハ之ヲ當會社ニ積立置キ入社後三年ヲ經タル後ノ配當期ニ於テ之ヲ交付ス

但滿三年ニ達セスシテ退社シタル社員ハ配當ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

社員ノ配當ハ配當金ノ生シタル事業年度ニ屬スル各契約ノ保險期間ニ相當スヘキ保險料ノ比例ニ依リテ之ヲ定ム

第三十九條 社員配當金ハ保險契約ノ繼續ヲ爲ス者ニ對シテハ繼續保險料ト相殺ス但拂込ムヘキ保險

料カ配當金ヨリモ少ナルトキハ現金ヲ以テ其差額ヲ交附ス

第四十條 當會社カ社員配當金ノ率ヲ公告シタル後二箇年間配當金ヲ請求セサルモノハ其權利ヲ失フ

第四十一條 左ニ掲グル契約ニ對シテハ社員ハ配當ヲ受クル權利ナキモノトス

一、保險ノ目的ニ付キ全部又ハ一部ノ損害填補ヲ受ケタルモノ

二、年額保險料カ三圓未滿ナルモノ

三、保險料ノ割合カ保險金額ノ千分ノ七十以上ナルモノ

四、再保險契約ヲ締結シタルモノ

前項第一號ニ定メタル一部ノ損害填補ヲ受ケタルモノニ對シテハ損害填補ヲ受ケサル部分ニ付キ次年度以降本條ヲ適用セス

第四十二條 特別準備金ハ其金額ノ五分ノ一以内ヲ限り評議委員會ノ決議ヲ以テ損失填補以外ノ目的ニ使用スルコトヲ得

第四十三條 當會社ノ財産利用方法左ノ如シ

一、國債證券、地方債證券又ハ確實ナル會社ノ株式債券ヲ取得スルコト

二、確實ナル銀行ニ預金ヲナスコト

三、會社ノ事業上必要ナル不動産ヲ取得スルコト

四、第 號ニ掲ケタル有價證券ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

五、府、縣、市、町、村等ノ公共團體又ハ確實ナル會社ヘ貸付ヲ爲スコト

第六章 雜 則

第四十四條 任意解散ノ決議ハ十分ノ一以上ノ社員ヨリ請求シテ開キタル社員總會ニ於テ總社員ノ半數以上出席シ其四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第四十五條 任意解散ノ場合ニ當リ清算人カ會社財産ヲ處分シタル後尙殘餘アルトキハ解散ノ時ニ於テ一箇年以上社員タリシ者ニ對シ一箇年分ニ相當スル實收保險料ヲ標準トシテ之ヲ分配ス

第四十六條 社員又ハ被保險者カ財産目錄、貸借對照表、事業報告書損益計算書及ヒ基金ノ償却其利息ノ支拂、準備金並ニ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ノ謄本又ハ抄本ヲ請求スルトキハ實費ヲ以テ之ヲ交附ス

第四十七條 普通保險約款ノ變更ハ評議委員會ノ決議ヲ以テ之ヲ爲ス

第四十八條 定款中解散ニ關スル規定ノ變更ハ社員總會ニ於テ其他ハ社員總會又ハ設議委員會ニ於テ各半數以上出席シ其四分ノ三以上ノ同意アルコトヲ要ス

但評議委員會ニ於テハ社員總會ニ於ケル決議ニ反スル決議ヲ爲スコトヲ得ス

前項ニ定メタル員數ノ評議委員又ハ社員カ出席セサルトキハ出席シタル評議委員又ハ社員ノ過半數ヲ以テ假リニ決議ヲ爲シ其趣旨ノ通知ヲ發シ更ニ一箇月ヲ下ラサル期間内ニ第二回ノ評議委員會又ハ社員總會ヲ招集ス第二回ノ會議ニ於テハ出席員ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス

第四十九條 當會社ノ創立費ハ金一萬圓以内トシ初年度ニ於テ償却スルモノトス

質屋取締法

明治二十八年三月
法律第十四號

- 第一條 質屋營業ヲ爲サムトスル者ハ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ支店ヲ設クルトキ亦同シ
廢業シタルトキハ行政廳ニ届出ヘシ
- 第二條 質屋ハ店舗ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス
- 第三條 質屋物品ヲ質ニ取ラムトスルトキハ質置主ニ於テ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ
- 第四條 住所、氏名ノ詳カナラサル者ヨリ物品ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但住所、氏名ノ詳カナル者其證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 質屋ハ質契約及質物處分ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
質屋ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ
帳簿、質札及通帳ノ製方及様式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
- 第六條 質屋ハ左ノ事項ヲ見易キ場所ニ揭示スヘシ
- 一 利子割合
 - 一 流質期限

一 質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方
一 質物出入時間

第七條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未ダ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシメ命ニ從ハサレハ之ヲ官沒ス

第八條 質屋ハ質物ヲ使用シ若ハ貸附スルコトヲ得ス轉質ハ必要ノ場合ニ限り命令ヲ以テ制限シ若ハ禁止スルコトヲ得

第九條 質屋ハ左ニ掲グル制限内ノ利子ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ金錢ヲ領收スルコトヲ得ス
貸金二十五錢以下ハ一箇月一錢一圓以下ハ一箇月百分ノ四、五圓以下ハ一箇月百分ノ三、十圓以下ハ一箇月百分ノ二半

本條ニ違反シタル質契約ハ其違反セル部分ニ限り無効トス

第十條 質置主ハ流質期限前ハ何時タリトモ元利金ヲ辨濟シテ其質物ヲ受戻スコトヲ得

第十一條 質屋ハ流質期限經過ノ後何時タリトモ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得

第十二條 質屋ハ何人ニ拘ラス質札又ハ通帳ヲ所持スル者ニ其ノ質物ヲ返還スルコトヲ得

第十三條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限り警察官ニ於テ必要アリト認ムルモノハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十四條 贓物ノ品觸アル時ハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ質ニ取り若ハ質物トシテ占有セル事ヲ覺知スル時ハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十五條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ十日以内ヲ限り其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十六條 質物ニシテ遺失物若ハ盜品ニ係ルトキハ警察官之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

第十七條 營業ニ關スル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 質屋法律命令ニ違反シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及ブ

第十九條 禁止ノ處分ヲ受ケタルモノハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者ノ代理人タ

ルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十條 質屋廢業シ若ハ營業ヲ禁止セラレタルトキト雖モ其ノ以前ニ成立シタル質契約及其ノ質物ニ付テハ尙ホ此ノ法律ヲ適用ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十一條 行政廳ハ何時タリトモ營業ノ禁止ヲ解クコトヲ得

第二十二條 左ニ掲グル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一第十五條ノ場合ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損シ失シタル者

二第一條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四第八條第一條第十九條ニ違反シタル者

第二十三條 第一條第二項、第二條、第三條、第四條、第五條第一項及第二項、第六條、第七條第一項、第十四條及第十七條ニ違反シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用キス

第二十五條 質屋營業上ニ就テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其ノ責ニ任ス

第二十六條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十七條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス

第二十八條 此ノ法律施行以前ニ係ル質契約ニ付テハ契約當時ノ法令ヲ適用ス

第二十九條 明治十七年第九號布告質屋取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

參照

○明治四十年三月勅令第九十五條

質屋取締法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ樺太ニ施行ス

質屋取締法細則

明治二十八年七月
内務省令第九號

七三六

第一條 質屋取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監、北海道ニ於テハ北海道廳長官、其他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ警視總監、北海道廳長官、府縣東京府ヲ除ク以下之ニ依テ知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ヲ禁止若クハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 支店ヲ設クルトキハ管理人ノ定メ行政廳ニ届出ヘシ

第三條 店舗ノ移轉營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ヘシ支店ヲ閉鎖スルトキ亦同シ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ニヨリ行政廳ニ届出ヘシ但シ死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ許免ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添附スヘシ

第四條 前二條ノ届出及廢業ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

第五條 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第六條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ説明シ行政廳ニ届出ヘシ

第七條 質札及通帳ニハ適當ノ箇所ニ質置主ノ氏名ヲ記載シ營業者又ハ支店管理人記名捺印シ質契約ヲ爲ス毎ニ貸金額、質物ノ種類、員數、番號、年月日ヲ記載スヘシ其ノ製方及様式ハ廳府縣令ヲ以テ定ムルコトヲ得

第八條 第二條、第三條第一項第二項第六條及第七條ニ違背シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 此細則ニ規定シタルモノ、外警視總監、北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

七三七

佛國ノ部

七三八

佛國質局

(一月四日抄譯「エコノミスト」フ
ラ「シセル」及「メリヤ」氏經濟字典)

動産又ハ有價證券ヲ擔保トシテ資金ノ融通ヲ與フル佛國官立質局ハ勅令ニ基キ市町村會ノ認可ヲ創立セラレ或國特ニ伊國ノ如キ多數ノ質局ヲ有スル國ト異リテ佛國ノ質局ハ創立以來多ク増設セラレス救濟院最近ノ統計(佛國統計全書一九一二年印刷局出版)ニ依レハ「リュネビル」質局ノ一九一〇年一月二十九日ノ法律ヲ以テ廢止セラレタル結果却テ其ノ數ヲ減シテ四十四局トナレリ此等ノ四十四局ハ二十六縣ニ配置セラレ二十五局ハ縣ノ主都ニ十三局ハ「アロンデスマン」ノ主都ニ六局ハ「カントン」ノ主都ニ設置セラレ巴里市質局ヲ以テ最重要ノモノトナス
左ニ質局事務ノ大要沿革及批評ノ概略ヲ記サン

(イ)事務一般、質局ニ十五法以上ノ質入ヲナサント欲スル者ハ先ツ其ノ住所及身分ヲ證明スヘキ書類ヲ提出シ殊ニ妻ハ其夫ノ許可書ヲ添付シテ質物受領書ノ交付ヲ受クヘシ、質付期間ハ或地方ニ於テハ十箇月又ハ二十箇月ト定メラレタルモノナレトモ普通ハ一箇年トス貸付割合ハ質物評價全額ヲ以テ之ヲナスコトヲ得ス六六%乃至七五%ヲ普通トシ殊ニ佛國公債ニ限りテ八〇%ノ割合ヲ以テセラル、利息ハ質局ニヨリ其率同シカラス巴里質局ニ於テハ七%ト定メラレ十日、十五日又

ハ一箇月毎ニ其ノ計算ヲナス貸付高制限ハ巴里質局ニ無之地方ノ或ル質局ニ於テハ一口六法又ハ三千法ヲ以テ最高度トナシ「アンヂエ」質局ニ於テハ僅ニ四十法ヲ以テ限度トナセリ又貸付最低額ハ一法乃至三法トス、質物ニ對スル制限亦規定セラレ例之毛皮、毛皮付衣服、軍服銃砲佛國勳章(但寶石ヲ以テ裝飾セラレタルモノハ此限ニアラス)汚濕セル衣服布類等ハ之ヲ質入スルヲ得ス質權設定者ハ質物ノ未公賣セラレサル間ハ質物受領書ヲ提出シ元利金及税金等ヲ支拂ヒ質物ヲ受出シ得ル事勿論ナレトモ、質物損廢シ或ハ他ノ質物ニ損害ヲ及ホシ若クハ減價ノ虞アル場合ノ外ハ期限ニ至リ契約ノ更新ヲナスコトヲ得、期限ニ至リ質物ノ受出シ又ハ更新ノ請求ナキ時ハ質局ハ民事裁判所ノ認可ヲ得、質物評價人ノ助力ヲ以テ之ヲ競賣ニ付ス競落代金ノ貸付金額以下ナルトキハ評價人通常其ノ損失ヲ負擔シ反之貸付金額以上ナルトキハ質權設定者ハ賣却ノ日ヨリ二年若クハ三年以内ニ此差増金額ヲ受領スルコトヲ得若シ右ノ期間内ニ償還ノ請求ナキトキハ質局若クハ慈善團ニ歸屬ス

以上ハ主トシテ動産質ニ關スル規定ノ概略ナリ其有價證券ニ對スルモノハ一八九一年七月二十五日ノ法律ニヨリ規定セラル其貸付期間ハ通常六箇月トス貸付ハ佛國公債、大藏省證券、國庫債券、質局預金證書(ポンド、ケース、デユモンドビエター)等ニ對シテハ八〇%主要鐵道證券、巴里市債、州債、クレヂーフランクスエー」債券其他ニ對シテハ七五%トス利息ハ受出又ハ更新ノ際徵求セラレ年六%トシ

七三九

十五日毎ニ其ノ計算ヲナス又貸付期間(六箇月)ニ對シテ貸付額百法毎ニ二十五仙ノ稅ヲ負擔ス貸付最高限度ハ一口五百法トス滿期利札ハ無手数料ニテ交付セラレ又買入セル證券ノ賣却ヲ請求スルコトヲ得

(ロ) 沿革及現況、質局ニ關スル法規ハ共和曆十二年兩月十六日及一八五一年六月二十四日及一八九一年七月二十五日ノ諸法律等ナリトス今其沿革ヲ探スレハ質局ノ制度ハ古ク伊國ニ於テ制定セラレ當初ハ寄附金又ハ一般ノ出資ニヨリ得タル資金ヲ無利息ニテ貧民ニ貸與スルニアリシカ其ノ後幾何ノ利息ヲ徵シ公衆ニ對スル資金融通ノ機關ト變セシヲ以テ當時金貸業者ノ反感ヲ買ヒ彼等ハ質局ヲ以テ假裝セル高利貸業ト批難セリ斯テ一五一年九月九日ニ法王「レヲオ」千世ハ勅令ヲ以テ質局ニ對シ革ニ質物管理ノ費用ニ充ツヘキ最低利息ヲ徵スヘキコトヲ命シタリ斯ノ如ク質局ハ其ノ當初ニハ救濟事業ノ性質ヲ有シ救濟院トハ密接ノ關係ヲ有セシカ其ノ後漸次分離セントスル傾向ヲ生シ一九〇四年六月二十七日ノ兒童救濟事業法ノ如キモ其資金ヲ質局ニ運用セシムルコトヲ禁シタリ又質局事業ノ監督事務官長タル「ロンドン」氏ノ言ノ如ク質局ハ全然慈善事業ト沒交渉ナル庶民銀行ノ一種トナリ殊ニ一八九一年七月二十五日ノ法律公布以來三四ノ質局ハ有價證券ニ對スル貸付ヲ爲スコトヲ得ルニ至レリ而シテ政府ハ其ノ必要ニ應シ布告ヲ以テ同一ノ利益ヲ他ノ質局ニモ及ホスコトヲ得タリ此等ノ事實ハ畢竟質局ヲ救濟機關ヨリ分離シテ獨立セル營造物タラン

トスル證左ナリ因ニ證券ノ買入ヲ取扱ヘル地方質局ノ里昂「ボルドー」「ツールーズ」「リール」ブレスト」及「ナント」等トス質局發達ノ狀況ヲ佛國統計年鑑(一九一〇年第三十卷)ニ就テ見ルニ其受拂高ハ左ノ如シ

五年間平均額單位百萬法

期 間	一八七三 一八七七年	一八七八 一八八二年	一八八三 一八八七年	一八八八 一九〇二年	一八九三 一九〇七年	一九〇三 一九〇七年	一九〇八 一九一二年
受 入	五二・八	五六・五	六一・五	六三・九	六六・九	七一・八	七四・九
拂 出	四六・八	五〇・六	五二・七	六五・一	五七・六	六二・六	六九・三

尙一九〇九年中ニ於ケル受入拂出及更新(有價證券ヲモ含ム)高ハ次ノ如シ

受 入 高 七二、二八六、六一七法
 拂 出 高 七〇、〇九五、七九七
 更 新 高 四四、四一五、〇五五

更ニ質物價格ニヨリテ受入高ヲ巴里及地方質局ニ區分スレハ下ノ如シ

價 格	品 類	數	貸 付 額	價 格	品 類	數	貸 付 額
五 法 以 下	五六一、九八六	一、七〇七、二二〇	五十一法以上百法	四九、六一四	三、六一六、七三		

五法以上十法	四七八、八三二	三、二〇〇、九九七	百一法以上五百法	三〇、六四六	六、一七、八四六
十一法以上廿五法	一七九、七三八	三、〇一二、八九九	五百一法以上千法	二、四六八	一、七九六、九五二
廿六法以上五十法	九一、四二五	三、四一三、七五一	千法以上	一、五九三	四、五三八、〇八二
小計				一、三九六、三〇二	二七、四〇四、三八一
		「セーヌ州」	有價證券	二六、九五六	六、五〇六、四五〇
		同	動産	九五四、四〇八	三八、三七五、七八六
			總計	二、三七七、六六六	七二、二八六、六一七

由是觀之巴里質局ノ地方質局ニ比シ如何ニ盛大ナルカラ知ルヘシ尙巴里市統計年鑑ニヨレハ一九一〇中ニ於ケル其貸付高ハ動産三千八百五十九萬八千五百二十九法(前年ニ比シ二二、七四三法増)ニシテ有價證券ハ六百四十二萬三千九百九十四法(前年ニ比シ八二、四五六法減)ヲ算シ證券ニ對スル平均貸付高ハ平均二百四、五十法ナリトス而シテ同年末日ニ於ケル有價證券ヲ見ルニ巴里市債最多クシテ其五五、五%ヲ占メ「クレデーフランシエ」債ハ三二、三%ヲ外國證券ハ四、五%ヲ鐵道證券ハ三、八%ヲ佛國公債ハ三、八%ヲ存セリ

(ハ)批評、質局ノ制度ニ付改良ヲ加フヘキ點固ヨリ有之ヘシト雖モ玆ニ改善スヘキ弊害トシテ記載セラル、モノハ第一ニ貸付ニ際シ評價ノ酷ナルコト蓋シ評價人ハ質物競賣ノ場合ニ其差減額ヲ負擔

スヘキヲ以テナリ次ニ差増額ノ生シ得ヘキ場合ナルトキハ評價人ハ利益關係ナキヲ以テ自然競落代金ノ廉價ニ過グル傾向アルコト質物受領書ニ關スル改良等之ナリ此等ノ宿弊ハ固ヨリ矯正ヲ要スト雖モ之アルカ爲メニ質局ノ效用ヲ没却スルハ早計ニ失スト云ハサル可ラス

貨幣トシテノ銀ノ復活

(エコノミスト、イユロペーン、三月號所載)

雜誌、鑛山冶金通報ニ「ラーランド」氏ハ銀ノ復活テフ表題ヲ以テ興趣アル論文ヲ記載セリ今之ヲ拔萃シテ左ニ掲ケン金ノ收約的產出及產額上一九一二年ハ新記錄ヲナセルニ拘ハラス當今諸國ニ於テ市場ヨリ金ノ其跡ヲ收メツ、アルハ全ク新奇ノ事項ナリトス

近來諸國ノ銀行ニ於テ金貨收納高ハ未曾有ノ比例ヲ以テ増進シ英蘭銀行ヲ始メトシ、佛蘭西、獨逸、露西亞其ノ他ノ中央銀行ハ戰時ニ備ヘンカ爲メニ金貨ヲ吸收シ銀貨ハ放出セラレテ殆ント金貨ナキ時代ニ於ケルカ如ク轉々シツ、アルナリ

金ヲ稀薄ナラシムルニ助成セシ他ノ現象ハ英領印度カ自由貿易主義ヲ探レリ英本國政策上ノ誤謬ニ依テ金單本位國トナリ常ニ本國ニ向テ巨額ノ債權ヲ有シ且ツ金貨「ツブレイン」ヲ以テ法貨トナセシコト之ナリ即チ同殖民地ハ此ノ如ク母國ノ經濟ヲ枯渴セシメツ、アルナリ

次ニ世人ノ唱フル如ク支那共和國ニシテ日本ヲ模倣シ奇怪ナル其弊制ヲ改革シテ金貨本位國トナラン

カ茲ニ通貨上ノ災害ヲ惹起スルニ至ルヘシ斯ノ如ク三億ノ印度人ノ四億ノ支那人換言スレハ地球上ニ生存セル人類ノ半ニ該當セル人類カ黄金ノ獲得ニ腐心シ或ハ商品ノ輸出ニ由テ之レヲ吸收センカ世界ノ金庫ハ爲メニ空虚トナルニ至ルヘシ

此等ノ事實ハ漸次出現スヘキ事言フ俟タサルモ其端緒ハ既ニ開カレタリ

又此等ノ事項ニ就キテハ「メリーン」エドモンテリー「兩氏ヲ始メ佛國復本位論者又英國ニ於ケル著名ナル復本位論者」バルフア「氏竝ニ余輩ノ參集セシ「ギルドホール」ノ會議ヲ追想セシム當時余輩ハ宏大ナル倫敦市公會堂ニ於テ英國側代表者ノ冷靜ナル辯舌然モ氏特有ノ沈著ナル態度ヲ以テ諄々説明セルヲ見タリ其ノ一節ヲ擧グレハ左ノ如シ

金ノ交換媒介ノ具トシテ人類ノ需要ヲ滿スニ全然不十分トナルノ日ハ早晚到來スヘシ

金礦ハ無限ニ供給ヲ爲サ、ルヘク或ハ産額ノ低減、或ハ世界的消費ノ増加（現今既ニ之ヲ見ル）アルヘシ而シテ唯一且ツ代用シ難キ缺點アル國際交換ノ具ハ財界ヨリ奪取セラルヘシ果シテ然ラハ如何ナル騷擾ヲ發生スルニ至ランカ否吾人ハ能ク銀ヲ以テ之レヲ阻止スルコトヲ得ヘシ即チ吾人ハ通貨ノ安全辦タル銀貨本位ヲ維持シテ之レニ備ヘサル可ラス云々

世人ハ「バルフア」「メリーン」及「エドモン、テリー」氏等ノ言ヲ容レス、然モ世人ハ現今交換ノ媒介物トシテ舊來ノ金銀比價一對一五^ニヲ以テ銀ヲ保存スルモノハ獨リ我隣邦四國ノ拉丁同盟ニシテ且

ツ貨幣問題上戰爭及現時ノ財界ノ危懼ニ對シテ比較的完全ノ地位ニアルモノモ亦該同盟ノミナルコトヲ認メン

終リニ臨ミ「フリーラント」氏ハ斷定シテ曰ク吾人ハ恐ク銀カ從來ノ代價金一銀一五^ニヲ棄テ金一銀一六一八、若クハ二〇ノ比價ヲ以テ復活スル日ノ遠ラス到ランコトヲ信ス略言セハ銀ハ再ヒ往時ノ任務ヲ復シ斯テ之ニ依テ世界的安寧ヲ保持スル事ヲ得ヘシト

千八百五十一年ノ法律左ノ如シ

第三千八十九號

第一章

第一條 公設質屋ハ此等ノ設備ニ對シテ定メラレタル形式ニ從ヒ市町村會ノ協賛ヲ經大統領ノ布告ニヨリ公益ノ爲ニ設立セラル

第二條 公設質屋理事會ハ市長之カ議長トナル巴里市ニ於テハセーヌ縣知事之カ議長トナル理事ハ無給トス理事ハ巴里市ニ於テハ内務大臣之レヲ任命シ他縣ニ於テハ知事之ヲ任命ス理事ノ三分ノ一ハ市會議員中ヨリ他ノ三分ノ一ハ慈惠院理事中ヨリ其ノ他ハ設立地ニ籍ヲ有スル公民中ヨリ之ヲ選ム理事ノ三分ノ一ハ毎年改選セラレ解任者ハ再任ヲ妨ケス
理事會ノ編成及經營ニ關スル特別規定ハ大統領ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム

公設質屋カ其ノ長或ハ支配人ノ必要ヲ認ムルトキハ理事會ノ推薦ニヨリ内務大臣若ハ知事之ヲ任命ス前項ノ者カ辭任ヲナシ内務大臣或ハ知事之カ理由アリト認メタルトキハ理事會ハ他ノ候補者ヲ推薦スヘシ

公設質屋長及支配人ハ巴里市ニ於テハ内務大臣地方ニテハ知事之ヲ任免ス

公設質屋ノ會計方式ハ一般ノ慈善的機關ノ規定ニ準ス

第三條 公設質屋ノ財産ハ左ノモノヨリ成ル

一、設立ニ充用サレタル動産並ニ不動産ニシテ現ニ所有權ヲ有シ或ハ將來ニ之ヲ得ヘキモノ

殊ニ寄附或ハ遺贈ヨリ成ル動産並ニ不動産

二、毎年ノ損益計算書ニ表ハサレタル純益及第五條ニ規定サレタル預金ヨリ生スル利益

三、市又ハ政府ノ財産ヨリ支辨サレタル補助金

第四條 公設質屋ノ事業ハ左ノ資金ヲ以テ之ヲ營ム

一、使用シ得ヘキ資金

二、借入金並ニ借入資金ヨリ生スル利子

借入條件ハ内務大臣或ハ知事ノ承諾ヲ經理理事會之ヲ定ム

第五條 公設質屋ハ其資産ヲ調製シ且之ヲ増加セシメンカ爲命令ニヨリテ規定サレタル制限内ニ於テ

收入ノ剩餘ノ全部又ハ一部ヲ貯フ

資産増加シ法定利率五分以下ノ利息ヨリ得ル金額ヲ以テ十分諸費ヲ支辨シ得ルニ至ラハ支出ノ殘餘

ハ市町村會ノ意見ヲ徵シ知事ノ示達ニヨリ之ヲ救濟院或ハ慈善病院等ニ寄附ス

第六條 行政命令ニヨリ公設質屋ノ信用シ得ヘキ取次ヲ業トスル者ノ監督並ニ組織ニ關スル規定ヲ補フコトヲ得

第七條 入質者ハ公設質屋ノ規定ニヨル質物販賣期到來シタル時又ハ入質後三箇月ノ日子ヲ經タル後

ハ質物領收證ニ記載サレタル期限前ト雖モ質物ノ販賣方ヲ請求スルコトヲ得

質物賣却ヨリ得タル金額ハ遲滞ナク正規ノ利息及雜費ヲ引去リ入質者ニ交付スヘシ

入質ノ新商品ハ入質後一箇年ノ期限ヲ經ルニアラサレハ賣却スルコトヲ得ス

第八條 公設質屋ノ債務證書、質物領收證又ハ經營上發行セル證券等ハ總テ登録稅及印紙稅ヲ免除ス

第二章 施行法

第九條 第一章ニ定メタル規定ハ明ニ公設質屋ノ要件ヲ具備セル既設ノ設備ニ對シテモ直ニ之ヲ適用ス

第十條 本法ノ規定ハ第八條ヲ除キ眞ノ慈善ヲ目的トシ特種ノ寄附財産ニヨリ無利子又ハ法定最下ノ利率ニテ貸付ヲナス設備ニ對シテハ之ヲ適用セス是等ノ質屋ハ政府ノ認可ヲ得タル規程ニ支配サル

ルコトヲ要ス

七四八

第十一條 他ノ法令ニシテ本法ニ牴觸スルモノハ其效ナシ

(千八百五十一年ノ法律)

備考 佛國預金局ノ放資中巴里公設質屋發行ノ *Band* アルヲ以テ見レハ債券發行ノ權ヲ認メラル、
モノ、如シ

佛國ポリニイ信用組合定款

一、組 織

第一條 本組合ハポリニイ郡相互信用組合 (*The Co-operative Society of Mutual Credit of the Arrondissement of Poligny*) ト稱シポリニイ農業組合員ヲ以テ組織シ不定ノ資本金額ヲ有スル生産消費相互信用組合ナリ

ジュラ (*Jura*) ノ農業組合聯合會ノ一部タルジュラ組合以外ノ組合員ハ本組合ニ屬スルコトヲ得

本組合ノ目的左ノ如シ

一、基本組合員 (*Members*) 及年賦贖金ヲ支拂フ普通組合員 (*Associates*) ノ爲メニ生産品及家畜等各種ノ物品ノ購求販賣ヲナスコト

二、正實且生産的ノ農業者ニ對シテ貸付割引等ノ方法ヲ以テ之ニ補助ヲ與ヘ且ツ之カ爲ニ貯蓄ノ設備ヲナスコト

本組合ハ一切ノ投機事業及組合員ニアラサルモノニ對スル一切ノ貸付割引ハ絶對ニ之ヲ禁止ス

凡ソ預金ハ組合ニ對スル貸金トシ之ヲ當座勘定ニ置キ預金者ニハ通帳ヲ交付ス

本組合ノ存立期限ハ二十年トシ本部ヲ *Sains* ニ置ク

七四九

二、資本金及株式

第二條 本組合ノ資本金ハ八百磅トシ一株ノ金額ヲ二十磅總株式ノ數ヲ四十箇トシ此株式ヲ基本的株式 (founder's shares) ト稱ス

右資本金額ハ前項ノ株式ト同額ノ株式若ハ一箇ノ金額ニ磅ノ分數的株式ヲ發行シテ八千磅迄増資スルコトヲ得但其分數的株式ハ後ニ加入スル普通組合員 (ordinary members) 之ヲ引受クルコトヲ得

第三條 資本金額ハ之ヲ増加シ若ハ釀出株金ノ全部又ハ一部ノ引出ニヨリテ減少スルコトヲ得但二百磅ヲ下ルコトヲ得ス

増資ヲ決議スル總會ハ之ト同時ニ新株發行ノ條件及特ニ準備金ニ繰入ル、モノトシテ各新加入者カ拂込ムヘキ金額ヲ決議スヘシ

基本的株式ハ其所有者ノ死亡若ハ組合ノ解散ノ時ニアラサレハ之ヲ拂戻サ、ルモノトス

第四條 株式又ハ分數的株式ハ千八百六十七年ノ法律第五十條ノ規定ニヨリ拂込濟ト雖モ全ク專屬的

ニシテ唯組合ノ帳簿ニ於ケル振替ニヨリテ讓渡スコトヲ得ルノミ

組合ハ根本的ニ人的結合ナルヲ以テ株式ノ振替ハ取締役會ノ承諾ヲ必要トス

取締役會ハ其振替カ如何ナル形式ニシテ如何ナル理由アリト雖モ常ニ之ヲ拒絕スルコトヲ得

第五條 死亡株主ノ相續人中其一人カ死者ノ代表者ナリトシテ取締役會ノ承諾ヲ得ル迄ハ組合員トシテ認メラル、コトヲ得ス

若シ代表者選定セラレサルトキハ相續人等ハ株式金額ノ拂戻ヲ受クルノ權アリ但定款第十條ニ定メラレタル形式及時期ニ限ル

法律上ノ用語ノ意味ニ於ケル無能力者又ハ不在者及一箇又ハ數箇ノ株式ノ不分割的共有組合員 (undivided co-operators) ノ場合又同シ

第六條 株主ハ左ノ二種トス

一、本組合ヨリ貸付ヲ要求スルノ權利ヲ拋棄シタル者之ヲ基本的組合員 (Actionaries Roundabouts) ト云フ

二、本組合ヨリ借入金ヲナスノ權ヲ拋棄セセサル者之ヲ普通組合員 (Actionaries Societaires) ト云フ此第二ノ階級ハ貸付ヲ要求スル唯一ノ權利ヲ有ス

第七條 株主ハ其引受ケタル株式ノ金額ノ範圍ニ於テノミ責任ヲ負フ

第八條 各普通組合員ハ營業年度ノ初ヨリ六箇月内ニ取締役會長ニ組合脱退ノ通知ヲ爲スコトヲ得

第九條 組合ノ爲ニ忠實ニ其義務ヲ盡サ、ル者若ハ支拂能力又ハ德義上疑ヲ生スル行爲アルコトヲ證セラレタル者アルトキハ取締役會ハ總會ニ於テ其除名ヲ提議ス

信用組合ハ農業組合員ノミヲ以テ其組合員タルコトヲ許可スルヲ以テ農業組合ヲ脱退スルモノハ之ニ依リテ自ラ本組合員タル資格ヲ失フ

總會ハ斯ル事件ニ對シテハ最後ノ發言權ヲ有ス

資本金額カ二百磅ノ最少限度ニ減少セラレタル場合ニ於テ組合ヨリ除名セラル、株主アルトキハ最近ノ發行ニ係ル株式ノ割合ヲ以テ其株式ヲ第三者ニ振替フヘシ

第十條 脱退シ又ハ除名セラレタル組合員ノ拂込濟ノ株式ハ決算報告ニ關スル總會ノ承認ヲ得テ之ヲ拂戻スコトヲ得

然レトモ取締役會ハ何時ニテモ前年度ノ決算ニ於ケル株式價額ノ半額ヲ支拂フコトヲ得

脱退者及除外サレタル者ハ積立金ノ分與ヲ請求スルノ權ナシ

組合員カ其株式ニ對シテ拂込ミタル金額ハ其組合ニ負フコトアルヘキ凡テノ債務ノ擔保ノ目的タルヘキモノニシテ組合ニ對スル其凡テノ責任カ解除セラル、迄ハ拂戻ヲナサスシテ其債務ニ對スル差引額トシテ貸方勘定ニ記載ス

如何ナル場合ニモ組合員ノ債權者ハ組合ノ債務カ辨濟セラル、迄ハ前項ノ金額ニ對シテ請求ノ權ナシ

第十一條 組合ニ對スル負債ニシテ訴訟中ニ在ルモノハ決算ニ於テハ過去ノ負債トシテ滯貸ノ中ニ整

理ス

三、經營

第十二條 組合ハ基本株主 Founders 中ヨリ選任セラレタル六人乃至十二人ヨリ成ル取締役會之ヲ處理ス

前項ノ株主ノ所有株券ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス組合ノ封緘印ヲ捺シテ金庫ニ保管ス

第十三條乃至十六條 總會ニヨル取締役ノ選任缺員ノ補充、取締役ノ責任ノ制限及取締役會ノ規則

第十七條 取締役會ハ法律又ハ定款ニ留保セラレサル一切ノ事件ヲ組合ノ爲ニ總會ニ提議ス

取締役會ハ組合員ノ加入ヲ許シ其除名ヲ提議シ組合員ニ對スル前貸金ノ最高額辨濟ノ期限及預金事務ノ整理預金者ニ對シテ支拂フヘキ利子等ヲ決定シ各種ノ報告書、計算書ヲ起草シ又ハ起草セシメ法律上必要ナル又ハ検査役及總會ニ提出スヘキ報告又ハ證據書類ヲ調製ス

取締役會ハ基本株主ノ引受ケタル株式ノ金額ヲ限度トシテ擔保付若ハ無擔保ニテ貸付ノ契約ヲナシ金庫ニ預金ヲナシ又ハ之ヲ引出シ有價證券ノ讓渡又ハ交換ヲナシ土地又ハ家屋ノ貸付ヲナシ動産ノ賣買ヲナシ貸付金ノ廻收ヲナシ辨濟金ヲ受取り被告又ハ原告トナリ和解ヲナシ仲裁ヲナシ剩餘金ノ放資ノ決定等ヲナス

第十九條 取締役ハ無報酬トス

取締役會ニ於テ支配人ヲ選任スル場合ニ於テハ其支配人ハ取締役會ノ決シタル額ノ報酬ヲ受クルコトヲ得

七五四

四、監査委員(監査役又ハ計算監査役)

第二十條 總會ハ有給又ハ無給ノ一人又ハ數人ノ委員ヲ選任ス委員ハ銀行ノ情況、貸借對照表及取締役ヨリ提示サレタル計算ヲ總會ニ報告スルノ義務アリ
委員ハ法律ニ依テ授ケラレタル一切ノ權利ヲ行使ス
必要ト認ムル場合ニハ總會ヲ招集スル特權ヲ有ス
總會カ是等ノ役員ヲ任命スルコトヲ略シ又ハ役員ノ一人若ハ全部カ其勤務ヲ拒ミ又ハ勤務ヲナスコト能ハサルトキハ商事裁判所長ハ之等關係者ノ請願ニヨリ且取締役ニ相當ナル通知ノ後斯ル任命ニ關シテ命令ヲ爲スコトヲ得

五、總會

第二十一條乃至第二十八條(總會ノ招集及總會ノ義務等ニ關スル規定)

少クトモ總會ノ日ノ三箇月前ヨリ株式ヲ有スル現實ノ株主ノミカ議決權ヲ行使スルコトヲ得
一株以上五株以下ニ對シテハ一箇ノ議決權ヲ與フ
通常總會ニ於テハ少クトモ總拂込資本金ノ四分ノ一ニ當ル株主ノ出席ヲ必要トス若シ此頭數不足ナルトキハ少クトモ八日ノ期間ヲ置キ通告ノ後更ニ總會ヲ招集スヘシ
右ノ第二ノ總會ハ第一回ノ總會ニ對シテ通告セラレタルト同一ノ議案ヲ討議スルニ於テハ出席頭數ノ如何ニ拘ラス有效ナリ
特別總會ニ於テハ定款ノ變更及組合ノ解散ノ提案ノミヲ議決スルモノニシテ資本金額ノ半數ヲ代表スル社員ノ出席ヲ必要トシ解散ハ出席議決權ノ三分ノ二ノ同意ヲ要ス

六、貸借對照表及利益

第二十九條 (毎年度ノ貸借對照表ニ就キ規定ス)
第三十條 毎年純益中準備金ヲ積立テ殘餘ハ之ヲ株式ノ額ニ應シテ株主ニ分配ス
基本組合員ハ三分以上ヲ受取ルコトヲ得ス
普通組合員ニ對シテ配當シ得ヘキ額カ五分ヲ超ユル時ハ取締役會ハ其剩餘金中ヨリ組合員ノ利益ノ爲ニ任意ニ處分セラルヘキ特別準備金ヲ設クル權ヲ有ス

七五五

七、準備金

第三十二條 配當金額ノ確定前準備金確定ノ爲ニ總會ニテ決定セラルヘキ金額ヲ一年ノ純益金中ヨリ
控除スヘシ

此控除スヘキ金額ハ公稱資本金額ノ四分ノ一ニ達スル迄ハ純益金ノ五分ヲ下ルコトヲ得ス
準備金ノ用途ハ取締役會之ヲ定ム

(其他ノ條文ハ解散訴訟等ニ關スル規定ナリ)

公設質屋 (佛蘭西)

(バルグレーツ經濟學書
中ヨリ抄譯(法文ハ別))

附公設質屋法

公設質屋 Monts de Piété

此制度ハ元伊太利ノ小邦カ其市民ニ對シテ強制的貸付ヲ強用シ之ニ對シテ一定ノ利子ヲ支拂ヒ此借入
金ヲ Mons (積立)ト名ケ慈善ノ目的ニ使用シタリ、Montes Pietatis 名之ヨリ始マル

後十五世紀ノ頃伊太利ニ於テ設ケラレタル質物ニ對スル慈善的貸付財團ニ對シ此名ヲ付シ、當時ノ「フ
ランシス」派ノ僧侶大ニ之ヲ辯護シ之ニ對スル寄附者ニハ種々ノ獎勵の特權ヲ與ヘタリ、然レトモ十
分ノ資金ヲ得ルニ足ラス遂ニ適度ノ利子ニテ預金ヲ受入レ其利子ノ幾分ヲ徴シ以テ經營費ノ一小部分
ヲ償ヒタリ。此ニ於テ「ドミニック」派ハ高利ヲ獎勵スルモノナリトノ論據ヲ以テフランシス僧派ト激
烈ナル論争ヲ始メタリ、然レトモレオ第十世及ラテランノ委員ハ之ヲ正當ナリト認メタリ、爾來伊太
利ノ Monti di pietà ハ主トシテ宗門ノ支配ノ下ニ左リ法皇ノ確實ナル保護ヲ受ケ殊ニ羅馬ノ Monts ハ
銀行ノ性質ヲ帶ヒ著シキ財産ヲ有スルニ至レリ

佛國ニ於テハ「ルイ」十三世及「ルイ」十四世ノ企圖ハ失敗ニ歸シタルモ年月ヲ經過スルニ從ヒ此制度ハ
自然的ノ發達ヲナシタリ、即千五百七十七年ノ末ニ至リ從來羅馬法皇ノ領地ナリシアヴキニオン (A-

vignon) 市ニ設置セラレ千七百九十五年ノ革命ノ時迄存立シタリ、千七百七十七年教育所(Hospitals)ノ所長ハ巴里ニ於テ動産質貸付ノ爲メニ店舗ヲ設クルノ特權ヲ與ヘラレ彼等ハ年一割ノ利ヲ以テ貸付ヲ爲シタリシカ、千七百七十七年ヨリ千七百八十九年迄一年ノ貸付金額平均八百萬「スターリング」ニ上レリ、後國民議會ハ遂ニ此營業ノ自由ヲ宣布シタリシカ第一革命ノ擾亂ノ爲メニ廢止セラレタリ千七百九十七年執政内閣ハ更ニ Mont de piété ヲ開始セシメンカ爲ニ五人ノ理事ヲ任命シ資本金二萬磅ヲ以テ設立セシメタリ、而シテ其貸付金ニ對シテ一箇月三分ノ利ヲ徵セシヲ以テ大ニ其繁昌ヲ來シタリ而シテ其信用ヲ以テ長期ノ資金ヲ調達シ以テ其貸付利子ヲ漸次引下ケ一箇年一割二分トセリ、千八百四年那破烈翁ハ巴里 Mont de piété ノ株式全部ヲ拂込ミテ之ヲ買取り斯ル取引ノ獨占的公設機關トナセリ

千八百四十年迄ハ二十四人ノ委員アリテ遠隔地ノ人ノ爲ニ仲次ヲナセシカ支店ノ設置ト共ニ廢止セラレタリ

今日ニ於テハ佛國主要ノ都會ニ於テハ此種ノ機關ヲ見ルコトヲ得、千八百五十一年ノ法律ノ下ニ都市委員會ノ免許ヲ要シ有給ノ理事ハ理事會ノ補助ヲ受ケテ運轉ノ任務ヲ司リ理事會員中無給ノモノハ府縣知事ニヨリテ任命セラレ市長之カ會長トナル

總益金中ヨリ必要ナル資金ノ調成ニ要スルモノ及經營費ヲ除キ其殘餘中府縣知事ノ定ムル金額ヲ教育

所其他ノ慈善的機關ニ支拂ハサルヘカラス。而シテ贈與及遺贈ヲ受クルノ權アリ

貸付ノ契約ハ Reconnaissance ト稱スル質物領收證ヲ以テ確證セラレ、質物ノ價格ハ官選評價人等ノ連帶責任ヲ以テ定メラル質物領收證ハ之ヲ讓渡スコトヲ得其結果價額ノ低下ヲ來シ賣買上種々ノ弊ヲ生スルニ至レリ。

約定期限(普通一年)ノ終ニ於テハ質物ハ受戻サル、カ又ハ更ニ其契約ヲ更新セサルヘカラス然ルニ此手續ヲ爲サ、ルトキハ質屋ハ質物ヲ競賣ス質主ハ質物ノ競賣ニヨリテ質屋カ得ヘキコトアルヘキ利益ニ對シテハ二年間ノ請求權ヲ有ス質主ハ又三箇月ノ終ニ於テ其入質シタル物ノ賣却ヲ請求スル事ヲ得千八百九十四年以來株券、債券、公債等ノ質物ニ對シテ巴里公設質屋ノ貸出シタル額ハ他ノ四十一ノ地方公設質屋ノ總貸出高ヲ超過シ後者ハ一年一百萬磅ナルニ對シ前者ハ一百四十萬磅ナリトス
Monts de piété ハ預金ヲ受入レ二分乃至三分ノ利子ヲ付シ貸出ニ對シテハ手数料ヲ併セテ七分ノ利ヲ徵ス

千八百五十一年ノ法律左ノ如シ

第三千八十九號 Monts de piété 法

第一章

第一條 公設質屋ハ此等ノ設備ニ對シテ定メラレタル形式ニ從ヒ市町村會ノ協賛ヲ經大統領ノ布告ニ

ヨリ公益ノ爲ニ設立セラル

第二條 公設質屋理事會ハ市長之カ議長トナル

巴里市ニ於テハセーヌ縣知事之カ議長トナル

理事ハ無給トス

理事ハ巴里市ニ於テハ内務大臣之ヲ任命シ他縣ニ於テハ知事之ヲ任命ス理事ノ三分ノ一ハ市會議員中ヨリ他ノ三分ノ一ハ慈惠院理事中ヨリ其他ハ設立地ニ籍ヲ有スル公民中ヨリ之ヲ選ム

理事ノ三分ノ一ハ毎年改選セラレ解任者ハ再任ヲ妨ケス

理事會ノ編成及經營ニ關スル特別規定ハ大統領ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム

公設質屋カ其長或ハ支配人ノ必要ヲ認ムルトキハ理事會ノ推薦ニヨリ内務大臣若ハ知事之ヲ任命ス前項ノ者カ辭任ヲナシ内務大臣或ハ知事之カ理由アリト認メタル時ハ理事ハ他ノ候補者ヲ推薦スヘシ公設質屋及支配人ハ巴里市ニ於テハ内務大臣、地方ニテハ知事之ヲ任免ス

公設質屋ノ會計方式ハ一般ノ慈善的機關ノ規定ニ準ス

第三條 公設質屋ノ財産ハ左ノモノヨリ成ル

一、設立ニ充用サレタル動産並ニ不動産ニシテ現ニ所有權ヲ有シ或ハ將來ニ之ヲ得ヘキモノ
殊ニ寄附或ハ遺贈ヨリ成ル動産並ニ不動産

二、毎年ノ損益計算書ニ表ハサレタル純益及第五條ニ規定サレタル預金ヨリ生スル利益

三、市又ハ政府ノ財産ヨリ支辨サレタル補助金

第四條 公設質屋ノ事業ハ左ノ資金ヲ以テ之ヲ營ム

一、使用シ得ヘキ資金

二、借入金並ニ借入資金ヨリ生スル利子

借入條件ハ内務大臣或ハ知事ノ承諾ヲ經理理事會之ヲ定ム

第五條 公設質屋ハ其資産ヲ調成シ且之ヲ増加セシメンカ爲命令ニヨリテ規定サレタル制限内ニ於テ收入ノ剩餘ノ全部又ハ一部ヲ貯フ

資産増加シ法定利率五分以下ノ利息ヨリ得ル金額ヲ以テ十分諸費ヲ支辨シ得ルニ至ラハ支出ノ殘餘ハ市町村會ノ意見ヲ徵シ知事ノ示達ニヨリ之ヲ救濟院或ハ慈善病院等ニ寄附ス

第六條 行政命令ニヨリ公設質屋ノ信用シ得ヘキ取次ヲ業トスル者ノ監督並ニ組織ニ關スル規定ヲ補フコトヲ得

第七條 入質者ハ公設質屋ノ規定ニヨル質物販賣期到來シタル時又ハ入質後三箇月ノ日子ヲ經タル後ハ質物領收證ニ記載サレタル期限前ト雖モ質物ノ販賣方ヲ請求スルコトヲ得
質物賣却ヨリ得タル金額ハ遲滞ナク正規ノ利息及雜費ヲ引去リ入質者ニ交付スヘシ

入質ノ新商品ハ入質後一箇年ノ期限ヲ經ルニアラサレハ賣却スルコトヲ得ス

第八條 公設質屋ノ債務證書、質物領收證又ハ經營上發行セル證券等ハ總テ登録稅及印紙稅ヲ免除ス

第二章 施行法

第九條 第一章ニ定メタル規定ハ明ニ公設質屋ノ要件ヲ具備セル既設ノ設備ニ對シテモ直ニ之ヲ適用ス

第十條 本法ノ規定ハ第八條ヲ除キ眞ノ慈善ヲ目的トシ特種ノ寄附財產ニヨリ無利子又ハ法定最下ノ利率ニテ貸付ヲナス設備ニ對シテハ之ヲ適用セス是等ノ質屋ハ政府ノ認可ヲ得タル規程ニ支配サルルコトヲ要ス

第十一條 他ノ法令ニシテ本法ニ牴觸スルモノハ其效ナシ

(千八百五十一年ノ法律)

備考 佛國預金局ノ放資中巴里公設質屋發行ノ *Bonns* アルヲ以テ見レハ債券發行ノ權ヲ認メラル、モノ、如シ

大正六年六月二十日印刷

大藏省銀行局

東京市京橋區宗十郎町十五番地

印刷者 阿部節治

東京市京橋區宗十郎町十五番地

印刷所 東京國文社

326
258

終